

年 報

(平成 31 年度/令和元年度)

2019



社会医療法人大成会
FUKUOKA KINEN HOSPITAL

福岡記念病院理念

地域住民が求める安全で信頼される医療を行う

基本方針

患者様中心の医療

患者様の人格・権利を尊重します
診療内容を説明し、納得された医療を行います

適切な医療水準

専門知識・技術の習得に努め、診療の質を高めます
根拠・医の倫理に基づいたチーム医療を行います

地域との積極的な連携

医療連携を図り、地域の健康増進に寄与します
地域救急医療の中心的役割を担います

目次

福岡記念病院理念

目次

沿革

病院の年表	1
施設の概況	
許可病床数／診療科及びその他部門／定例会議／委員会	4
施設基準等承認・届出事項	5
建物の概要／配置図	7
福岡記念病院組織図	8
病院職員数	9
登録医療機関	10

活動報告

診療科	15
看護部	38
薬局	41
放射線科	42
リハビリテーション科	43
臨床検査科	44
感染制御部	45
医療安全管理室	56
栄養サポート室	63
地域医療連携室	64
福岡記念 PET・健診センター	66
臨床研修管理委員会	68
屋内消火栓操法大会	69

医療統計

初診患者数	70
診療科別延外来患者数	71
病棟別新入院患者数／病棟別延入院患者数	72
紹介患者数／逆紹介患者数	73

編集後記

	74
--	----

沿革

1959年（昭和34年）	大塚外科医院を開設する
1964年（昭和39年）	医療法人大成会を設立する
1965年（昭和40年）	福岡記念病院に名称変更する 病床数156床に増床する 外科、内科、胃腸科、小児科、整形外科、肛門科を開設
1967年（昭和42年）	救急告示に指定
1977年（昭和52年）	第2期増築（鉄筋コンクリート造地下1階地上5階、病床数220床、 総床面積6,734㎡（現南館）） 脳神経外科、産科、婦人科を開設
1979年（昭和54年）	オーダーリングシステムの導入を行う
1989年（平成元年）	社団法人全日本病院協会より日帰り人間ドック実施病院の指定を受ける
1992年（平成4年）	社団法人日本医療法人協会より健康審査機関の認定を受ける
1993年（平成5年）	本館完成（鉄筋コンクリート造7階建て、総床面積6,454㎡） 南館改築完了（立体駐車場40台、総床面積10,921㎡） トータルオーダーリングシステム導入（IBM）を行う
1995年（平成7年）	一般社団法人日本病院会より優良短期人間ドック施設指定を受ける
1998年（平成10年）	開放型病院 施設基準を取得する 公益財団法人日本医療機能評価機構の定める一般病院種別Bに認定される 脳死による臓器提供病院に認定される
1999年（平成11年）	総合リハビリテーション施設基準を取得 レクセルガンマナイフ設置完了
2000年（平成12年）	循環器科を開設する
2002年（平成14年）	急性期特定加算（急性特定）第5号施設基準を取得 眼科、形成外科、美容外科を開設する
2003年（平成15年）	精神科、耳鼻咽喉科を開設する
2004年（平成16年）	管理型臨床研修病院に指定される 新制度下の臨床研修を開始する
2005年（平成17年）	電子カルテの導入を行う
2006年（平成18年）	DPC対象病院になる 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設になる 日本麻酔科学会麻酔科認定病院になる 日本感染症学会認定研修施設になる 一般病棟入院基本料7対1入院基本料施設基準を取得する
2007年（平成19年）	福岡中央総合健診センター開設、PET/CT設置完了 全国健康保険協会 生活習慣病予防健診指定を受ける 言語聴覚療法室設置完了 救急救命士による気管挿管実習病院に指定される 日本内科学会認定医制度教育関連施設となる
2008年（平成20年）	8階建の管理棟（延床面積2,693㎡）を増築 社会医療法人の認定を受ける インドネシア人・フィリピン人看護師候補者受入機関の認定を受ける 病院機能評価 Ver.5へ更新する

2009年（平成21年）	<p>厚生労働大臣指定「臨床修練指定病院」の指定を受ける</p> <p>I C U ・ C C U（南館3階、6床）を開設</p> <p>「日本形成外科学会教育関連施設」として認定を受ける</p> <p>「化学療法室」の設置完了</p> <p>島津製作所製 床置き血管撮影装置「BRANSIST Safire」へ更新</p> <p>院内助産所・レディースフロア（南館5階、15床）開設</p> <p>助産師外来を開設する</p> <p>百道寮（24室）完成</p>
2010年（平成22年）	<p>脳神経外科・整形外科にて「治験」開始</p> <p>「院内がん登録」開始</p> <p>正面入口に救急車待機場所施工</p>
2011年（平成23年）	<p>日本救急医学会救急科専門医指定施設として指定を受ける</p> <p>細菌検査室・病理検査室設置</p> <p>福岡県災害拠点病院に指定される</p> <p>3日間発電可能（連続運転）な自家発電機を新設する</p>
2012年（平成24年）	<p>南館耐震補強工事を行う</p> <p>臨床検査科、病理診断科を開設</p> <p>栄養サポート室設置</p> <p>電子カルテシステムの更新（富士通）を行う</p> <p>心臓血管外科、呼吸器内科開設（全32科）</p> <p>日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設として指定を受ける</p> <p>320列C Tの導入を行う</p> <p>「玄界診療所」医師派遣協力病院となる</p> <p>ガンマナイフ機器更新</p> <p>「日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設」として認定を受ける</p> <p>指定自立支援医療機関指定「心臓脈管外科に関する医療」</p> <p>タイ「バンコク病院」と提携契約を結ぶ</p> <p>DMA Tチーム養成を実施</p> <p>血管外科を開設（全33科目）</p>
2013年（平成25年）	<p>結石破碎装置更新を行う</p> <p>「藤田産婦人科医院」開設</p> <p>「A i 撮影参加施設」として認定を受ける</p> <p>福岡県へき地医療拠点病院に指定される</p> <p>「災害医療」、「へき地医療」の業務を開始</p> <p>救急外来改修</p> <p>血管造影装置増設を実施</p> <p>病院機能評価訪問審査「一般病院 Ver. 1.0」として認定を受ける</p> <p>病院機能評価付加機能「救急医療機能 Ver. 2.0」として認定を受ける</p> <p>「日本糖尿病学会認定教育施設」として認定を受ける</p>
2014年（平成26年）	<p>病床数239床に増床</p> <p>救急ワークステーションを設置する</p> <p>「福岡記念クリニック」を開設</p> <p>「地域医療支援病院」として承認を受ける</p> <p>福岡県 DMAT 指定医療機関に指定される</p>

- 2015年（平成27年）
 リニアック棟完成（鉄筋コンクリート造地下1階、地上5階建て）
 管理棟をリハビリ棟へ名称変更を行う
 リハビリテーション室がリハビリ棟（旧管理棟）へ移動
 福岡県肝疾患専門医療機関として指定を受ける
 通所リハビリテーションを開設
 国際医療担当室を開設
 外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）の認証を受ける
 HCU（高度治療室：High Care Unit）（12床・6床）を開設
 手術室4完成（稼働）
- 2016年（平成28年）
 肝臓内科、肝臓外科、脊椎・脊髄外科を開設（全36科目）
 福岡県災害派遣医療チーム（DMAT）を派遣する（熊本地震）
 「ジャパン インターナショナル ホスピタルズ」に推奨される
- 2017年（平成29年）
 3. OTMRI 装置導入、稼働開始
- 2018年（平成30年）
 「下肢静脈瘤に対する血管内焼灼術の実施基準による実施施設」に認定
 社会医療法人大成会理事長、福岡記念病院管理者・施設長に黒田康夫院長就任
 久留米大学教育関連施設になる
 一般社団法人日本専門医機構による「福岡記念病院総合診療専門研修プログラム」（プログラム責任者：太田勇司）の承認
 「福岡中央総合健診センター」を「福岡記念病院・PET 健診センター」へ名称変更
 関連 10 学会構成 日本ステントグラフト実施基準管理委員会「腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設」として認定
 病院機能評価「一般病院2」Ver..2.0に更新
 病院機能評価「救急医療機能 Ver. 2.0」を更新
 外国人患者受入れ医療機関認証制度（JMIP）を更新
 福岡県肝がん・重度肝硬変治療研究促進事業指定医療機関の指定を受ける
- 2019年（平成31年）
 （令和元年）
 レクセルガンマナイフ装置の線源交換を行う
 クライオ装置（冷凍アブレーション）の導入
 看護師寮の改修を行う
 婦人科外来改修
 乳腺外科・総合診療科・集中治療科を開設
 地域医療連携室患者相談窓口の改修
 電子カルテシステムの更新（富士通）を行う

施設の概況

(1) 許可病床数

区分	病床数	病棟数	看護師の配置基準
一般	215 床	5	7 対 1
ICU・CCU	6 床	1	2 対 1
HCU	18 床	2	4 対 1
計	239 床	8	—

(2) 診療各科及びその他部門

- ・ 救急科
- ・ 外科
- ・ 消化器外科
- ・ 大腸・肛門外科
- ・ 肝臓外科
- ・ 呼吸器外科
- ・ 整形外科
- ・ 形成外科
- ・ 脳神経外科
- ・ 心臓血管外科
- ・ 血管外科
- ・ 脊椎・脊髄外科
- ・ 内科
- ・ 脳神経内科
- ・ 循環器内科
- ・ 消化器内科
- ・ 肝臓内科
- ・ リハビリテーション科
- ・ 呼吸器内科
- ・ 感染症内科
- ・ 糖尿病・内分泌内科
- ・ リウマチ科
- ・ 小児科
- ・ 婦人科
- ・ 泌尿器科
- ・ 皮膚科
- ・ 耳鼻咽喉科
- ・ 精神科
- ・ 眼科
- ・ 麻酔科
- ・ 放射線科
- ・ 歯科
- ・ 歯科口腔外科
- ・ 病理診断科
- ・ 臨床検査科
- ・ 乳腺外科
- ・ 放射線科
- ・ 栄養科
- ・ 薬局
- ・ 看護部
- ・ 感染制御部
- ・ 事務部
- ・ 診療情報管理室
- ・ 国際医療担当室
- ・ 臨床工学室
- ・ 地域医療連携室
- ・ 医療安全管理室
- ・ 視能訓練室
- ・ 歯科衛生室
- ・ 栄養サポート室
- ・ 結石破砕センター
- ・ ガンマナイフセンター
- ・ インプラントセンター

(3) 定例会議

- ・ 診療連絡会議
- ・ 看護師長会議
- ・ 診療部科長会議
- ・ 医療安全推進会議
- ・ 管理運営会議
- ・ 医療技術部会議

(4) 委員会

- ・ 医療安全管理委員会
- ・ 院内感染対策委員会
- ・ クリニカルパス委員会
- ・ 個人情報保護推進委員会
- ・ 診療情報管理委員会
- ・ 褥瘡対策委員会
- ・ 院内教育委員会
- ・ 栄養管理委員会
- ・ NST 委員会
- ・ SPD 委員会
- ・ 地域医療連携委員会
- ・ 衛生管理委員会
- ・ 薬事委員会
- ・ 電子カルテ管理委員会
- ・ 手術室運営委員会
- ・ 輸血委員会
- ・ 診療情報提供委員会
- ・ 医療ガス安全管理委員会
- ・ 倫理委員会
- ・ 治験審査委員会
- ・ 臨床研修管理委員会
- ・ 病床管理委員会
- ・ 病院機能評価委員会
- ・ DPC 委員会
- ・ ICT 委員会
- ・ がん診療委員会
- ・ 臨床検査適正委員会

- ・ 広報サービス委員会
- ・ 救急運営委員会
- ・ 児童等虐待対策委員会
- ・ 情報管理委員会
- ・ 臨床研修小委員会
- ・ 国際医療推進委員会
- ・ 口腔ケア委員会
- ・ 保険診療委員会
- ・ TQM 推進委員会
- ・ ハラスメント防止委員会
- ・ 患者サポート委員会
- ・ 役割分担推進委員会

(5) 施設基準等承認・届出事項

2020 年 4 月現在

【指定】

- ・ 保険医療機関
- ・ 救急告示
- ・ 労災保険
- ・ 生活保護
- ・ 結核医療
- ・ 原爆医療
- ・ DPC 対象病院
- ・ 福岡県災害拠点病院
- ・ へき地医療拠点病院
- ・ 地域医療支援病院
- ・ DMAT 指定医療機関

【研修施設】

- ・ 厚生労働省基幹型臨床研修指定病院
- ・ 厚生労働省臨床修練指定病院
- ・ 日本外科学会専門医制度修練施設
- ・ 日本救急医学会救急科専門医指定施設
- ・ 日本整形外科学会認定医制度研修施設
- ・ 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設
- ・ 日本内科学会認定制度教育関連施設
- ・ 日本心血管インターベンション治療学会研修施設
- ・ 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設
- ・ 日本眼科学会専門医制度研修施設
- ・ 日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
- ・ 日本神経学会専門医制度准教育施設
- ・ 日本感染症学会認定研修施設
- ・ 日本麻酔科学会麻酔科認定病院
- ・ 日本病理学会研修登録施設
- ・ 日本集中治療学会集中治療専門医研修施設

【施設認定・推奨】

- ・ 病院機能評価「一般病院 2 救急医療機能」（日本医療機能評価機構）
- ・ 指定自立支援医療機関承認（育成医療・更正医療・精神通院医療）
- ・ 外国人患者受入医療機関（一般財団法人日本医療教育財団）
- ・ ジャパン インターナショナルホスピタルズ(JIH)（一般社団法人 Medical Excellence JAPAN）

【その他】

- ・ 院内感染サーベイランス事業参加（厚労省）
- ・ 病院機能評価拠点病院（全日本病院協会）
- ・ インドネシア人、フィリピン人、ベトナム人看護師候補者受入機関

【施設基準】

- ・ 急性期一般入院基本料 1（215 床）
- ・ 特定集中治療室管理料 3（6 床）
- ・ 小児入院医療管理料 5
- ・ 重症者等療養環境特別加算（9 床）
- ・ 救急医療管理加算
- ・ 診療録管理体制加算 1
- ・ 臨床研修病院入院診療加算
- ・ 超急性期脳卒中加算
- ・ 医師事務作業補助体制加算 15 対 1
- ・ 麻酔管理料 I
- ・ 無菌製剤処理料
- ・ 心臓カテーテル法による血管内視鏡検査加算

- ・ 心大血管疾患リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ 開放型病院 共同指導料
- ・ CT撮影及びMRI撮影
- ・ 冠動脈CT撮影加算
- ・ 心臓MRI撮影加算
- ・ 画像診断管理加算2
- ・ 輸血管管理料Ⅱ
- ・ 入院時食事療養（Ⅰ）
- ・ 医療機器安全管理料1
- ・ 総合評価加算
- ・ 神経学的検査
- ・ 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ 運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ 呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
- ・ 集団コミュニケーション療法料
- ・ コンタクトレンズ検査料1
- ・ 大動脈バルーン・パンピング（IABP法）
- ・ クラウン・ブリッジ維持管理料
- ・ HPV核酸検出
- ・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
- ・ 体外衝撃波腎・尿管結石破砕術
- ・ 医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6手術
- ・ 入退院支援加算1
- ・ 医療安全対策加算1
- ・ 薬剤管理指導料
- ・ 検体検査管理加算（Ⅳ）
- ・ 急性期看護補助体制加算25対1
- ・ 抗悪性腫瘍剤処方管理加算
- ・ 感染防止対策加算1（感染防止対策地域連携加算）
- ・ がん治療連携指導料
- ・ がん性疼痛緩和指導管理料
- ・ がん患者リハビリテーション料
- ・ がん患者指導管理料Ⅰ
- ・ がん患者指導管理料Ⅱ
- ・ 処置の時間外加算1
- ・ 処置の休日加算1
- ・ 処置の深夜加算1
- ・ 手術の時間外加算1
- ・ 手術の休日加算1
- ・ 手術の深夜加算1
- ・ 胃瘻造設時嚥下機能評価加算
- ・ 胃瘻造設術
- ・ 放射線治療専任加算
- ・ 外来放射線治療加算
- ・ ハイケアユニット入院医療管理料1（18床）
- ・ 画像誘導放射線治療（IGRT）
- ・ 病棟薬剤業務実施加算Ⅱ
- ・ ダメージコントロール手術
- ・ 経皮的冠動脈ステント留置術
- ・ 経皮的中隔心筋焼灼術
- ・ 栄養サポートチーム加算
- ・ 呼吸ケアチーム加算
- ・ 磁気による膀胱等刺激法
- ・ 経皮的冠動脈形成術
- ・ 医療機器安全管理料2
- ・ 患者サポート体制充実加算
- ・ 夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算
- ・ ヘッドアップティルト試験
- ・ 大腸CT撮影加算
- ・ データ提出加算2イ
- ・ 時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
- ・ 糖尿病透析予防指導管理料
- ・ 病棟薬剤業務実施加算Ⅰ
- ・ 院内トリアージ実施料
- ・ 後発医薬品使用体制加算1
- ・ 地域連携診療計画加算
- ・ ロービジョン検査判断料
- ・ 硬膜外自家血注入
- ・ CAD/CAM冠
- ・ 小児食物アレルギー負荷検査
- ・ 精神疾患診療体制加算
- ・ 内服・点滴誘発試験
- ・ 提出データ評価加算
- ・ 歯科点数表の初診料の注1に規定する施設基準
- ・ 植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術
- ・ ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術（リードレスペースメーカー）
- ・ 両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
- ・ 両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術・交換術
- ・ 外来化学療法加算1
- ・ 患者サポート体制充実加算

(6) 建物の概要

福岡記念病院

本館 構造 鉄筋コンクリート造
規模 地上7階
面積 延 6,454 m²

南館 構造 鉄筋コンクリート造
規模 地下1階、地上5階
面積 延 4,663 m²

リハビリ棟 構造 鉄筋コンクリート造
規模 地上8階
面積 延 2,693 m²

リニアック棟 構造 鉄筋コンクリート造
規模 地下1階、地上5階
面積 延 1,058.24 m²

(7) 配置図

管理部門		8階		
感染制御部 医療安全管理室 診療情報管理室 臨床工学室		7階		栄養科 喫茶・売店 食堂
管理部門 国際医療担当室 電子カルテ管理室		6階		病棟 (一般)
リハビリテーション室	会議室	5階	病棟 (一般)	病棟 (一般)
通所リハビリテーション室	図書室	4階	病棟 (一般)	病棟 (一般)
		3階	ICU 眼科・耳鼻咽喉科 病理・細菌検査室	手術室 放射線科
講義室		2階	婦人科 化学療法室 病棟 (一般)	一般外来 歯科・口腔外科 中央処置室 臨床検査科・内視鏡室
MRI室 指導室	放射線治療受付 診察室	1階	HCU 結石破砕室	救急外来 薬局 医事課 初診・再診受付 会計 地域医療連携室 防災センター 設備管理課 ATM
	リニアック室	地下 1階	カンマナイフ室 RI室	

【リハビリ棟】

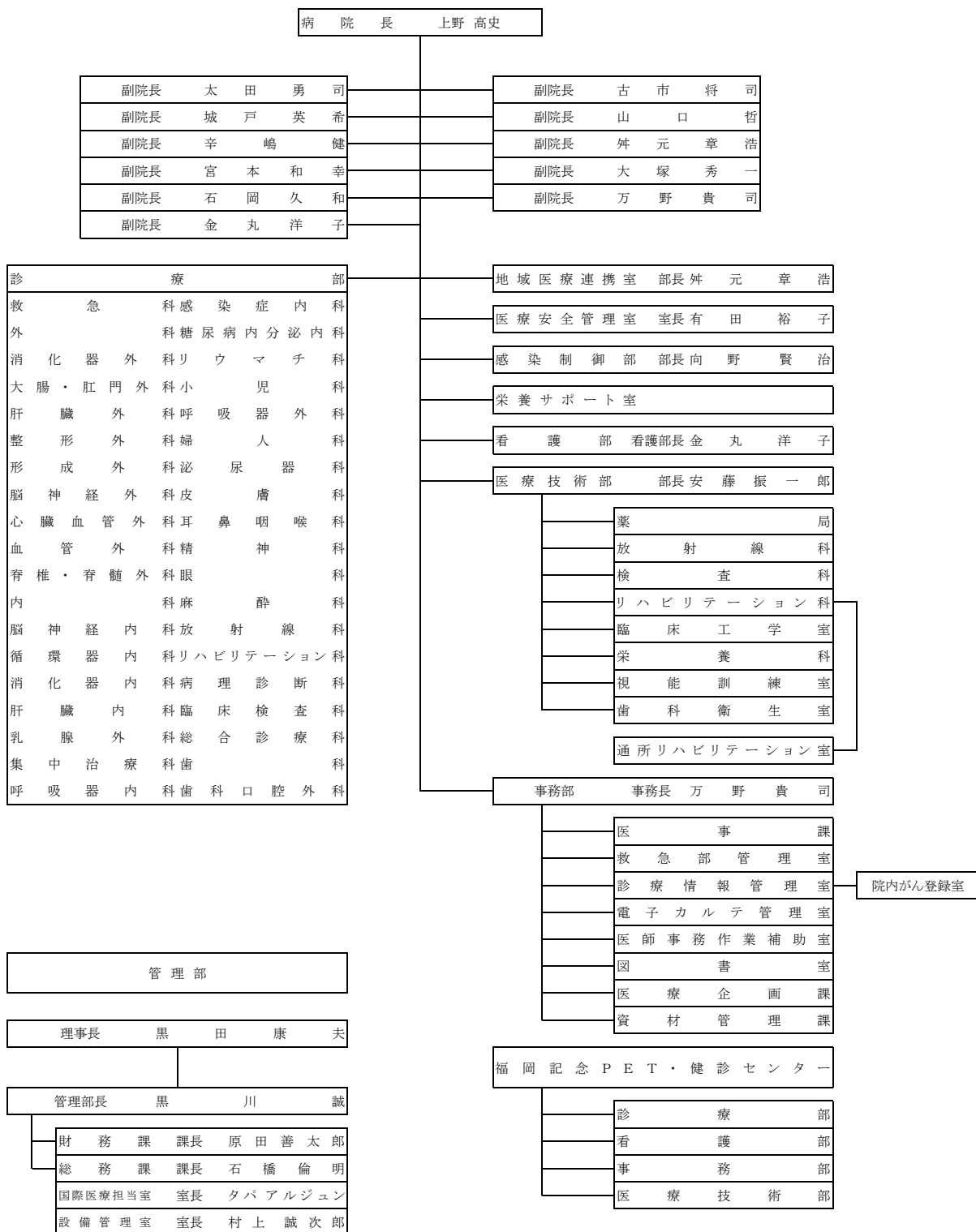
【リニアック棟】

【南館】

【本館】

社会医療法人大成会福岡記念病院組織図

2020年6月現在



病院職員数

福岡記念病院

令和2年6月1日現在

職名	現員	現員内訳	
		職員	非常勤・委託
【診療部門】			
医師	132	48	84
臨床研修医	11	11	
(放)放射線技師	24	24	
(病理)臨床検査技師	2	2	
(細菌)臨床検査技師	3	2	1
(検査)臨床検査技師	10	10	
(臨工)臨床工学技士	9	9	
(リハ)理学療法士	24	24	
(リハ)作業療法士	13	13	
(リハ)言語聴覚士	4	4	
(リハ)介護福祉士	1	1	
(栄養科)管理栄養士	5	5	
(眼)視能訓練士	2	2	
(歯)歯科衛生士	2	2	
(放)事務員	1	1	
医師事務作業補助者	18	18	
【看護部】			
看護部長	1	1	
副看護部長	1	1	
看護師長	6	6	
看護師	262	257	5
准看護師	13	12	1
看護補助員	29	26	3
事務員	2	2	

職名	現員	現員内訳	
		職員	非常勤・委託
【薬局】			
薬剤師	19	19	
【地域医療連携室】			
ソーシャルワーカー	5	5	
事務員	6	6	
【医療安全管理室】			
リスクマネージャー	1	1	
【感染制御部】			
医師	1	1	
看護師	1	1	
【診療情報管理室】			
診療情報管理士	4	4	
【事務部】			
事務長	1	1	
(医事課)事務員	17	17	
(設備)技術職員	3	3	
(電子カルテ)事務員	2	2	
(図書室)事務員	1	1	
【管理部】			
管理部長	1	1	
(総務)事務員	13	11	2
(財務)事務員	4	4	
(資材管理科)事務員	3	3	
(国際医療担当室)事務員	2	2	
(経営企画室)事務員	1	1	
合計	660	564	96

福岡記念病院 PET・健診センター

職名	現員	現員内訳	
		職員	非常勤・委託
医師			
看護師・保健師・准看護師			
薬剤師			
放射線技師			
臨床検査技師			
事務員			
合計			

登録医療機関

令和2年1月1日現在

早良区

施設名	院長名	住所	登録年月日
あきもとこどもクリニック	秋本 馨	早良区高取1丁目28-24	2019年4月27日
新井眼科医院	新井 三樹	早良区次郎丸2-10-43	2012年2月28日
案浦クリニック	案浦 康高	早良区原5-22-13	1998年2月20日
池田整形外科クリニック	池田 正一	早良区有田7丁目19-33-1号	2019年9月6日
稲村脳神経外科クリニック	稲村 孝紀	早良区西新4-9-35-2F	2002年1月7日
犬丸医院	犬丸 雅比古	早良区小田部1-6-5	1998年3月5日
井上内科クリニック	井上 橙爾	早良区田村7丁目7-2	2012年2月27日
うめい内科医院	梅井 利彦	早良区昭代3丁目5-15	2012年3月5日
大神内科クリニック	大神 信道	早良区高取1丁目3-20-204	2014年10月1日
大木整形・リハビリ医院	大木 實	早良区藤崎1-21-19	1998年2月20日
おおつかクリニック	大塚 誠	早良区次郎丸2丁目10-43	2012年2月23日
岡田こどもクリニック	岡田 象二郎	早良区藤崎2-11-35	2014年6月3日
おがた整形外科医院	緒方 孝俊	早良区原7-4-18	2002年6月3日
おばた内科クリニック	尾畑 十善	早良区田村5丁目16-38	2016年9月9日
加来内科・消化器科医院	加来 数馬	早良区小田部4-19-5	2001年11月17日
香月医院	香月 祐介	早良区有田5-1-30	1998年3月6日
川原クリニック	川原 昭夫	早良区城西1-5-25	2001年3月29日
賀茂クリニック	松嶋 哲哉	早良区賀茂4-28-1	2012年2月27日
かわの医院	河野 博巳	早良区荒江2-9-13-2F	1998年3月2日
北口内科消化器科医院	北口 安芳	早良区田隈2-34-18	2009年7月9日
北島内科医院	北島 和彦	早良区原1-6-5	2001年3月29日
草野医院	草野 忠良	早良区野芥3丁目14-5	2016年7月6日
黒田整形外科医院	黒田 康二	早良区次郎丸5丁目6-1	2006年5月9日
上月内科医院	上月 武志	早良区荒江3丁目15-21	2012年2月29日
こたべ整形外科クリニック	溝上 浩士	早良区小田部5-7-7-101	2019年8月5日
ざいつ循環器・内科	財津 龍二	早良区飯倉7丁目29-15	2019年9月24日
さかうえ内科循環器科クリニック	坂上 明彦	早良区藤崎1-1-47-2F	1998年3月6日
ささき内科・糖尿病クリニック	佐々木 修二	早良区西新5丁目15-13	2019年4月19日
佐藤皮膚科医院	佐藤 一郎	早良区西新5丁目1-32	2019年9月10日
さわらぐち胃腸肛門クリニック	中川 元典	早良区藤崎1丁目24-19	2019年3月14日
三恵外科医院	加藤 眞理	早良区城西2丁目6-21	2012年3月5日
重松クリニック	重松 勝	早良区百道1-1-4	2001年11月21日
しばおクリニック	芝尾 敬吾	早良区百道浜4-13-4	1998年3月2日
生野リウマチクリニック	生野 英祐	早良区西新1丁目10-27-1F	2011年7月11日
白石整形外科医院	白石 光一	早良区田村4丁目28-26	2019年9月13日
城谷内科医院	城谷 拓郎	早良区西新4丁目8-28	2012年3月8日
菅医院	菅 康三	早良区四箇6-14-5	1998年2月24日
すこやかクリニック	荻本 裕子	早良区百道1-25-10	2004年10月18日
そう内科医院	曾 俊光	早良区賀茂2-26-18	2019年8月1日
高木胃腸科内科医院	高木 孝輔	早良区高取1-1-53	1998年2月20日
高取レディスクリニック	重松 敏之	早良区高取1丁目3-20-203号	2016年1月26日
高橋脳神経外科	高橋 禎彦	早良区飯倉7-1-7	2002年11月26日
田北メモリーメンタルクリニック	田北 昌史	早良区室見5-13-8	2012年2月29日
たけいち内科胃腸クリニック	武市 昌郎	早良区室見2-15-27-1F	2016年12月7日

施設名	院長名	住所	登録年月日
武田内科	武田 大輔	早良区室見1丁目10-8	2019年4月18日
田代内科クリニック	田代 方民	早良区百道1-5-5	2004年9月3日
田中じゅんこ乳腺クリニック	田中 旬子	早良区西新4-9-35-6F	2019年4月6日
谷皮膚科医院	谷 淳二郎	早良区西新3-2-3-2F	1998年2月19日
つかもと内科	塚本 雅俊	早良区飯倉3-31-14	2019年4月12日
つじ耳鼻咽喉科クリニック	辻 剛二	早良区飯倉7丁目3-7	2019年7月23日
つづきクリニック	都築 克幸	早良区原4丁目4-15	2012年3月2日
土器医院	土器 辰雄	早良区田村6-7-16	2019年6月27日
なかしま内科	中嶋 寿	早良区野芥4丁目2-16	2019年11月28日
中手内科クリニック	中手 悟	早良区西新4-3-22-2F	1998年2月19日
中村医院	中村 尚徳	早良区内野2-20-10	1998年2月25日
なかよし眼科クリニック	仲吉 則雄	早良区野芥7-19-35	1998年2月19日

なら林内科・循環器科医院	楢林 英樹	早良区小田部 1 丁目 13-7	2011 年 12 月 5 日
南條内科・胃腸科クリニック	南條 環	早良区野芥 7-17-21	2001 年 12 月 7 日
長澤医院	長澤 一成	早良区飯倉 5-15-34	1998 年 3 月 6 日
なもと内科・胃腸科クリニック	名本 真章	早良区南庄 5-11-15	2019 年 9 月 30 日
西内科医院	西 秀博	早良区原 3-8-23	2002 年 4 月 1 日
西耳鼻咽喉科医院	西 憲一郎	早良区南庄 2-13-12	2019 年 8 月 20 日
西新クリニック	山村 晋史	早良区西新 5-15-20	—
このさかクリニック	二ノ坂 保喜	早良区野芥 4-19-34	1998 年 2 月 20 日
脳神経外科 クリニック高木	高木 忠博	早良区弥生 1-4-8	2001 年 11 月 16 日
畑間内科クリニック	畑間 繁樹	早良区荒江 2 丁目 6-11	2012 年 3 月 6 日
八田内科医院	八田 喜弘	早良区小田部 4-7-13	2001 年 11 月 20 日
浜本整形外科医院	浜本 尚志	早良区東入部 1-3-33	2003 年 2 月 24 日
疋田眼科医院	疋田 春夫	早良区西新 5-1-37	1998 年 2 月 23 日
平野内科消化器科医院	平野 基	早良区曙 2-1-7	2001 年 12 月 22 日
廣橋クリニック	中本 浩史	早良区東入部 6 丁目 15-9	2012 年 2 月 28 日
日吉内科消化器科医院	日吉 雄一	早良区有田 2 丁目 14-30	2019 年 9 月 19 日
フカガワクリニック	深川 康裕	早良区西新 2-7-8	2019 年 4 月 4 日
福田心臓血管クリニック	福田 裕次郎	早良区西新 4 丁目 9-35	2019 年 5 月 29 日
ふじい耳鼻咽喉科クリニック	藤井 加奈子	早良区藤崎 1 丁目 1-32-3F	2019 年 6 月 15 日
藤崎メディカルクリニック	佐藤 真也	早良区藤崎 1 丁目 1-32	2019 年 6 月 11 日
ふじもとクリニック	藤本 将史	早良区昭代 3-5-20	2018 年 2 月 24 日
フジタ内科消化器科医院	藤田 晃一	早良区原 7-4-7	1998 年 4 月 16 日
千隈すみれ内科クリニック	須貝 真生	早良区千隈 5-30-5	1998 年 3 月 5 日
本多耳鼻咽喉科	本多 一至	早良区西新 5 丁目 1-33	2019 年 4 月 22 日
まつおクリニック	松尾 勝一	早良区原 5-3-6	2013 年 9 月 26 日
松口整形外科クリニック	松口 信行	早良区西新 4-9-35-3F	1998 年 2 月 23 日
松口内科循環器科医院	松口 秀世	早良区有田 2-11-11	2009 年 9 月 1 日
松田内科クリニック	松田 拓二	早良区早良 2 丁目 22-7-1	2019 年 9 月 11 日
みまつ小児科皮膚科医院	三松 高一	早良区野芥 2 丁目 3-5	2019 年 4 月 2 日
みまつ眼科	三松 栄之	早良区野芥 2 丁目 3-5	2019 年 4 月 2 日
宮脇クリニック	宮脇 仁	早良区小田部 4 丁目 4-1	1998 年 3 月 5 日
迎医院	迎 利彦	早良区南庄 2-17-7	1998 年 3 月 6 日
牟田口整形外科医院	牟田口 啓介	早良区四箇 1-6-1	2006 年 8 月 7 日
室見クリニック	樋口 恒夫	早良区室見 1 丁目 12-1	2012 年 2 月 23 日
ももち浜クリニック TNC 放送会館在宅診療所	吉田 利香	早良区百道浜 2 丁目 3-2TNC 放送会館	2019 年 10 月 31 日
森口脳神経外科クリニック	森口 政嗣	早良区梅林 7 丁目 2-15	2019 年 11 月 15 日
やすなが内科クリニック	安永 芳樹	早良区飯倉 4 丁目 8-5-2	2019 年 7 月 23 日

施設名	院長名	住所	登録年月日
やまうちクリニック	山内 俊彦	早良区重留 7-18-1	2019 年 7 月 9 日
やまさき小児科	山崎 靖人	早良区重留 7 丁目 18-2	2019 年 11 月 18 日
やまさき脳神経・内科クリニック	山崎 賢智	早良区次郎丸 4 丁目 9-10	2019 年 9 月 6 日
やら整形外科	屋良 貴宏	早良区東入部 6-26-4	2019 年 7 月 10 日
吉住内科医院	吉住 尚志	早良区原 6-29-10	1998 年 3 月 6 日
ようこ皮ふ科	河野 容子	早良区小田部 3 丁目 17-23	2019 年 12 月 26 日
よしだクリニック	吉田 正裕	早良区賀茂 4 丁目 28-19	2012 年 3 月 1 日

中央区

施設名	院長名	住所	登録年月日
阿部医院	古賀 光	中央区今川 1-2-6	1998 年 2 月 18 日
有村内科クリニック	有村 勝彦	中央区荒戸 1 丁目 5-28	2012 年 3 月 6 日
胃腸科藤クリニック	藤 洋吐	中央区天神 3-4-8-5F	1998 年 3 月 19 日
入江内科医院	入江 信行	中央区大名 2-4-22-2F	1998 年 3 月 3 日
うえむら痛みのクリニック	上村 裕平	中央区六本松 2 丁目 3-6-3F	2019 年 8 月 22 日
うめした内科	梅下 滋人	中央区荒戸 3 丁目 10-11	2019 年 7 月 18 日
大濠こどもクリニック	牛ノ濱 大也	中央区大濠 1-3-5-2F	2019 年 4 月 16 日
大濠パーククリニック	八谷 俊朗	中央区大濠公園 2-35-2F	2019 年 10 月 9 日
かきうち小児科	垣内 辰雄	中央区地行 4 丁目 18-21-3F	2019 年 5 月 2 日
かきうち耳鼻咽喉科	垣内 康徳	中央区地行 4 丁目 18-21-2F	2019 年 4 月 15 日
萱島外科	萱島 孝二	中央区荒戸 2-2-40	1998 年 3 月 7 日
川崎胃腸科・内科クリニック	川崎 真澄	中央区赤坂 2 丁目 6-1	2014 年 12 月 9 日
川嶋医院	川嶋 恒典	中央区清川 2-12-29	1998 年 2 月 19 日
木村眼科クリニック	木村 一賢	中央区赤坂 1-10-23-2F	1998 年 3 月 6 日
香江医院	香江 篤	中央区唐人町 1-12-12	1998 年 2 月 20 日

後藤整形外科医院	後藤 徳雄	中央区鳥飼 1-5-45-1F	1998年 2月 18日
御所ヶ谷ホームクリニック	田中 耕太郎	中央区舞鶴 1丁目 6-1 7F	2019年 10月 24日
榎藤内科医院	榎藤 公和	中央区今泉 2-5-24	1998年 3月 3日
桜坂内科循環器科	松吉 哲二	中央区警固 3丁目 6-1	2019年 11月 5日
ししめ内科医院	志々目 光宏	中央区梅光園 1-3-7	1998年 2月 24日
しまだ内科・循環器科クリニック	嶋田 寿文	中央区六本松 4丁目 2-2	2019年 4月 16日
島松循環器内科	島松 昌由	中央区六本松 2-8-2-1F	2019年 4月 16日
武田医院	武田 良一	中央区梅光園 1-2-6	1998年 2月 25日
たけとみクリニック	武富 賢治	中央区輝国 2丁目 11番 13-102号	2012年 2月 28日
たのうえメンタルクリニック	田上 伸興	中央区六本松 4-11-26	2002年 4月 1日
中央歯科・口腔外科クリニック	下田 恒久	中央区大名 2丁目 8-1-4F	2005年 6月 1日
つのだ泌尿器科クリニック	角田 雄一	中央区笹丘 1-10-21	2019年 9月 24日
天神頭痛クリニック	吉岡 進	中央区天神 2-14-13	2019年 7月 23日
天神皮膚科	松尾 眞二郎	中央区天神 2-4-20 天神プラザ 3F	2019年 10月 24日
糖尿病ケアクリニック六本松	大久保 賢	中央区谷 1丁目 9-19-2F	2019年 5月 30日
とよしまファミリークリニック	豊島 元	中央区六本松 4-8-15	2012年 4月 6日
とみた内科クリニック	富田 直史	中央区小笹 4-4-5	2018年 4月 1日
中垣内科小児科医院	中垣 健	中央区今川 1-24-27	1998年 2月 18日
なごみ泌尿器科クリニック	御厨 学	中央区黒門 2-31-2F	2014年 11月 10日
島山内科胃腸科クリニック	島山 定宗	中央区桜坂 1丁目 3-31	2019年 10月 21日
梅光園 田中たもつクリニック	田中 保	中央区梅光園 2-7-6	2009年 4月 28日
皮膚科・形成外科和田クリニック	和田 秀敏	中央区荒戸 1-6-10	1998年 3月 3日
平田内科胃腸科クリニック	平田 泰彦	中央区鳥飼 1-5-45-1F	1998年 2月 18日
ひろた内科クリニック	広田 雄一	中央区荒戸 2丁目 4-14	2012年 2月 29日
施設名	院長名	住所	登録年月日
福岡みなと在宅医療クリニック	中堀 亮一	中央区荒戸 1-3-20	2019年 4月 16日
ふくだ内科	福田 敏郎	中央区赤坂 2-2-45	2019年 6月 26日
福浜中央クリニック	神殿 哲	中央区福浜 2-1-3	2010年 8月 10日
ふくろのクリニック	袋野 和義	中央区草香江 1-8-39	2019年 4月 15日
藤見胃腸科内科医院	藤見 是	中央区今川 2-1-15	1998年 2月 23日
ふなこし内科・循環器内科	舩越 元	中央区笹丘 1-4-12	2015年 9月 7日
戸次整形外科クリニック	戸次 鎮昭	中央区草香江 1-1-27	1998年 2月 25日
別府外科医院	別府 健二	中央区平尾 2-3-14	1998年 2月 19日
まいづる内科クリニック	中村 東樹	中央区舞鶴 3-2-1-2F	2014年 6月 6日
まち神経内科クリニック	町 ミチ	中央区唐人町 1-5-1 3F	2014年 1月 31日
松本整形外科医院	松本 光司	中央区笹丘 1丁目 34-2	2019年 8月 2日
みなと内科クリニック	大塚 大河	中央区長浜 3丁目 11-3-2F	2019年 9月 26日
宮城脳神経外科クリニック	宮城 潤	中央区今泉 2丁目 5-25	2012年 3月 6日
三宅内科クリニック	三宅 恒徳	中央区薬院 2丁目 5-15	2010年 9月 17日
村山内科・胃腸科	村山 通秋	中央区天神 2-4-20 天神プラザ 2F	2019年 10月 24日
森田クリニック	伊原 喜子	中央区大手門 1丁目 4-21 萬屋館 2F	2019年 10月 9日
もろくまクリニック	諸隈 中	中央区梅光園 3丁目 4-1	2012年 3月 1日
山田内科クリニック	山田 晋	中央区赤坂 1-10-23-5F	1998年 3月 3日
吉田耳鼻咽喉科	吉田 申一	中央区赤坂 1-12-8	2012年 3月 13日
六本松漢方内科	久保田正樹	中央区六本松 2丁目 3-6-2F	2019年 8月 9日
六本松通りクリニック	前田 充秀	中央区草香江 2丁目 1-6	2019年 9月 9日
六本松ひとみ泌尿器科	中村 仁美	中央区六本松 2丁目 3-6-3F	2019年 5月 25日
六本松皮膚科	下津浦耕士	中央区六本松 4-2-2-2F	2019年 10月 11日

城南区

施設名	院長名	住所	登録年月日
明石内科医院	明石 昌幸	城南区鳥飼 5-19-12	1998年 2月 24日
あらせ内科	守永 晋	城南区梅林 1-19-3-1F	2019年 7月 9日
いこいの森クリニック	橋口 庸	城南区東油山 6-19-23	2001年 11月 17日
石橋医院	石橋 慧史	城南区樋井川 1-24-26	1998年 2月 24日
内田こどもクリニック	内田 智子	城南区別府 1丁目 21-21	2012年 3月 9日
江下内科クリニック	江下 明彦	城南区樋井川 1-6-26	1998年 2月 24日
尾野医院	尾野 健一	城南区七隈 4丁目 3-8	2019年 7月 29日
かとうクリニック	加藤 功	城南区鳥飼 5丁目 4-12	2019年 4月 17日
金谷内科クリニック	金谷 英樹	城南区荒江 1-25-10-101	1998年 2月 20日
かわなみ内科	川波 憲一	城南区長尾 3-27-1	2019年 12月 23日
かわもと胃腸内科クリニック	川元 健二	城南区別府 3丁目 2-30	2019年 12月 9日
くまの整形外科スポーツ&肩クリニック	熊野 貴史	城南区南片江 1-29-25	2019年 8月 20日

さかい内科循環器クリニック	酒井 博	城南区長尾 1-13-23-1	1998年 2月 24日
しげた消化器科・外科医院	繁田 公志	城南区長尾 1-19-1	2019年 8月 6日
しんどう小児科医院	進藤 静生	城南区神松寺 3-22-28	2019年 9月 4日
進藤整形外科クリニック	進藤 隆康	城南区茶山 5-2-6	1998年 2月 25日
すがお内科クリニック	菅尾 頼明	城南区七隈 4丁目 11-3	2019年 6月 25日
杉田脳神経外科クリニック	杉田 俊介	城南区神松寺 2-12-6	1998年 2月 24日
鈴木内科医院	鈴木 統久	城南区堤 2丁目 11-16	2012年 2月 28日
瀬戸循環器内科クリニック	瀬戸 拓	城南区梅林 2-27-13	2011年 9月 9日
だい小児科内科医院	臺 俊一	城南区別府 2-20-46-101	1998年 2月 25日
田中宏明・内科胃腸科クリニック	田中 宏明	城南区片江 4-1-6	1998年 2月 20日
施設名	院長名	住所	登録年月日
高宮外科内科医院	松本 朗	城南区樋井川 6丁目 15-1	2019年 9月 25日
トータルケアやまさきクリニック	山崎 繁通	城南区茶山 4丁目 14-15	2019年 5月 10日
内藤胃腸科外科クリニック	内藤 英明	城南区別府 7-7-30	1998年 2月 25日
なかむら整形外科	中村 和史	城南区長尾 1-19-7	2019年 7月 10日
にしのクリニック	西野 雅博	城南区別府 4-1-25	2019年 10月 15日
のみやま整形外科クリニック	野見山 宏	城南区長尾 5丁目 28-19	2019年 9月 24日
原クリニック	原 裕介	城南区梅林 4-21-23	2019年 9月 4日
英内科クリニック	田中 英明	城南区茶山 2-15-1	2019年 9月 12日
平川耳鼻咽喉科クリニック	平川 直也	城南区堤 1-1-1	2019年 9月 24日
ほりた内科・透析クリニック	堀田 義雄	城南区茶山 1丁目 6-1 物かけ福岡城南 1F	2019年 11月 15日
松山診療所	瓦 隆	城南区松山 2-8-5	2010年 1月 12日
もとむらクリニック	本村 明	城南区千隈 2-8-28	2009年 4月 8日
やまぐち整形外科	山口 幸二	城南区別府 2丁目 16番 21号	2019年 8月 6日
横山内科医院	横山 俊宏	城南区田島 4丁目 22-40	2019年 4月 20日

西区

施設名	院長名	住所	登録年月日
アーバンハートクリニック	渋井 俊之	福岡市西区今宿西 1-30-26	2019年 7月 23日
青木内科循環器科小児科クリニック	青木 真	西区姪の浜 4-9-12	1998年 10月 21日
阿南クリニック	阿南 健	西区愛宕浜 4-1-20	2003年 2月 25日
池田内科呼吸器科医院	池田 昭仁	西区姪の浜 3丁目 39-6	2019年 9月 13日
今村内科循環器科クリニック	今村 光秀	西区拾六町 5-18-21	2019年 9月 30日
緒方内科医院	緒方 秀昭	西区橋本 2-17-31	2019年 8月 7日
岡村内科クリニック	岡村 秀樹	西区下山門 3-1-9	2010年 8月 3日
おかべ耳鼻咽喉科	岡部 洋平	西区野方 1丁目 4-7-1号	2019年 12月 6日
学研都市クリニック	山本 博昭	西区大字徳永 1071-1	2012年 2月 27日
かつの整形外科リハビリテーション科	勝野 雷二郎	西区福重 4丁目 7-6-2F	2017年 6月 26日
上山門クリニック	瀬戸山 浩	西区上山門 2-2-22	2016年 10月 26日
岸田内科医院	岸田 猛	西区姪浜駅南 2-19-22	1998年 9月 17日
北野クリニック	北野 亀三郎	西区姪浜駅南 2-19-16	2019年 8月 20日
國崎真クリニック	國崎 真	西区今宿駅前 1丁目 7番 6号	2012年 3月 13日
佐野内科胃腸科医院	佐野 栄二郎	西区周船寺 1-8-39	2019年 9月 10日
猿田皮膚科医院	猿田 泰夫	西区壱岐団地 136-9	1998年 3月 2日
せんばクリニック	仙波 垂水	西区拾六町団地 1-25	2019年 11月 12日
高松ひろこ皮膚科	高松 紘子	西区愛宕 4-13-5	2019年 7月 22日
たけのしたクリニック	竹之下 博正	西区愛宕 4丁目 13-4	2019年 4月 27日
ときつ医院	野村 明彦	西区内浜 2丁目 6-7	2012年 3月 2日
戸高内科・呼吸器科	戸高 憲二	西区福重 3丁目 21-3	2012年 3月 1日
中村クリニック	中村 秀治	西区豊浜 1丁目 2-12	2019年 6月 11日
西の丘 平尾クリニック	平尾 隆	西区西の丘 2-1-1	2009年 10月 21日
まるもと脳神経外科クリニック	丸本 朋稔	西区周船寺 1-5-25	2019年 9月 10日
はしぐち脳神経クリニック	橋口 公章	西区愛宕 4丁目 14-19	2019年 5月 14日
ひとみの眼科	高野 豊久	西区愛宕 4丁目 13-3	2019年 5月 14日
ひらやま内科クリニック	平山 裕介	西区福重 4丁目 7-6-3F	2017年 6月 26日
ふかほり整形外科クリニック	深堀 雄蔵	西区拾六町 5丁目 16-11	2019年 5月 27日
福重たしろ整形外科	田代 茂義	西区福重 1丁目 6-18	2019年 8月 6日
二田哲博クリニック姪浜	二田 哲博	西区姪浜駅南 1-2-17	2001年 11月 8日
前田ごう整形外科	前田 剛	西区姪浜駅前 3丁目 15-18	2019年 10月 8日
施設名	院長名	住所	登録年月日
まつお内科クリニック	金沢 文高	西区上山門 1-22-5	1998年 3月 3日
松口胃腸科・外科医院	松口 幸邦	西区野方 1-26-12	2019年 8月 19日
松本内科胃腸科	松本 新一	西区姪浜駅南 1-4-1	1998年 2月 19日

まなべ整形外科クリニック	真鍋 尚至	西区愛宕4丁目14-22	2019年5月14日
皆川外科医院	皆川 博美	西区姪の浜4-2-21	1998年2月20日
三宅クリニック	三宅 恵一	西区姪の浜4-2-1	1998年2月20日
めいのはま白翠内科クリニック	武田 洋子	西区姪の浜4-14-30	2009年10月10日
もとやま小児科クリニック	元山 浩貴	西区姪浜駅南2-31-2	2015年2月20日
矢野耳鼻咽喉科	矢野 玄	西区姪浜駅南2丁目1-34	2019年6月4日
やまだクリニック	山田 勝博	西区姪浜駅南2丁目1-3-3F	2019年10月16日
ゆう内科クリニック	兪 孝一	西区野方1丁目20-10	2019年7月29日
吉永産婦人科医院	吉永 公典	西区下山門4-14-26	1998年2月20日
りゅう・ただクリニック	武田 韻論	西区野方6丁目26-6	2019年7月29日

南区

施設名	院長名	住所	登録年月日
大山小児科医院	橋本 信男	南区大橋4-24-40	1998年2月25日
如月福岡クリニック	福島 敬愛	南区大楠1丁目32-14	2019年4月19日
こうだ内科クリニック	幸田 忠裕	南区三宅二丁目10番31号	2012年3月7日
長住医院	漢 幸太郎	南区長住2丁目15番15号	2019年9月17日
ふくだ内科循環器・糖尿病内科	福田 佑介	南区長住2丁目1-11	2019年9月17日
みやにし整形外科リウマチ科	宮西 圭太	南区松原3丁目13-17	2019年9月12日
みはら整形外科	三原 隆	南区長住4丁目1-4	2019年12月18日
ラ・グランメール すどうクリニック	首藤 孝夫	南区大橋1-4-10-2F	1998年2月25日

博多区

施設名	院長名	住所	登録年月日
かなみやクリニック	金宮 八重子	博多区博多駅南1丁目3-11-1F	2015年2月5日
ごんどう外科胃腸科クリニック	権藤 寿昭	博多区東雲町2-1-18	1998年2月19日
つつみクリニック福岡	堤 光太郎	博多区神屋町2丁目26-103	2019年5月24日
野田医院	野田 淳子	博多区千代3-3-9	1998年3月4日
のむら内科・神経内科クリニック	野村 拓夫	博多区博多駅中央街1-1 新幹線博多ビル5F	2019年11月18日
博多駅東クリニック	山本 宗満	博多区博多駅東1-13-9-2F	2006年4月6日
ひまわりホームクリニック	工藤 啓介	博多区千代1丁目1-55	2016年3月14日
福岡メディカルクリニック	内藤 恵子	博多区店屋町6-18-5F	2019年5月23日
昌樹医院	川原 雅樹	博多区上川端町5-117-2F	—

東区

施設名	院長名	住所	登録年月日
上田内科クリニック	上田 美恵子	東区雁の巣1-4-7	2007年11月30日

糸島市

施設名	院長名	住所	登録年月日
伊都クリニック	大島 章	糸島市波多江265番地1	2012年2月27日
さくらのクリニック	鷺坂 英輝	糸島市志摩桜井2435-17	2017年1月18日
田中耳鼻咽喉科クリニック	田中 資介	糸島市波多江南2-1-20	2019年7月24日
筒井内科医院	筒井 隆一	糸島市波多江駅北1丁目8-16	2019年11月28日
ひづめ内科クリニック	樋詰 貴登士	糸島市浦志2-2-1	2018年12月1日
フクヨ内科医院	福與 健介	糸島市高田4丁目24-1	2019年6月27日
まさき循環器科内科クリニック	眞崎 浩行	糸島市前原1018-3	2019年1月21日

活動報告

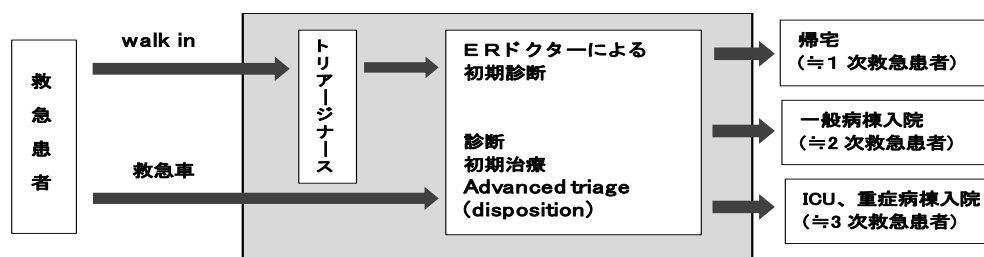
診療科 救急科

1. スタッフ

副院長 救急科部長 山口 哲 [DMAT (災害時派遣医療チーム) 隊員]
 救急科副部長 森寄 晴喜 [日本麻酔科学会麻酔科専門医]

2. 診療内容

ER型救急システムは、北米のER(救急外来)で行われている救急医療システムです。①すべての救急患者(1次～2.5次まで)を断ることなく受け入れる。②ERで初期診療を行い、入院患者や手術には関与しない。③初期診療とは診断・初期治療・Advanced Triageを意味する、を満たしたものです。下図のように救急車やWalk inで来院した救急患者をERドクターが診療するシステムです。



当院では、ERで入院が必要と判断した場合は、各科が責任をもって患者さんを引き継ぎ、専門的な医療を提供しています。また2015年4月からは看護部も救急外来としての看護部門が外来から独立して、ER型救急システムがより充実してきています。ER型救急システムの充実により、全ての救急患者を受け入れ、「断らない医療」を実践していきたいと考えています。

3. 救急車搬入件数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計	平均
2017年	499	320	479	446	447	399	457	450	410	418	429	534	5288	440.7
2018年	506	436	481	441	450	400	526	517	412	439	485	483	5576	464.7
2019年	540	403	511	484	487	463	444	535	463	439	449	472	5690	474.2
平均	515.0	386.3	490.3	457.0	461.3	420.7	475.7	500.7	428.3	432.0	454.3	496.3	5518.0	459.8

4. 業績

区分	氏名	月日	開催地	講演名
座長	山口 哲	3月7日	福岡市	福岡西部地区医療連携講演 「高齢者の不定愁訴と漢方」～冷えと痛み・めまい・倦怠感・浮腫～ 演者 九州大学大学院医学研究院地域医療教育ユニット 准教授 貝沼 重三郎

総合診療科

1. スタッフ

総合診療科部長 太田 勇司 [日本外科学会専門医 日本内視鏡学会指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 消化器がん外科治療認定医 日本気管食道学会専門医 日本大腸肛門病学会専門医・指導医 福岡県医師会認定総合医]

2. 診療内容

令和元年4月より総合診療科を開設しました。医局年報に合わせて回顧反省のため、4月から12月までの紹介救急患者の現状を分析します。

はじめに：救急患者を一旦受け入れる事で院内のたらい回しを避け、問い合わせ先施設、医院施設からの当日救急紹介患者の問い合わせ First-Call を担当した。

対象：令和元年4月より令和2年3月まで私に対応した施設、医院、病院からの当日救急患者の First-Call 件数は 457 例であった。受診搬送患者の年齢分布、施設・医院・病院の紹介患者割合、紹介者、各科振り分けの現状、受診希望科の有無、搬送にかかる時間、来院予定時間、実際の到着時間、紹介状の有無などをメモ帳に書き取り集計した。

結果：年齢分布は男女比男性 201 名女性 256 名で女性がやや多く、年齢分布は 70 歳以上が 312 名と 2/3 を占めた。救急車搬入は 207 名であった。受診希望科は救急科 120 名、外科 76 名、整形外科 64 名、循環器内科 36 名、内科 26 名、脳外科 27 名、神経内科 26 名の順で外科系が多かった。紹介状は地域連携室の協力で施設医院病院などと連携を計りほぼ全例回収した。First-Call の時間から来院予定時間までにばらつきが認められた。救急車で受診は時間の予定が立つが施設医院からの Walk-in では 30 分以上の来院予定時間を超過することが多かった。

将来展望：院内でのたらい回しを避けるために総合診療科が当日紹介救急患者を一旦預かり各科に振り分ける試みをした。たらい回しがなくなり対外的には好評であるがお昼休みの時間帯、16：00 以降の紹介受け入れ先決定に手間をとっている。16：30 以降は救急科が引き受け当直に引き継いでいる。

当科の目標は後期研修医を獲得し当日の救急受診患者のスムーズな診療受け入れにつなげ、各科の負担軽減、診療待ち時間の短縮を図り働き方改革の一助となれるように改善していきたい。

3. 業績

開催日	演題名	発表者	共同演者	名称
11月28日	医師の働き方改革	太田 勇司	山口 哲 森寄 晴喜	中外 Web セミナー in 九州 inter-net symposium (福岡市)

外科・消化器外科・大腸肛門外科
肝臓外科・呼吸器外科

1. スタッフ

診療部長	城戸 英希	[日本外科学会専門医 日本消化器外科学会認定医 日本医師会認定産業医 福岡県医師会認定総合医]
外科部長	長谷場 仁俊	[日本外科学会専門医]
外科部長	御鍵 和弘	[日本外科学会専門医]
外科部長	芝原 幸太郎	[日本外科学会専門医・指導医 日本消化器外科学会専門医・指導医 日本臨床腫瘍学会暫定指導医 消化器がん外科治療認定医 がん治療認定医 緩和ケア研修会修了]
外科部長	土井 篤	[日本外科学会専門医]
呼吸器外科部長	森永 真史	[日本外科学会専門医 日本呼吸器外科専門医 乳腺外科認定医]

2. 活動報告

平成 31 年/令和元年度外科業績を報告いたします。4 月から太田勇司医師が総合診療科へ転属となり、新しく芝原幸太郎医師と土井篤医師を迎えました。年間救急患者搬入件数は 5700 台を若干下回りましたが、前年より 100 台近く多い件数になります。休日・夜間の日当直につきましては、月の 1/3 以上を外科医が担当しており、今後も救急体制維持に貢献できるよう努めて参る所存です。

外科年間手術症例は 395 例で前年より 20 例増加となりました。芝原医師、土井医師の活躍により、胆嚢摘出や虫垂切除に加えて、大腸癌やヘルニア等においても腹腔鏡手術が行われました。症例を個別に見てみますと胆石・胆嚢炎が最も多く、腹腔鏡下 63 例、開腹症例 3 例で、前年と比べ開腹例がかなり減少していました。虫垂切除は 41 例、うち 36 例は腹腔鏡下手術でした。大腸癌根治手術は 18 例と減少しましたが、8 例に対して腹腔鏡下手術が行われました。イレウス解除や小腸切除が 14 例、鼠径ヘルニア 10 例、消化管穿孔に対する手術は、上部 7 例・下部 6 例、肝切除 4 例、その他ヘルニア（腹壁癒痕ヘルニアなど）が 4 例という順になっております。また、総胆管結石・胆管炎症例はかなり多く、ERCP 施行件数は 152 と昨年の 3 倍増となり、乳頭切開、ステント留置、砕石術など内視鏡治療のほとんどを御鍵医師が担当しました。他に化学療法や輸液確保のための CV ポート挿入や非代償性肝硬変症例に対する腹水濾過濃縮再静注法（CART）も行なっております。呼吸器外科手術は 18 例で、肺癌 2 例の他、気胸や膿胸に対する胸腔鏡手術がほとんどでした。スタッフも充実し、地域医療支援病院の使命感の下、一層の地域貢献を目指します。逆紹介を増やし開業の先生や連携病院から 1 例でも多くご紹介いただけるように精進いたしますので何卒よろしくお願い申し上げます。

3. 診療実績

区分	術式	件数
乳房	乳腺悪性腫瘍手術	3
食道・胃・ 十二指腸	食道裂孔ヘルニア手術	1
	胃・十二指腸穿孔縫合術（内腹腔鏡下 2 例）	7
	胃全摘術	1
	胃切除術（悪性腫瘍手術）	1
	胃腸吻合術	1
	腹腔鏡下胃瘻造設術	1
肝臓・脾臓・ 膵臓	経皮的肝膿瘍ドレナージ術	7
	肝切除術	4
	膵体尾部腫瘍切除術（悪性腫瘍手術）	2
	膵頭部腫瘍切除術（悪性腫瘍手術）	1

区分	術式	件数
小腸・大腸・ 直腸	イレウス解除術（内腹腔鏡下 1 例）	10
	小腸切除術（悪性腫瘍手術以外）	4
	小腸切除術（悪性腫瘍手術）	1
	虫垂切除術	5
	腹腔鏡下虫垂切除術	36
	結腸切除術（悪性腫瘍手術）	7
	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術	6
	人工肛門閉鎖術	4
	ハルトマン手術（急性汎発性腹膜炎手術）	6
	直腸切除・切断術	3
	腹腔鏡下直腸切除術	2

区分	術式	件数
胆嚢・胆道	内視鏡的胆道ステント留置術、 乳頭切開術、碎石術	152
	腹腔鏡下胆嚢摘出術	63
	胆嚢摘出術	3
	総胆管拡張症手術	1
	胆嚢悪性腫瘍術	2
	体外衝撃波胆石破碎術	3
心臓・血管・リンパ	中心静脈注射用埋込型カテーテル設置	6
肛門	痔核手術（脱肛を含む）	4
	肛門周囲膿瘍切開術	3
	肛門ポリープ切除術	2

区分	術式	件数
ヘルニア	鼠径ヘルニア	10
	腹腔鏡下鼠径ヘルニア	2
	腹腔鏡下腹壁癒痕ヘルニア手術	3
	腹腔鏡下閉鎖孔ヘルニア	1
その他	腹腔鏡下尿管摘出術	1
	腹水濾過濃縮再静注法	9
呼吸器	胸腔鏡下肺切除術	7
	胸腔鏡下膿胸胸膜切除術	3
	気管切開術	2
	肺悪性腫瘍手術	2
	縦隔悪性腫瘍手術	1

4. 内視鏡検査件数、内視鏡処置及び手術件数

区分	検査名	件数
検査	上部消化管内視鏡検査	672
	下部消化管内視鏡検査	385
	ERCP	144

区分	術式	件数
処置・手術	内視鏡的消化管止血術	82
	内視鏡的ポリープ・粘膜切除術	82
	内視鏡的ステント留置術	24
	内視鏡的乳頭切開術	16
	内視鏡的食道・胃静脈瘤結紮術	7
	内視鏡的胃瘻造設術	6
	その他	16

5. 業績

開催日	演題名	発表者	開催地	名称
7月17日	高齢者進行・再発胃癌に対する化学療法の意義－ 化学療法は有効か？	芝原 幸太郎	東京	第74回日本消化器外科学会総会

整形外科 脊椎脊髄外科

1. スタッフ

整形外科部長	本家 秀文	[日本整形外科学会整形外科専門医]
脊椎・脊髄外科部長	隈元 真志	[日本脊髄外科指導医 日本骨粗鬆症学会認定医]
常勤医	樋口 健吾	[日本整形外科学会整形外科専門医]
常勤医	井上 孝之	

2. 診療内容

今年度は4月より佐賀中部病院より井上孝之先生を迎えました。新任の井上先生にくわえて脊椎・脊髄外科の隈元真志先生、膝関節外科の樋口健吾先生、診療科長の本家の4人体制で診療を行っております。

外来は月～土曜日の午前中に行っており、月曜日は樋口・井上、水曜日は樋口、火・金曜日は本家、木曜日、土曜日のみ交代制となっています。脊椎・脊髄外科は月・木は午前、午後、水・金は午前のみ外来を行っています。また、引き続き佐賀大学、馬渡正明教授に木・土曜日は股関節疾患の患者様を中心に外来、手術をして頂いています。

当院整形外科の手術数は年々増加しており、昨年度も900例近くの手術を行いました。外傷に伴う骨折に対する手術と股関節、膝関節に対する人工関節置換術、寛骨臼移動術、脊椎手術などが主ですが、人工肩関節置換術、関節鏡視下腱板縫合術、関節鏡下靭帯再建術などの手術も佐賀大学から専門医を招聘し、積極的に手術を行っています。

今後も回復期病院にご協力頂き、術後の患者様の転院などをお願いする機会があるかと思いますが、どうぞよろしくお願い致します。

3. 診療実績

整形外科

術式	件数
骨折観血的手術	288
人工関節置換術（股関節）	155
人工関節置換術（膝）	16
人工骨頭挿入術	78
関節内骨折観血的手術	64
寛骨臼移動術	23
関節鏡下半月板縫合術	11
人工関節再置換術	7
関節鏡下半月板切除術	5
その他	233

脊椎脊髄外科

術式	件数
脊椎固定術	63
骨移植術	41
経皮的椎体形成術	35
椎弓切除術	16
椎弓形成術	10
脊椎、骨盤内異物除去術	8
黄色靭帯骨化症手術	2
その他	4

4. 業績

学会

開催日	演題名	発表者	共同演者	名称
2月21日	骨粗鬆症性骨折の治療 — 脊髄脊椎外科医の視点から—	隈元 真志	樋口 健吾 本家 秀文	福岡西部地区医療連携講演会 (福岡)
4月18日 ～20日	骨粗鬆症性椎体骨折と診断された多発性骨髄腫の頻度について	隈元 真志	宮下 翔平 樋口 健吾 本家 秀文	第48回日本脊椎脊髄病学会 (札幌)
5月22日 ～24日	Acute quadriplegia due to calcium pyrophosphate dihydrate deposition disease of the cervical ligamentum flavum mimicking an epidural abscess: a case report	S. Kumamoto		Italy (Rome)
6月20日 ～21日	腹痛・心窩部痛で発症した脊髄急性硬膜下血腫の一例 骨粗鬆症患者の腹臥位手術で生じた胸骨骨折の3症例	隈元 真志	宮下 翔平 樋口 健吾 本家 秀文	第34回日本脊髄外科学会 (札幌)
7月2日	脆弱性仙骨骨折の治療 骨粗鬆症患者の腹臥位手術で生じた胸骨骨折の3症例	隈元 真志	宮下 翔平 樋口 健吾 本家 秀文	城南脊椎脊髄セミナー (東京品川)
9月6日 ～7日	SICOT: Societe Internationale de Chirurgie Orthopédique et de Traumatologie Sternal fracture caused by prone position surgery of patient with osteoporosis	隈元 真志	宮下 翔平 樋口 健吾 本家 秀文	第26回日本脊椎・脊髄神経手術手技学会
10月11日 ～13日	当院における高齢者骨脆弱性仙骨骨折について	樋口 健吾	隈元 真志 本家 秀文 馬渡 正明	第21回日本骨粗鬆症学会 (神戸)
10月15日	フロシールを用いた頸椎手術の止血症例	隈元 真志	宮下 翔平 樋口 健吾 本家 秀文	Floseal Advisory Board Surgical Seminar (熊本)

開催日	演題名	発表者	共同演者	名称
12月4日 ～7日	Sternal fracture caused by prone position surgery of patient with osteoporosis	隈元 真志	宮下 翔平 樋口 健吾 本家 秀文	SICOT: Société Internationale de Chirurgie Orthopédique et de Traumatologie Muscat Oman
12月4日 ～7日	Clinical results of total hip arthroplasty with use of antibacterial hip prosthesis with silver coating	樋口 健吾	隈元 真志 本家 秀文 馬渡 正明	SICOT: Société Internationale de Chirurgie Orthopédique et de Traumatologie Muscat Oman
12月4日 ～7日	The symptom and frequency of the patients with multiple myeloma in osteoporotic vertebral body fracture in elderly	樋口 健吾	隈元 真志 本家 秀文 馬渡 正明	SICOT: Société Internationale de Chirurgie Orthopédique et de Traumatologie Muscat Oman

論文

著者	論文・著作名	雑誌名：巻(号) 頁・年号
隈元 真志 中山 大資 樋口 健吾 本家 秀文 馬渡 正明	小切開による骨盤固定術で良好な経過を得た非H型仙骨脆弱性骨折の2症例	Journal of Spine Research 10(7):1085-1088、2019
隈元 真志 古市 将司 溝田 新吾 大田 正流 中山 大資 樋口 健吾 本家 秀文	高度圧潰を伴う腰椎破裂骨折に対する経皮的 uniplanar monoaxial screw を用いた後方低侵襲手術の椎体整復効果	日本脳神経外科救急学会誌 24：127-132, 2019

世話人・座長

区分	氏名	月日	開催地	講演名
世話人	隈元 真志	3月2日	大阪市	江坂脊椎サークル [合併症 一術中術後のマネージメント]
世話人	隈元 真志	3月16日	福岡市	Kyushu Rising Seminar 2019 [骨粗鬆症性椎体骨折]
世話人 座長	隈元 真志	4月6日	福岡市	第12回九州・山口ニューロスパイン研究会「3Dテンプレートをを用いたCBT」
座長	隈元 真志	10月26日	大阪市	第80回近畿脊髄外科研究会 「低侵襲法を用いたH型脆弱性仙骨骨折」手術の一例」(優秀演題賞)
世話人 座長	隈元 真志	11月9日	福岡市	第13回九州・山口ニューロスパイン研究会 「LIF 選択が誤った一例」
座長	本家 秀文	11月30日	佐賀市	第138回西日本整形・災害外科学術集会 股関節骨折セッション

脳神経外科

1. スタッフ

副院長 脳神経外科部長 古市 将司 [日本脳神経外科学会専門医 日本脳神経血管内治療学会専門医]
脳神経外科部長 大田 正流 [日本脳神経外科学会専門医 日本脳卒中学会専門医]
脳神経外科部長 ガンマナイフセンター長
溝田 新吾 [日本脳神経外科学会専門医]
脳神経外科部長 八木 伸博 [日本脳神経外科学会専門医] 令和2年4月より

2. 診療実績

平均入院患者数…………… 60名

3. 手術症例分類表 (2019年1月1日～12月31日)

○脳外科的手術の総数…………… 86件

区分	術式	件数	区分	術式	件数
脳腫瘍	摘出手術	6	外傷	急性硬膜下血腫	14
	その他	3		慢性硬膜下血腫	12
脳血管障害	高血圧性脳内出血	12		急性硬膜外血腫	4
水頭症	脳室シャント術	4		減圧開頭術	2
	その他	2		その他	27

○血管内手術総数…………… 34件

区分	術式	件数
血管内手術総数	動脈瘤塞栓術 (破裂動脈瘤)	13
	動脈瘤塞栓術 (未破裂動脈瘤)	2
	閉塞性脳血管障害	18
	その他	1

○その他…………… 12件

○脳定位的放射線 (ガンマナイフ) 治療… 156件

形成外科

1. スタッフ

形成外科部長 岡 潔 [日本形成外科学会専門医]

2. 診療内容

当院形成外科では、顔・手足（指）の骨折や先天異常（副耳や耳瘻孔、多指症など）、体表の外傷や熱傷、褥瘡や皮膚潰瘍、皮膚・皮下腫瘍、陥入爪（巻き爪も含む）などの治療を行っています。また、外傷や癌などの手術後の瘢痕・欠損・変形に対する機能や形態の再建（修正）なども行っています。患者さんのQOL(Quality of Life)の向上のために、「目立ちにくい傷あと」を目指しています。

当科は他の診療科との境界領域も多く、必要な場合は連携をとりながら治療を行なっております。日常の診療でお困りの症例などございましたら、ぜひご相談ください。

3. 診療実績（2019年1月1日～12月31日）

外来…… 総数 2,088 名（新患）302 名

手術…… 133 件

手術名	件数
創傷処理	53
腫瘍摘出術	11
骨折観血的手術（眼窩・頬骨・上顎）	10
腋臭症手術	6
植皮術	6
鼻骨骨折整復固定術	5
皮弁形成術	5

手術名	件数
デブリードマン	4
骨折経皮的鋼線刺入固定術	4
腐骨摘出術	3
四肢切断術	2
眼瞼下垂症手術	1
関節脱臼整復術	1
その他	22

心臓血管外科・血管外科

1. スタッフ

副院長 心臓血管外科部長 宮本 和幸 [日本外科学会専門医 日本外科学会指導医 心臓血管外科専門医
心臓血管外科修練指導者 腹部大動脈ステントグラフト実施医
心臓リハビリテーション学会指導士]

心臓血管外科部長 鬼塚 大史 [日本外科学会専門医 日本脈管学会専門医 下肢静脈瘤血管内
焼灼術指導医 臨床研修指導医]

1. 診療内容

今年、細川先生と達先生が退職され、九州大学心臓血管外科教室所属の宮本と鬼塚が赴任しました。同教室の全面的なバックアップにより、昨年より手術数が大幅に増加しました。今後も地域の病院、当院の循環器内科を連携し手術数の増加、成績の向上に努めていきます。

2. 診療実績

2019年に行った手術は以下の通りであった。

手術名	件数	
冠動脈バイパス術(CABG)	5	
弁膜症手術	AVR	3
	AVR+CABG	4
	MVP	1
	MVR	1

手術名	件数
胸部大動脈手術（胸腹部大動脈を含む）	4
腹部大動脈手術	7
末梢血管手術	24
下肢静脈瘤手術	31
その他	2

脳神経内科

1. スタッフ

理事長 黒田 康夫 [日本内科学会評議員・指導医 日本神経学会評議員・指導医 日本認知症学会
専門医・指導医]

内科・消化器内科・呼吸器内科・感染症内科
糖尿病内分泌内科・リウマチ科

1. スタッフ

診療部長 辛嶋 健 [日本内科学会認定医・総合内科専門医 日本糖尿病学会専門医 日本内分泌学
会・内分泌代謝科専門医、功労評議員]

内科部長 藤原 英樹 [日本循環器学会専門医 日本医師会認定産業医 福岡県医師会認定総合内科医]

内科部長 松岡 浩

内科部長 中山 秀 [日本内科学会認定内科医、日本循環器学会専門医]

原 健人

感染制御部長 向野 賢治 [日本内科学会内科認定医 日本感染症学会専門医・指導医 日本リウマチ学会
専門医 日本化学療法学会抗菌薬臨床試験指導者 インфекションコント
ロールドクター (ICD) 日本医師会認定産業医 特別管理産業廃棄物管理責任者
第一種衛生管理者衛生工学衛生管理者]

常勤医 高宮 紘士

2. 診療内容

当院の内科所属の常勤医師は6名（辛嶋、藤原、向野、松岡、中山、原）です。

外来診療：一般内科外来は月曜日から金曜日まで新患、再来を行ない、土曜日は新患のみ診療しています。
専門外来は糖尿病・内分泌；（月-金の午前中、火曜日午後；担当辛嶋、原、非常勤の梅田）、リウマチ・感染
症（含膠原病）（月-木、午前；担当向野）、呼吸器外来（月曜、金曜の午前と午後；月曜 緒方：非常勤、金
曜 橋本：非常勤）があります。

現在、消化器疾患は主に当院消化器外科医が担当していますが、消化管検査は一般内科でも診療可能です。

入院診療に関しては本年4月より辛嶋、松岡、藤原、中山、原の5人で担当しています。大部分は救急よ
り入院となった患者さんですが、血糖コントロールなどは紹介からの入院となります。

疾患としては肺炎が多く、特に施設・療養型病院などよりご紹介頂いた医療・介護関連肺炎が多数を占め
ます。その他気管支喘息や慢性閉塞性肺疾患の急性増悪、脱水症、熱中症、急性アルコール中毒や薬物中毒、
電解質異常による代謝性意識障害などの内科救急疾患となります（表参照）。

超高齢化社会を迎え、高齢者の入院が圧倒的に多く、入院ベッドを確保するため、リハビリ病院、療養型
病院、施設、在宅診療医との病診連携、病々連携をますます密にしていく必要があります。関係各位には更
なるご協力を宜しくお願い申し上げる次第です。

3. 入院症例の主病名一覧（内科のみ）

区分	病名	件数	区分	病名	件数
呼吸器系疾患	肺炎、誤嚥性肺炎	266	消化管疾患	消化管腫瘍	8
	急性上気道炎・気管支炎	15		アルコール性肝障害	4
	原因不明の急性呼吸不全	9		肝炎・肝機能異常	4
	気管支喘息	6		大腸ポリープ	2
	COPD	4		胃炎	2
	肺繊維症・間質性肺炎	2		食道疾患	1
	その他の呼吸器疾患	13		消化性潰瘍	1
内分泌・代謝疾患	糖尿病	39		肝硬変・肝不全	1
	脱水症	32		胆嚢・胆管炎	1
	水・電解質異常	20		胃瘻造設術後後遺症	1
	横紋筋融解	8		その他の胃腸疾患	2
	低血糖	5	脳・神経系疾患	低酸素脳症など	6
	栄養障害	5		頭痛	3
	内分泌疾患	3		癲癇	3
その他の代謝疾患	12	認知症		2	
感染症	尿路感染症	38		脳梗塞症・脳出血など	1
	インフルエンザ	17	その他の神経系疾患	3	
	敗血症	6	血液疾患	種々の血液疾患	5
	感染性腸炎	6	腎疾患	急性及び慢性腎不全	5
	ウイルス以外の感染症	4	その他の腎疾患	1	
アレルギー・膠原病	その他のウイルス感染症	4	その他の入院	泌尿器科疾患 尿路感染症	32
	膠原病および類縁疾患	7		耳鼻科疾患	7
中毒性疾患 熱中症	アナフィラキシー	4		皮膚科疾患	6
	急性薬物中毒	49		精神科関連疾患	5
	熱中症	8		脳外科疾患	4
循環器疾患	急性アルコール中毒	2		整形外科疾患 外傷・打撲・骨折	3
	うっ血性心不全	19		その他	2
	高血圧	5			
	虚血性心疾患	1			
	その他の循環器疾患	7			

4. 業績

学会

開催日	演題	発表者	学会
5月10日	ポスターセッション	向野 賢治	第62回日本化学療法学会総会 (東京)

講演会

区分	氏名	月日	開催地	講演名
座長	辛嶋 健	4月18日	福岡	福岡西部地区医療連携講演会 「糖尿病治療の進歩とこれからの課題」 演者：二田哲博クリニック姪浜 院長 下野 大
座長	辛嶋 健	6月18日	福岡	福岡西部地区医療連携講演会 「循環器疾患合併症を見据えた糖尿病戦略 ～SGLT2阻害薬の可能性を探る～」 演者：久留米大学医学部内科学講座 心臓・血管内科学部門 講師 大江 征嗣

循環器内科

1. スタッフ

病院長	上野 高史	[日本循環器学会専門医 日本心血管インターベンション学会 専門医・指導医]
副院長 循環器内科部長	舩元 章浩	[日本内科学会認定医・総合内科専門医・指導医 日本循環器学会 専門医 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医 日本心臓リハビリ テーション学会指導医 日本心血管インターベンション学会専 門医 臨床研修指導医]
循環器内科部長	中村 広	[日本循環器学会専門医]
循環器内科部長	久米田 洋志	[日本循環器学会専門医]

2. 診療内容

当科の診療体制は循環器専門医 3 名、研修医 1 名で、入院・外来診療を行っております。前年と比して、冠動脈インターベンション、高周波カテーテルアブレーション件数が増加しました。非侵襲的な検査である心エコー、ホルター心電図、冠動脈 MDC 検査、薬物負荷タリウム心筋シンチ検査を組み合わせることにより、今まで冠動脈造影検査だけの目的で入院していただいていた症例も、入院せずに外来での精査・経過観察が可能となりましたので、患者さんによりやさしい医療を提供できるようになりました。冠動脈インターベンションも冠動脈 MDCT 検査所見をもとに、より詳細な strategy をもって施行できるようになりました（末梢血管形成術も同様です）。また、高周波カテーテルアブレーションに対しても積極的に取り組み、薬剤抵抗性である不整脈の根治・寛解を目指しております。

このように(PCPS、IABP などの)循環器救急領域から心臓リハビリテーションまで多岐にわたって、より専門的な医療を提供できるようになってきております。4 月からは上野高史先生（久留米大学循環器病センター教授）も院長として着任されましたので、ますますパワーアップした体制で診療を行っていききたいと思います。

3. 診療実績（2019 年 1 月 1 日～12 月 31 日）

主な検査、治療実績	件数	主な検査、治療実績	件数
冠動脈造影	125	経胸壁心エコー	3,411
冠動脈インターベンション	164	経食道心エコー	14
冠動脈 CT	632	ホルター心電図	325
心筋シンチ	217	イベントレコーダー	106
下大静脈フィルター	7	カテーテルアブレーション	157
人工ペースメーカー	60		

4. 業績

学会・講演会

開催日	演題名	発表者	共同演者	名称
1 月 12 日	肺静脈隔離術、Kent 離断術を一期的に施行し根治しえた WPW 症候群に合併した偽性心室頻拍の 1 例	木本 義敬	舩元 章浩 久米田 洋志 中村 広 上野 高史 竹本 真生	第 324 回日本内科学会九州地方会（福岡）
1 月 12 日	大動脈弁狭窄症を併発した大動脈弁乳頭状弾性繊維腫の 1 手術例	相良 智之	舩元 章浩 久米田 洋志 中村 広 上野 高史 松尾 尚 古川 浩二郎 森田 茂樹	第 324 回日本内科学会九州地方会（福岡）

開催日	演題名	発表者	共同演者	名称
1月13日	集学的加療で改善しえた僧帽弁狭窄症による心原性脳塞栓症の1例	徳重 裕陽	舛元 章浩 久米田 洋志 中村 広 上野 高史	第28回日本心血管インターベンション治療学会九州沖縄地方会(久留米)
1月13日	緊急PCPS導入が必要であった急性冠症候群2症例の検討	牟田 龍史	舛元 章浩 久米田 洋志 中村 広 上野 高史	第28回日本心血管インターベンション治療学会九州沖縄地方会(久留米)
1月23日	肺静脈隔離術、Kent 離断術を一期的に施行し根治しえたWPW症候群に合併した偽性心室頻拍の1例	木本 義敬	舛元 章浩 久米田 洋志 中村 広 上野 高史 竹本 真生	福岡西部地区医療連携講演会(福岡)
1月23日	大動脈弁狭窄症を併発した大動脈弁乳頭状弾性線維腫の1手術例	相良 智之	舛元 章浩 久米田 洋志 中村 広 上野 高史 松尾 尚 古川 浩二郎 森田 茂樹	福岡西部地区医療連携講演会(福岡)
1月25日	心不全、洞不全症候群を併発したRS3PE症候群の1例	麦田 史仁	舛元 章浩 久米田 洋志 中村 広 向野 賢治 上野 高史	第328回日本内科学会九州地方会(福岡)
2月7日	失神の臨床	舛元 章浩		メドトロニック社 Web講演会
12月7日	右大腿静脈が唯一のアクセスでリードレスペースメーカーが有用と思われた超高齢の完全房室ブロックの1例	入江 香里	舛元 章浩 久米田 洋志 中村 広 上野 高史	第127回日本循環器学会九州地方会(久留米)
12月7日	アブレーション中に別の回路に移った dual loop型のマクロロエンتری性心房頻拍を根治し得た1例	島内 諒	舛元 章浩 久米田 洋志 中村 広 上野 高史	第127回日本循環器学会九州地方会(久留米)

論文

著者	論文・著作名	雑誌名：巻(号) 頁・年号
Masumoto A Takemoto M Kang H Kumeda H Nakamura K Kosuga K Ueno T	Artisl Fibrillation in a Patient with a Comon Inferior Trunk of the Pulmonary Venis Treated by Radiofrequency Ablation Formed as a Mickey Mouse Figure	Fukuoka Acta Med 110(1):45-50 2019

小児科

1. スタッフ

小児科部長 山崎 兼吾 [日本小児科学会専門医]
小児科部長 瀬戸口 良哉 [日本小児科学会専門医] 2019年8月31日退職

2. 診療内容

2016年以降小児科は常勤医3名体制でしたが、職員の退職に伴い2019年9月より常勤医1名で診療を行っており、朝8時15分から夕方は18時00分まで診療時間を設けております。また隔週火曜日、久留米大学病院より小児循環器の須田先生をお招きし循環器外来を開設しております。

開業医の先生方からのご紹介数の増加に伴い入院患者数及び紹介外来患者数ともに増加傾向にあります。入院疾患内訳は大きな変化はありません。重症例は多くはありませんが、近医の先生方の外来治療ではコントロールが難しい、しかし大学病院で治療を必要とする程ではない軽症から中等症の患者数が多いことから今後も需要はあると考えます。

これからも早良区・西区を中心に福岡市内のこども達の笑顔のために地域開業医の先生方と連携を図りながら診療をしていきたいと思っております。

3. 診療実績（2019年1月1日～12月31日） 小児科総入院数 152名

主な入院病名	件数
感染性胃腸炎、嘔吐症	47
気管支炎、細気管支炎、肺炎	35
急性上気道炎、その他感染症	24
気管支喘息	10
痙攣、てんかん、意識障害	6
アセトン血性嘔吐症	6
脱水症、熱中症	5
アナフィラキシー、食物アレルギー	4
無菌性髄膜炎	1
外傷、外科系疾患 その他	15

泌尿器科

1. スタッフ

泌尿器科部長 橋本 恭子 [日本泌尿器科学会専門医]

2. 診療内容

2019年の外来総数は3577名、うち新患は1099名でした。入院内訳は以下のようになっています。結石の救急受診は、ほぼ例年通りです。当院では高気圧酸素治療が可能な為、止血困難な放射線性膀胱炎の大学病院等からの紹介が増えています。診療体制は、2019年も変わらず常勤1名、非常勤1名。悪性腫瘍はじめ、経尿道的手術が増加傾向にあります。今後もより多様な手術対応を目指します。

3. 入院実績

疾患名	件数
尿路結石症	78
尿路感染症	78
排尿障害	28

疾患名	件数
悪性腫瘍	11
精巣・陰囊の疾患	3
その他	25

4. 手術実績

術式	件数
体外衝撃波結石破碎術	77
経尿道的尿管ステント留置術等	55
膀胱内凝血除去術	20
腎瘻造設術	16

術式	件数
膀胱結石摘出術	9
膀胱瘻造設術	2
膀胱悪性腫瘍術	1
その他	18

皮膚科

1. スタッフ

皮膚科部長 工藤 稔

2. 診療内容

当院皮膚科は常勤1名です。入院対象としては、帯状疱疹、蜂窩織炎・丹毒、アナフィラキシー、熱傷、水疱性類天疱瘡などがあります。手術は外来で行える小手術がほとんどです。中でも粉瘤が最も多く、その他、石灰化上皮腫、色素性母斑、ボーエン病、脂漏性角化症、脂肪腫、軟線維腫などがありますが、基本的には単純縫縮できるものを扱っておりますので、いつでもご相談ください。

婦人科

1. スタッフ

婦人科部長 山口 淑恵 [日本産婦人科学会専門医 日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医
母体保護法指定医]

常勤医 安岡 真理子 [日本産婦人科学会専門医、日本女性医学学会女性ヘルスケア専門医]

2. 診療内容

産科：2019年3月で産科を閉鎖していますので、分娩数は3例であり、すべて経膈分娩でした。

婦人科：急性腹症や不正性器出血、月経困難症、更年期障害、排尿障害、子宮留膿症、外陰部異常、婦人科検診の二次精査など、様々な症状に対応しています。子宮付属器炎や高度貧血などでの入院治療や骨盤臓器脱などの膈式手術は行っていますが、緊急手術（開腹、腹腔鏡下）を要する症例は対応可能な医療機関へ紹介しています。

当院では多言語による診療案内など体制を整えていますので、多くの外国人の方にも安心して受診していただいています。

3. 診療体制

現在常勤医2名で診療を行っています。外来診療は当院の診療時間通り、月曜から土曜日まで行っており、基本的には予約制ですが、急な受診や救急対応、当日紹介にも対応しています。

4. 診療実績

手術（2019年1月～12月）

術式	件数
子宮全摘出術	1
子宮脱手術（膈式子宮全摘出及び前後膈壁形成術）	1
子宮頸部円錐切除術	2
流産手術	3

5. 今後の展望

産科閉鎖となり、2019年4月より婦人科として、新たなスタートを切りました。今後も地域の先生方とともに地域住民に寄り添った医療を提供できるよう努力してまいりますので、日常診療においてなにか婦人科的なところでお困りなこと、心配なことがありましたら、是非ご相談ください。

耳鼻咽喉科

1. スタッフ

耳鼻咽喉科部長 新里 祐一 [日本耳鼻咽喉科学会専門医・専門研修指導医 日本気管食道科学会専門医]

2. 診療体制

当科は平成 15 年 6 月に開設され、九州大学耳鼻咽喉・頭頸部外科の関連病院として常勤医師が勤務しています。月曜日および木曜日は、九大病院からの外来非常勤医も勤務しています。

3. 外来診療体制

診療体制はこれまでと大きな変化はありません。月曜から金曜日まで通常午前中は外来診療日としています。月曜日と木曜日は午後診療もおこなっています。土曜日については、奇数週で午前診療をおこなっています。火曜日午後および金曜日午後は手術日としています。

外来受診数は日によって異なりますが、担当医一人あたり 20 人～25 人となっています。水曜の午後および第 2・4 土曜日については休診となっています。予約がなくても外来受診は可能ですが、待ち時間が長くなる可能性があり、特に再来の方については可能であれば予約での受診をお願いしています。

火曜日および金曜日に手術室での手術がない日には、外来での局麻下生検や他科入院中の嚥下内視鏡検査の時間に振り分けています。現実的には嚥下内視鏡検査がかなり多くなっています。高齢者特に施設入所中の方の誤嚥による肺炎は、当院の救急搬送患者のなかでもかなりの割合をしめています。入院当初は絶食で治療されることが多く、炎症がおさまっても廃用萎縮や意識レベルの問題でなかなか経口摂取が順調にいかないことがあります。入院中の患者さんは認知症等でスムーズに検査ができないことも多々ありますが、ST による嚥下リハビリの最初の評価になることから、なるべく参考になるような検査レポートを記載するよう努めています。ただ、令和 2 年 5 月末の時点では、新型コロナウイルス感染対策のため、咳嗽反射を誘発するような喉頭知覚の検査は施行しにくく、また令和 2 年度診療報酬改定により誤嚥性肺炎であれば摂食嚥下機能訓練が呼吸器リハビリの一環として可能になったため、誤嚥性肺炎に対する嚥下内視鏡検査は減少するものと思われま

4. 入院診療実績

入院では福岡市内でも救急搬送の多い当院の性格からか、これまで同様末梢性めまい症が最多です。めまいにて救急車にて搬送された場合、救急外来での画像検査にて脳血管障害が否定された場合は当科に入院することが多くなっています。特に高齢者の場合ははっきりした診断がつかない場合もありますが、頭位治療にて症状が軽快する良性発作性頭位めまい症は眼振のていねいな観察で見落とさないようにしたいと考えています。急性扁桃炎・扁桃周囲膿瘍・急性喉頭蓋炎等の炎症性疾患で紹介入院となることや顔面神経麻痺や突発性難聴等で紹介もいただきます。顔面神経麻痺や突発性難聴は命には関わりませんが、QOL には大きく関係します。迅速な治療開始が必要ですし、通常ステロイド治療が初期治療となるわけですが、近年は糖尿病にて治療中あるいは採血で初めて判明した未治療の糖尿病の方もまれではありませんが、そのような場合には、当院内科の糖尿病専門医にコンサルトして血糖コントロールをお願いできることも、多くの専門医が在籍する当院の利点と感じています。

平成 31 年～令和元年の手術室での手術件数は、両口蓋扁桃摘出術 5 例、気管切開術(気管開窓術)4 例、内視鏡下副鼻腔手術 2 例、ソムノプラスチック 2 例、気管切開孔閉鎖 1 例、気管切開孔拡大 1 例、咽頭のう胞切除術 1 例でした。扁桃周囲膿瘍切開術等の外来手術や局麻下小手術も施行していますが、適応を適切に考慮しながらも手術室での手術症例を増やしていきたいと考えています。

5. 当科の特色

当院は福岡市内では数少ない高気圧酸素療法(HBO)の実施可能な施設です。他施設での初期治療例あるいは入院治療後の方で突発性難聴の改善が思わしくない方のご紹介をいただくことがよくあります。初期治療にて改善が認められなかった方については、治療成績が明らかに良いというわけにはいきませんが、時に改善をしめすこともあり、HBO の効果を実感することがあります。

6. その他

近隣の耳鼻咽喉科の先生方のみならず、他の診療科の先生方にも紹介をいただく機会が増えており、これまで以上に地域医療に貢献できるように努力していきたいと考えています。

これからもどうぞよろしくお願ひいたします。

7. 業績

学会

開催日	演題名	発表者	名称
2019年4月13日	外傷性鼻中隔膿瘍の一例	新里 祐一	第180回日本耳鼻咽喉科学会 福岡県地方部会（福岡市）

論文

著者	論文・著作名	雑誌名：巻(号) 頁・年号
新里 祐一	外傷性鼻中隔膿瘍の1例	耳鼻と臨床（耳鼻と臨床会）： 65巻6号181-185、2019

精神科

1. スタッフ

精神科部長 内田 信哉 [日本精神神経学会専門医・指導医 精神保健指定医]

2. 外来診療体制

当院精神科は完全予約制になっています。それは精神分析的な精神療法、力動精神療法が診療基盤となっている為、患者さん1人当りにかける時間が通常の精神科外来診療より長いことが特長の1つです。しかし、当院は救急病院ということもあり、身体的救急患者さんに精神疾患が併存している時には上記の限りではありません。

3. 入院診療

当院には精神科病床はない為、入院中の患者さんで精神科治療が必要である方に対しては、リエゾンコンサルテーションサービスを行っています。2019年における精神科サービスの科別詳細人数は下表のとおりです。内容としてはせん妄が最も多い症例でした。

診療科	件数	診療科	件数	診療科	件数
整形外科	38	脳神経内科	11	形成外科	2
内科	30	脳神経外科	8	呼吸器科	1
外科	24	耳鼻咽喉科	5	脊椎・脊髄外科	1
循環器内科	17	泌尿器科	4		
救急科	13	心臓血管外科	2	合計	156

4. 研修医教育

協力病院として油山病院にて現在は1人1か月の研修を行っています。当院精神科医も水曜日午後は研修医の講義・指導を油山病院で行う為、当院外来は、水曜日は午後休診となっています。

5. 外来患者数

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
新患	2	2	1	3	0	1	0	3	1	1	0	0	14
再診	123	131	131	137	147	137	144	147	136	142	142	127	1,644
合計	125	133	132	140	147	138	144	150	137	143	142	127	1,658

眼科

1. スタッフ

眼科部長	武末 佳子	[日本眼科学会専門医]
眼科部長	春野 佳子	[日本眼科学会専門医]
視能訓練士	佐野 和子	
視能訓練士	寺崎 かおり	
看護師	濱野 ちよ	

2. 診療内容

常勤スタッフは上記の通りです。視能訓練士がひとり交替し、年初から眼科専任の看護師が加わりました。

外来診療は、予約優先です。午前是一般診療を、午後は手術や特殊検査、外来手術（外眼部手術や硝子体注射、レーザー治療）や視能訓練・ロービジョンケアを行います。

診療範囲は、眼窩、眼瞼、涙道から網膜硝子体、視神経まで、眼科全てに対応します。より高度な診断・治療が必要な時は、近隣の大学病院との連携があります。

3. 手術・入院

手術治療は、月曜・木曜の午後と金曜午前中にしています。福岡大学名誉教授（眼科）の向野利寛先生を招聘して手術をすることもあります。

今年は126件(前年比-6%)で、内訳は以下のようでした。

やはり白内障手術が最多です。また、当院では高圧酸素治療ができます。4例の網膜動脈閉塞症をご紹介頂き治療をさせて頂きました。

手術名	件	手術名	件	注射	件	その他	件
白内障手術	57	眼窩骨折観血の手術	1	硝子体注射	13	高気圧酸素治療	4
(眼内レンズ縫着)	2)	眼瞼手術	8	Botox 注射	12	入院加療のみ	2
(後発白内障手術*)	8)	(内反症)	2)				
緑内障手術	3	(下垂症)	2)				
(濾過手術)	0)	(その他の眼瞼手術)	4)				
(虹彩切除術)	2)	涙道手術	0				
(隅角形成術*)	1)	斜視手術	3				
硝子体手術	2	網膜光凝固術*	10				
網膜剥離復位術	0	その他	9				

*はレーザー治療

4. 今後の展望

専任看護師を新たに迎え、外来の運営は格段に改善されました。各専門職がそれぞれの業務に集中しやすくなったからです。

本年(2020)4月より新しい院長をお迎えし、新型コロナウイルス感染の対応に全力を尽くして病院を守って下さる姿に士気が高まりました。

眼科も心機一転、より専門性の高い診察に力を注いでいく方針を立てました。今までの手術に加え、涙道疾患、斜視弱視、眼瞼の手術などに積極的に取り組んでいく予定です。また、高圧酸素治療や視覚誘発電位(VEP)、多局所網膜電図(multipleERG)など県内でも数カ所ではできない治療・検査を、有効に活用して頂けるよう努力したいと思います。

今後ますますのご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い致します。

麻酔科

1. スタッフ

麻酔科部長 竹内 広幸 [日本麻酔科学会麻酔科専門医 日本救急医学会救急科専門医 日本小児麻酔学会小児麻酔認定医 日本集中治療医学会集中治療専門医 JB-POT 認定医]

麻酔科副部長 森寄 晴喜 [日本麻酔科学会麻酔科専門医]

常勤医 秋吉 瑠美子 [日本麻酔科学会麻酔科専門医]

西川 文 [日本麻酔科学会麻酔科専門医]

2. 診療実績

2019年1月1日～12月31日の期間（以下、本年とする）における麻酔科の麻酔実績は以下の通りです。

麻酔科管理症例数	1,339件（内、手術室内 1,309件 それ以外 30件）
救急救命士による気管挿管実習	1名 修了

年間麻酔科管理症例数全体は前年と比べて約43件減少（前年1,382件）となりました。

以下、本年の麻酔科管理症例について、いくつかの方法で分類し、それぞれの視点から見える実情と今後の課題を分析します。

【ASA-PSによる分類】

予 定	1	2	3	4	5	6*	計	合計
	287	715	147	1	0	0	1,150	
緊 急	1E	2E	3E	4E	5E	6E*	計	
	49	85	39	15	1	0	189	

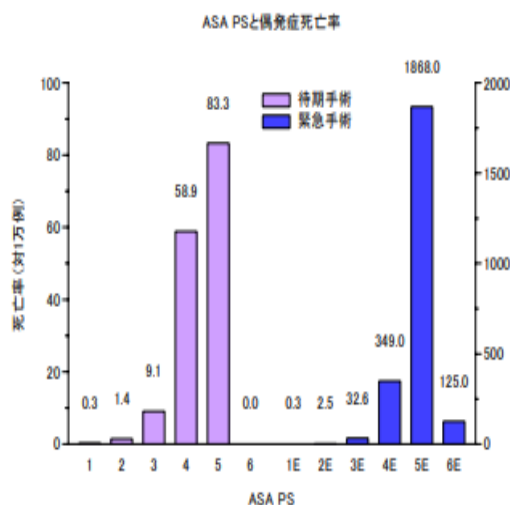
*：臓器摘出を受ける脳死患者

ASA-PSの詳細は、米国および日本麻酔科学会の記述を参照。

本年の手術症例は手術件数としては減少したが、前年と比較して緊急手術の割合が高かったです。

また緊急手術では、ASA-PS 3E以上（コントロール不良な身体疾患が併存していたり、透析やペースメーカーなどの比較的濃厚な治療をうけていたりする患者）、である重症患者が手術に望むことが増えた印象がありました。医療技術（手術、麻酔に関して）進歩により、かつては手術不能・困難であった患者でも手術を受けられるようになっていることの結果なのかもしれないが、ASA-PS 1,2の患者と比べてASA-PS 3の患者は周術期死亡率が格段にあがるという事実は紛れもなくあります（右図）。

高齢、生活習慣病など、手術を受ける点で不利な条件を持つ患者が、昔と比べて増えている。これからもさらに増えると予測されます。



【手術部位による分類】

部位	症例数	部位	症例数
脳神経・脳血管	71	頭頸部・咽喉部	35
胸腔・縦隔	16	胸壁・腹壁・会陰	33
心臓・血管	48	脊椎	109
胸腔+腹部	3	股関節・四肢（含末梢神経）	809
上腹部内臓	102	検査	3
下腹部内臓	108	その他	2
分娩	0	合計	1,339

手術部位による分類では、前年と比較すると、心臓血管手術件数が半減している。その理由は、心臓血管外科の体制が変わったところによるところが大きいかと思われます。今後の件数増加に期待したいところである。他はあまり大きな変化はない。人工心肺手術や腹腔鏡下手術の具体的な件数に関しては、それぞれの診療科の年次報告を参照ください。

【麻酔法による分類】

麻酔法	症例数	麻酔法	症例数
全身麻酔(吸入)	316	硬膜外麻酔	34
全身麻酔 (TIVA)	305	脊髄くも膜下麻酔	202
全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	425	伝達麻酔	19
全身麻酔 (TIVA) +硬・脊、伝麻	9	その他	18
脊髄くも膜下硬膜外併用麻酔 (CSEA)	11	合計	1339

麻酔法に関しては前年と特に変わりなし。

【年齢構成による分類】

	男性	女性	合計
～1ヶ月	0	0	0
～12ヶ月	0	0	0
～5歳	1	3	4
～18歳	42	10	52
～65歳	257	248	505
～85歳	223	344	567
86歳～	31	180	211
合計	554	785	1339

86歳以上の患者の割合が年々増えている。小児症例は横ばい。

以上のことを総合すると、

- ・手術件数は前年より少なかったが、高齢で周術期リスクの高い患者の割合は前年同様高かった。
- ・緊急手術の割合が昨年より高かった。なかでも重症患者の緊急が多い傾向にあった。
- ・心臓血管外科の体制が変わったので、手術件数の今後の増加に期待したい。
- ・他は特にかわりなし。

本年は、手術の大小問わず、リスクの高い患者の麻酔管理を受けることが多かったです。前年と比べて緊急での麻酔管理が増えた印象がある。もはや、高齢者、基礎疾患がある患者、などの高リスク症例は当たり前になってきています。医療技術の進歩の甲斐あって、現在は昔よりもハイリスクな手術・麻酔をできるようになっているが、周術期の管理、もともとの併存疾患の管理の質は、地域医療を担う救急病院として強く求められるところであり、それに応えるための研鑽は続けなければなりません。

放射線科

1. スタッフ

放射線科主任部長	石岡 久和	[日本医学放射線学会放射線診断専門医]
放射線科部長	國弘 敏之	[日本医学放射線学会放射線診断専門医]
放射線科部長	木村 正彦	[日本医学放射線学会放射線治療専門医] 令和2年3月退職

2. 診療内容

画像診断としては、急性疾患を中心として撮像・読影を施行しています。一方で、精査目的の検査も施行し、複数の医療機関からの疑わしい病変についての撮像・読影のご依頼も受けています。院外の先生方からのご依頼を多く頂き、このような形での地域への貢献をできればと願っています。

CTでは、80列、320列の2台のCTを駆使して診療を行い、MRIでは3.0T、1.5T装置の2台体制で診療を行っています。これにより多くの検査を迅速に施行し、救急のみならず炎症・腫瘍を含めた多くの疾患に対応できる体制を整えています。

放射線治療としては、九州大学医学部放射線科（九州大学医学研究院 臨床放射線科学分野）から放射線治療医を派遣して頂き、リニアック装置による高いレベルの治療を行っています。福岡市に限らず県外を含めて広く篤く対応いたしますので、ご紹介を頂ければ幸いです。

装置の充実に加えて、放射線技師の技術の高さと仕事に対する積極性、フットワークの良さは当院が常に誇っているところです。当院は装置と人材を揃えております。これにより、依頼医の先生方からの要望に迅速かつ高いレベルで柔軟に対応していきたいと考えています。

画像診断・放射線治療の2本の柱で、院内の各科先生方、院外の多くの先生方からのご依頼に応え、今年度もこの地域で頼りになる福岡記念病院放射線科を目指していきたいと考えています。

3. 診療実績

放射線科業務実績（2019年）

種別	件数	種別	件数
一般撮影	30,307	CT撮影 頭頸部	5,375
乳房撮影	64	軀幹	7,795
骨塩定量測定	968	四肢	524
造影撮影（DIC, IVP, ERCPなど）	273	CT撮影 計	13,694
消化管撮影 上部消化管	36	MR撮影 頭頸部	3,479
下部消化管	39	軀幹	1,088
その他	107	四肢	255
消化管 計	182	MR撮影 計	4,822
血管造影（含IVR） 頭部	29	核医学検査（RI）	335
軀幹・四肢	56	放射線治療 ガンマナイフ	156
循環器	586	リニアック延照射数	737
血管造影 計	671		

歯科・歯科口腔外科

1. スタッフ

副院長 大塚 秀一 [歯学博士]
常勤医 大塚 智子

2. 診療内容

歯科医師 2 名、歯科衛生士 2 名の体制にて診療を行っています。診療としては一般歯科治療、口腔外科、歯科インプラント治療、入院患者（希望者）の口腔ケア、摂食機能療法、歯科健診、口臭測定等を行っています。

診察時間	
平日	8:30～17:00（16：30 受付終了）
土曜日	8:30～12:00（11：30 受付終了）

2. 診療実績

病名	件数	病名	件数
歯周病	247	口腔裂創・挫創	10
義歯作製	60	歯牙脱臼	10
歯牙破折	19	歯槽骨骨折	4
智歯周囲炎	17	睡眠時無呼吸症候群	1
顎関節症	16	その他（良性腫瘍、唾石など）	6
顎骨骨折	14		

3. 勉強会、糖尿病教室

開催日	名称	テーマ
2019 年 9 月 13 日	歯科勉強会	CAD/CAM の適用症例について
2019 年 6 月 14 日 2019 年 12 月 13 日	糖尿病教室	糖尿病と口腔ケア

4. 今後の方針

近年患者様の QOL 向上のために、嚥下や口腔内環境が大きく関与していると言われていています。そのため入院の患者様に対しての、口腔ケアや嚥下訓練を行う、摂食機能療法を行っております。また口腔内疾患と全身疾患との関連性も多数報告されています。このようなことを患者様や多くの方々に知ってもらい、歯科治療に対する関心を持って頂きたいと思っております。

今後歯の欠損治療として、義歯やブリッジに変わる歯科インプラント治療も積極的に取り入れていきたいと思っております。

臨床検査科

1. スタッフ

臨床検査科部長 塚本 良樹 [日本医学放射線学会放射線専門医]

看護部

○看護部の理念

常に社会と医療の動向に目を向け、安全で信頼される良質の看護を提供します。

○看護部の基本方針

1. 患者さんの人間性を尊重し生命の安全を確保します。
2. 患者さんの意志決定の支援を行います。
3. 地域との連携を密に行い、継続看護の充実を図ります。
4. 自己研鑽を重ね、専門職としての能力開発の向上に努め、組織の活性化につなげます。
5. 情熱と誇りを持った看護人を目指します。

○令和元年度看護部の目標

1. 安全で質の高い看護提供

- (1) フィジカルアセスメント能力を高める。
院外研修の参加（部署2名以上の参加）
- (2) 部署の薬剤管理の徹底と確認業務の定着。
- (3) 転倒転落件数の減少（転倒による骨折を0%にする）

2. 業務改善と活気ある職場、元気の出る職場作り

- (1) 各部署1例以上の業務改善に取り込む。
- (2) ワーク・ライフバランスを意識した業務遂行に取り込む。問題の明確化、現状の把握、課題の抽出と対策の立案、実施、評価を行い定時に帰れる体制作りをする。
- (3) 看護チームの一員である看護助手との協働を推進する。業務の見直しを年2回実施

3. 病院経営への積極的な参加

- (1) 全部署において効率的効果的な病床管理を医師と共に行なう。
病床利用率88%以上、（入院患者数220人/日）平均在院日数14日以内
- (2) 重症度、医療、看護必要度の精度管理に取り組む。

4. 接遇の向上

- (1) 看護職員としてふさわしい身だしなみや態度を育成する。
- (2) 看護職員の接遇による患者満足度が向上する。

1. 目標1については、集合教育、現場実践でまた院外研修参加で個人差はあるがアセスメント能力を高めることが出来た。院外研修参加に関しては、99名の参加で昨年と比較すると20名ほどの減少である。看護協会加入者の増員と院外研修に積極的に参加し能力アップにつなげていく。薬剤管理業務では、確認業務の定着をさせるとしていたがインシデント報告で注射71件、内服64件で忘れの報告が全体の26%を占めている。確認の徹底強化をさらに定着させる。転倒転落に関しては、レベル3以上の症例が7例起きている。転倒転落予防対策カンファレンスを毎日行い減少に努める。抑制帯の解除に向けたカンファレンスも同様に行っていく。

2. 各部署の業務改善は、主任を中心に行ってきたが、ナースコール対応が十分に出来ていない部署がある。各部署再度指導。看護補助者研修も夜勤業務開始前に研修を行い業務上での問題点課題なども師長会で話し合いをし見直しが出来た。

3. 病院経営にも重要な病床管理を医師とともに行うようにしているがうまくいかない病棟もあった。目標の88%は超え令和元年9月より90%を超える病床利用率であった。看護必要度も基準を超え42.2%でICU、HCUに関しても基準を超えており今後もデータ上の病棟管理を行っていく。

4. 看護師の接遇に関しては、言葉遣いや挨拶が出来ない看護師がいる。部署により差があるように感じる。看護部全体での解決対応が必要である。また看護師に対してのクレームも35件ありほとんどが看護師の対応の不満である。忙しさを理由に患者に対する不満が出ることないように患者様に添った看護が出来るようさらに指導をしていく。

○看護師の入職の動向

H31年4月入職者新卒者43名（既卒者7名 准看護師13名）

7対1看護体制は確保できているが、安全で安心した医療提供をするためには人材の確保を図りながら安心して働ける環境を整備し多様な勤務体制の導入など働き続けられる職場への改善に力を入れ離職防止に力を入れる。また中堅看護師の育成と働きやすい職場づくり、ワークライフバランスを考慮した勤務体制のあり方を構築していく必要がある。看護師の業務負担軽減を図るため看護補助者の夜勤業務開始により少しでも看護師の負担軽減と、専門的業務の充実と看護の満足感が出来るように調整していく。

H31年度、新卒看護師の確保を目的としたインターンシップは年々参加者が増加、今年度は参加44名、内12名の採用に結びついた。参加した看護学生からは「学校でできない体験ができた」「とても優しく教えてもらえて楽しかった」「職場風土が良かった」など好評な意見が多く、教育担当副看護部長主導の下、今後も広報活動をさらに充実させ引き続き行っていく。

○活動内容

1. 看護教育活動

1) クリニカルラダー教育

各ラダー別研修の開催回数および延べ参加者数

	開催回数	延べ参加者数
ラダーⅠ研修	8回	321名
ラダーⅠ-b研修	7回	121名
ラダーⅡ研修	7回	226名
ラダーⅢ研修	6回	103名
ラダーⅣ研修	4回	68名
全ラダー合同研修	6回	581名

2) 認定看護師による地域連携施設対象看護研修会

「人生の最終段階における看護ケア」～意思決定支援から看取り期までの看護～

緩和ケア認定看護師 南4, 5階看護師 廣畑 由美子

「急変時の対応」

救急看護認定看護師 救急認定看護師 井藤 裕之

3) 院内BLS研修 修了者数38名（新卒者）

4) 主な院外研修修了および資格取得者

看護実習実地指導者講習会修了 南4階病棟看護師 本田 美由紀

5) 院外研修参加者 99名

6) 看護補助者の活用推進のための看護管理者研修修了者

6階師長 清水 理恵

4階師長 安永 杏子

南45階主任 松平 晴菜

5階師長 加藤 綾

7) 厚生労働省の定める看護職員認知症対応力向上研修終了者 計8名

8) 学会発表

開催日	演題名	発表者	学会名
令和元年 12 月 14 日	脳血管疾患患者誤嚥性肺炎予防の取り組み ～看護師の意識向上と統一化をはかって～	5 階病棟看護師 浅井 千秋	第 18 回 福岡県看護学会 (ナースプラザ福岡)

9) 実習校受入れ実績

学校名	学年	実習内容	実習生数
福岡医療看護専門学校	看護学科 1 学年～3 学年	基礎看護Ⅰ・Ⅱ、成人看護Ⅰ・Ⅱ、統合、小児 母性	94 名

10) 看護の日事業 ふれあい看護体験受入れ

学校名	学年	受け入れ人数
中村学園女子高等学科央	3 年生	1 名
福岡女子高校	3 年生	1 名
県立春日高等学校	3 年生	1 名

11) 中学生の社会科見学

学校名	受け入れ人数
百道中学校	5 名

3. ベッドコントロール

令和元年度は、平均在院日数が 13.7 日と昨年と比較すると 0.8 日短くなっており令和 2 年度は 13 日以下を目標とする。病床稼働率も平均 89.8%で昨年度と比較して 4.2%と下がっており H31 年度は 90%越えを目指したい。トラブル発生時の対処を適切に行うことを目的として、主任が交代制で管理日直を行うこととした。結果、ベッドコントロールがスムーズに行われるとともに今まで救急外来や病棟のスタッフナースで行っていた業務負担を軽減することができた。また、トラブルが発生した際の速やかな収束はスタッフナースの業務上での不安の軽減にもつながっている。

4. チーム医療、医療経営への参画

重症度・医療・看護必要度においては「評価者院内指導者研修」を修了者で、全職員研修実施。現在、重症度医療看護必要度 1 であるのでⅡの基準を目指し看護業務の軽減を図りたい。

救急対応では、I C L S 研修参加者 1 名・A C L S 研修者インストラクター-研修終了者 6 名、今後は、現場で活動していく。

薬局

1. 活動報告

当院では、薬剤師 22 名が 24 時間体制（2 交代制）で業務にあたっています。2008 年 7 月より、入院患者に対する医薬品安全管理の向上を目指して、一病棟から薬剤師の配置を開始し、徐々に全病棟へと拡大してきました。その成果として 2019 年度は薬剤管理指導件数 9,740 件、退院時指導 3,021 件と多くの患者に対して薬学的管理を行うことができました。また、入院患者全てを対象に持参薬の鑑別を行うことで医師・看護師への情報提供に役立っています。その他にも病棟では、注射薬の手技、投与ルート、相互作用、配合変化、投与順序の確認、点滴時間の振り分け等も行っています。薬剤師が関与することで病棟での Medikation エラーの減少につながっています。また、適正使用が特に推奨されている抗 MRSA 薬の処方設計や、抗がん剤のミキシングも行っており、高度な専門知識が求められる場面で薬剤師が活躍しています。

福岡記念 PET・健診センターでは、薬剤師が放射線技師と共同して、放射性医薬品の製造・合成および検定を行い、品質が保証されたものを提供しています。

2019 年は調剤機器（錠剤分包機、散剤分包機や服薬指導支援ツールを一新し、設備も充実しております。その他、福岡県医薬品適正使用促進連絡協議会の処方適正化アプローチ事業にも参加いたしました。

今後も地域における基幹病院としての役割を果たせるよう薬剤師一同努力してまいります。

2. 業務集計

薬剤管理指導件数

	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
服薬指導	9,967	10,912	10,601	10,096	9,740
退院時指導	3,250	3,234	3,006	3,001	3,021

TDM、無菌製剤、化学療法件数

	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
TDM	214	215	225	176	221
無菌調剤	196	480	714	387	484
化学療法	136	196	222	152	123

PET-CT 件数（FDG 製造・合成）

	2015 年	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
PET	1,859	1,627	1,618	1,805	1,706

3. 業績

演題	演者	開催日	学会・研修会等名称
地域包括ケアシステムにおける病診薬連携の在り方	下山 真智子	2019 年 11 月 22 日	Pharmacy director Seminar
輸液の適正使用に向けた取り組み ～他職種への情報提供について～	岡本 美由紀	2019 年 10 月 2 日	福岡地区勤務薬剤師会 第 4 回輸液・栄養セミナー
各種研修・認定制度の紹介 ～中小病院の薬剤師だからできること～	水之江 峻介	2019 年 11 月 27 日	福岡地区勤務薬剤師会 中小病院委員会第 109 回研修会
核医学診断で用いられる放射性医薬品と薬剤師の役割	折津 公隆	2019 年 11 月 27 日	福岡地区勤務薬剤師会 中小病院委員会第 109 回研修会

4. 専門・認定薬剤師

名称	人数
栄養サポートチーム専門療法士	3 名
外来がん治療認定薬剤師	1 名
がん薬物療法認定薬剤師	2 名
日本糖尿病療養指導士	1 名
日本薬剤師研修センター研修認定薬剤師	3 名

名称	人数
認定実務実習薬剤師	2 名
骨粗鬆症マネージャー	1 名
日病薬病院薬学認定	1 名
日本医療薬学認定	1 名

放射線科

1. 活動報告

2019 年は、4 名の新人技師が入職しました。福岡記念病院と福岡記念 PET 健診センターの放射線検査・治療業務を、技師 24 名体制で担当しております。

今年は、大きな機器更新がなかった分、各装置を安全に、かつ適切に運用するという事に力を入れた年となりました。2020 年より、医療被ばくに関する法改正がおこなわれ、放射線作業従事者の被ばくはもとより、受診者の検査による被ばくが適切に管理されることが義務づけられます。患者さまに対しては必要最小限の放射線量で、最大限の情報を提供できるよう、技術と知識を磨かねばと心を新たにしているところです。

これからも、当院が掲げる「安全で信頼される医療」の一翼を担うべく、日々患者さまと向き合い、業務に励んでいきます。

2. 設置機器

設置施設	種別	台数
福岡記念病院	一般撮影装置	3 台
	乳房撮影装置	1 台
	骨塩定量測定装置	1 台
	X 線 TV	1 台
	80 列 MDCT	1 台
	320 列 MDCT	1 台
	1.5 テスラ MR 装置	1 台
	3.0 テスラ MR 装置	1 台
	核医学診断装置	1 台
	循環器対応血管造影装置	2 台
	移動型外科用イメージ	3 台
	ポータブル撮影装置	3 台
	ガンマナイフ	1 台
	リニアック	1 台
	CR システム	3 台
	DR (FPD) システム	2 台

設置施設	種別	台数
福岡記念 PET・健診センター	一般撮影装置	1 台
	乳房撮影装置	1 台
	骨塩定量測定装置	1 台
	X 線 TV	1 台
	PET-CT 装置	1 台
	サイクロトロン	1 台
	CR システム	1 台

3. 福岡記念 PET・健診センター業務実績

種別	2016 年	2017 年	2018 年	2019 年
胸部撮影	6,534	6,783	6,492	6,990
乳房撮影	1,644	1,603	1,625	1,571
消化管撮影	1,630	1,504	1,501	1,707
CT	269	153	85	51
脳ドック	338	432	465	547
PET-CT 検査	1,693	1,610	1,745	1,767
骨塩定量測定	98	127	100	98

リハビリテーション科

1. 施設基準

- ・脳血管疾患等リハビリテーション料 I
- ・廃用症候群リハビリテーション料 I
- ・運動器リハビリテーション料 I
- ・心大血管疾患リハビリテーション料 I
- ・呼吸器リハビリテーション料 I
- ・がん患者リハビリテーション料
- ・集団コミュニケーション療法

2. 人員配置

2019年は、新規に5名を採用しました。

	理学療法士	作業療法士	言語聴覚療法士	介護要員	非常勤
人数	31	19	7	2	3

常勤合計 59 名

3. リハビリテーション料年間実績

患者実数： 5,276 名

年間累計単位数： 206,861 単位

4. 介護保険サービス

通所リハビリテーション、介護予防通所リハビリテーションは9月30日をもって終了となりました。

5. 業績

日付	演 題	発表者	学会名
7月14日	MTDLP を用い意欲向上、活動量増加を図る事が出来た腹部大動脈瘤の症例	伊藤 雅史 (OT)	第25回日本心臓リハビリテーション学会
10月5日	人工股関節全置換術後の機能的脚長差は退院時の QOL には影響を与えない	陣内 珠美 (PT)	第24回日本運動器理学療法学会学術大会

臨床検査科

1. 活動報告

生理検査（院内と福岡記念 PET・健診センター）・細菌検査・時間外日当直検査は当院検査技師 8 名が担当しており、検体検査は LSI メディエンス検査技師 4 名が対応しています。

臨床検査適正委員会を 2 ヶ月毎に開催し、業務内容・査定状況・精度管理・インシデントやクレームへの対応について検討しています。外部精度管理は日臨技臨床検査精度管理、日本医師会精度管理に参加しましたが、本年も特に問題を指摘されませんでした。

輸血部門は生理部門技師が兼務し依頼・発注・受付・交差試験・製剤管理を行っています。院内在庫の製剤はないものの、医師との連携を図り、日赤との連絡も取り合いながら臨機応変に対応しており、心臓血管外科・救急患者等の大量輸血も迅速な対応を行っています。

細菌検査部門は専任技師 1 名+1 名（パート職員）で、近隣病院との相互ラウンドも実施され、委員会等においても院内感染対策にも大いに貢献しています。

時間外検査件数は年々増加傾向にあります。生理検査部門では新卒技師を 2 名採用しており、当直体制から夜勤体制への移行出来る体制を整えることが出来る様教育を行っています。また、増員によって更なる検査内容の充実、及び各が超音波検査士等の各種認定技師取得を目標に頑張っており、更なる検査の質の向上を目指しております。

2. 令和元年業務集計

検体検査件数 (LSI メディエンス)

院内検査	615,923 件
外注検査	13,380 件
計	629,803 件

細菌検査

一般細菌	4,166 件
抗酸菌	1,950 件
その他	168 件
計	6,284 件

輸血検査

RBC(WBC)	933(0) 件
FFP480(FFP240)	172(45) 件
PC10	128(5) 件
自己血全血(使用量)	21 件
計	1,302 件

※ 破棄 RBC 7/FFP240 1/PC10 2

当直時間帯での検査件数

生化学検査	6,271 件
血算	6,281 件
感染症検査	497 件
凝固	1,775 件
血液型判定検査	143 件
交差適合試験	178 件
生理検査	263 件
心臓カテーテル検査	46 件
その他	2,416 件
計	17,870 件

生理検査（福岡記念病院）

心電図	3,983 件	
心電図(負荷シンチ)	213 件	
ホルター心電図	325 件	
イベントレコーダー	106 件	
ABI	351 件	
肺機能検査	264 件	
脳波	319 件	
その他	7 件	
エコー	腹部	1,857 件
	心臓	3,425 件
	血管	1,754 件
	腎動脈	37 件
	体表	346 件
計	12,987 件	

生理検査（福岡記念 PET・健診センター）

心電図	7,584 件	
肺機能検査	1,487 件	
眼底撮影	1,763 件	
眼圧測定	1,198 件	
ABI	72 件	
エコー	腹部	1,925 件
	心臓	61 件
	頸動脈	162 件
	乳腺	903 件
	甲状腺	65 件
計	15,220 件	

感染制御部

【会議】

ICC 会議 第4木/毎月 16:00～ 定例会議 12回、臨時会議 2回 (10月16日、3月16日)

ICT 会議 第1火/毎月 16:00～ 定例会議 12回

ICT 活動 (ラウンド) 木/毎週 14:00～ (4月～2020年3月) 4回/月ラウンド実施

【目標】

ICC: 院内感染対策委員会規定に準じ、討議・検討し、活動を推進する

ICT: ICCで推進された事項を ICT 規定に準じ、感染対策活動を実施する

1. AMR 対策 (2016年-2020年)

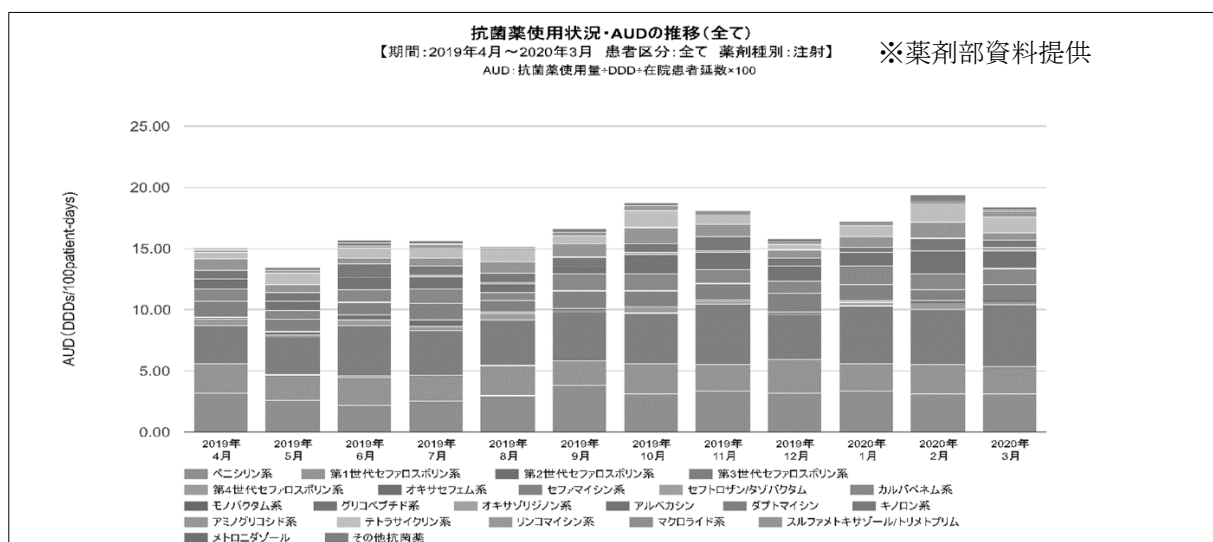
2. 抗菌薬適正 (AST) 活動を開始する

開始時期: 未定

AST メンバー: 専従 (薬剤師)、兼任 (医師、看護師、臨床検査技師)

3. 抗菌薬適正使用の監視と指導

薬剤耐性及び抗微生物剤の使用量を継続的に監視、薬剤耐性の変化や拡大の予兆を適切に把握
 静脈注射抗菌薬の使用量 (AUD) を 150 (自施設目標 H31 年度 156) 以下とする



静脈注射抗菌薬の使用量 (AUD) 2019 年度: 155、2018 年度: 147

2019 年度自施設目標 156 と設定→155 で目標到達

(1) 細菌検査部門

① 国の薬剤耐性菌減少目標値に向けての成果指導の報告

肺炎球菌 ペニシリン耐性 ⇒15%以下

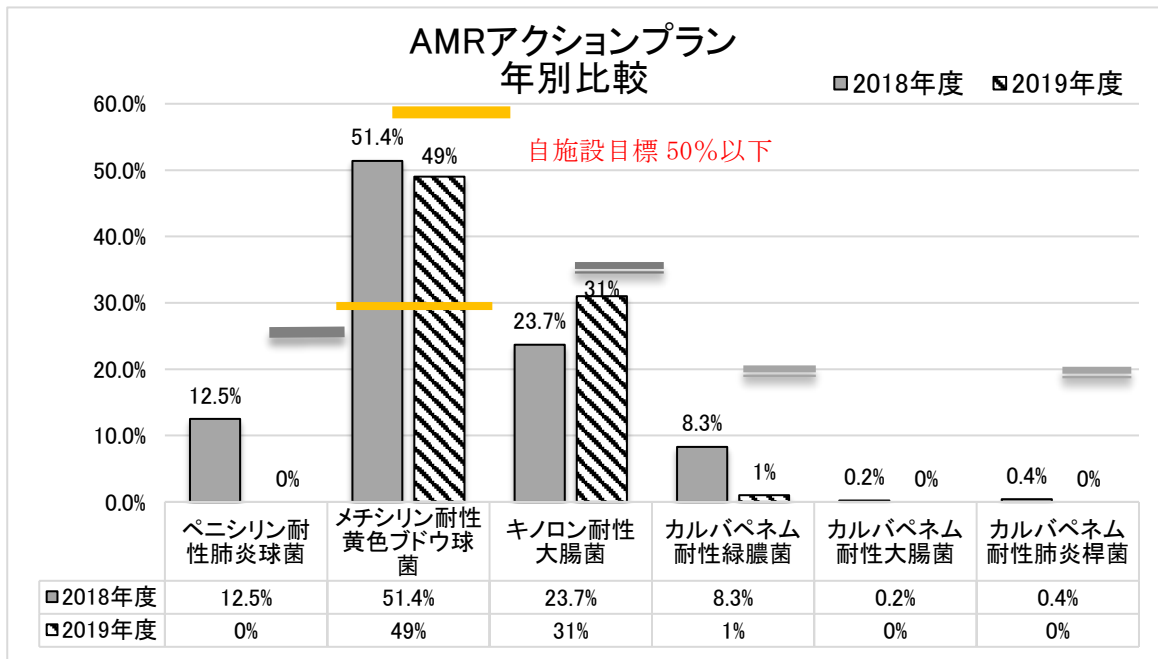
MRSA ⇒20% (自施設目標 H31 年度 50%) 以下

大腸菌 フルオロキノロン耐性 ⇒25%以下

緑膿菌 カルバペネム耐性 ⇒10%以下

肺炎桿菌 カルバペネム耐性 ⇒10%以下

上記耐性菌の動向調査・監視を行う



評価：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌(MRSA)の検出率は49%（自施設目標は50%以下）であり目標値内であった。（国の目標は20%以下）

キノロン耐性大腸菌が25%以下としているが31%で（6%）上昇

その他耐性菌は目標値を下回る

② 耐性菌サーベイランスを実施する

西部地区、福岡地区サーベイランスに参加

【平成29年度からの継続】

加算取得に準じた感染対策活動を行う

1. 加算1-加算2の連携

加算2施設：博愛会病院、南川整形外科病院、福岡山王病院

開催予定日：6月4日（火）、10月1日（火）、令和2年3月3日（火）3回開催

2. 加算1-加算1連携

加算1-1連携

浜の町病院と当院の相互ラウンドを実施

当院の訪問は、10月12日（水）14時から16時30分まで、浜の町病院がラウンドし感染対策に関する項目を実施。

浜の町病院の訪問は、11月20日（水）14時から16時30分まで、当院がラウンドし感染対策に関する評価を実施。

浜の町病院によるラウンド評価（課題含む）は11月28日ICC会議で報告実施。

【平成30年度保健所立ち入検査指導項目の改善】

改善済

1. 西部地区合同カンファレンス（加算1-2施設）継続

西部地区合同カンファレンスは、2回/年カンファレンス開催（持ち回り制）

4月26日第1回目：九州医療センターで開催、11月29日第2回目：白十字病院で開催

四職種揃って参加。

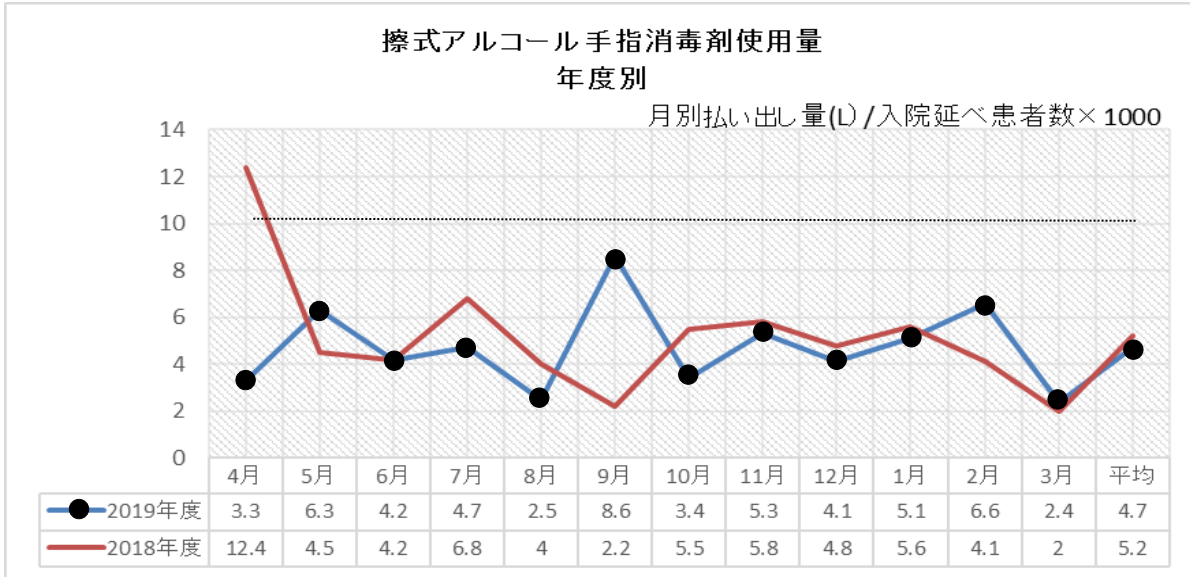
【院内感染対策の推進】

2. サーベイランスの実施

感染管理システム導入 (2019/06/01～)

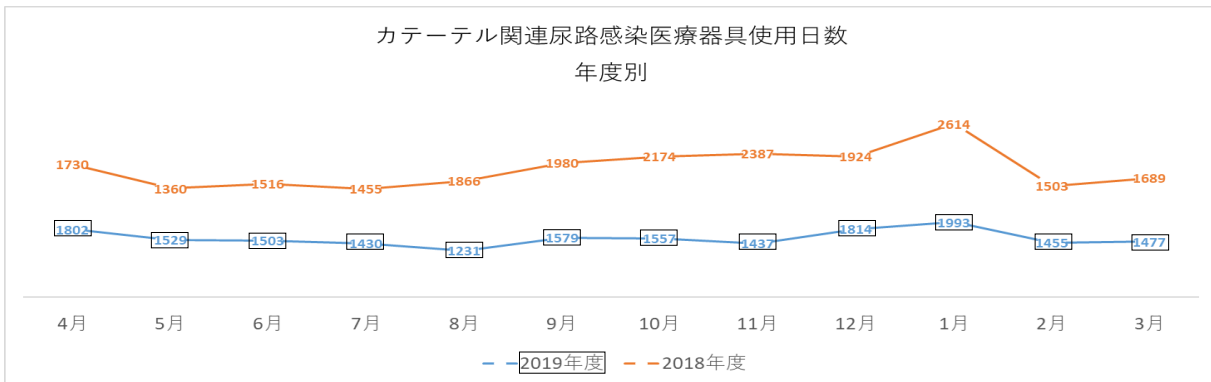
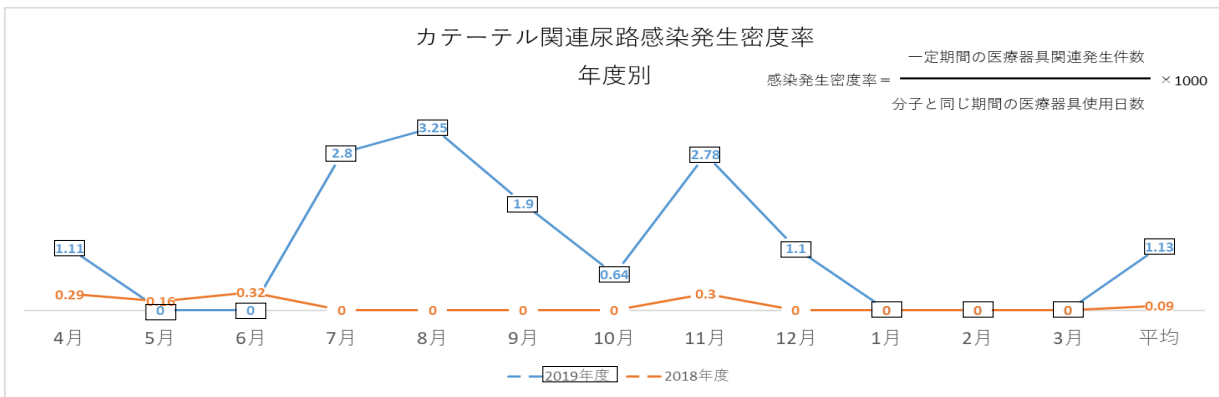
- ① 薬剤耐性菌サーベイランス
- ② 抗菌薬サーベイランス
- ③ 手指消毒剤 (アルコール) 使用量サーベイランス

目標：10ml/1患者/1日

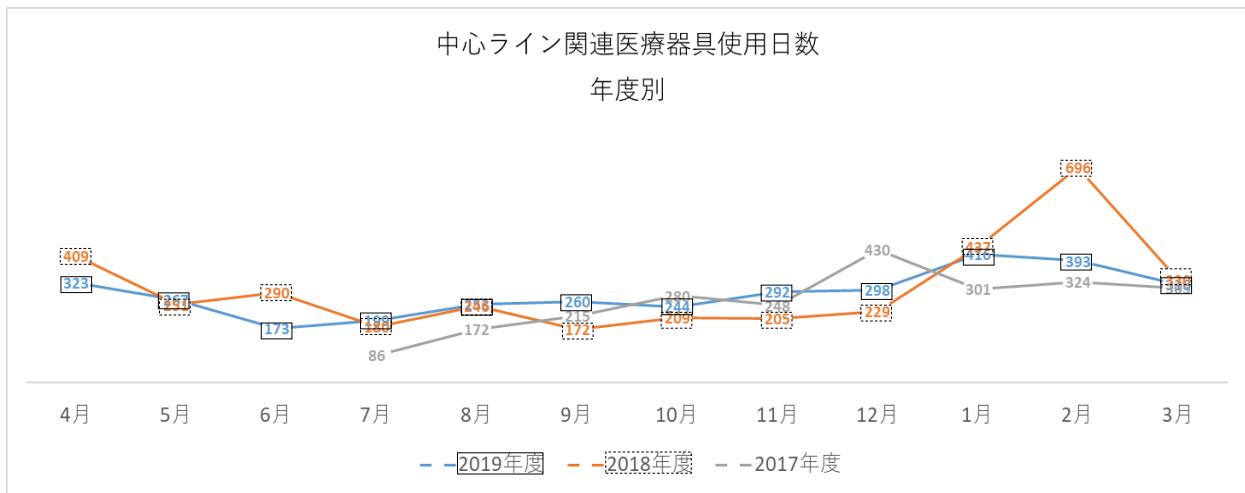
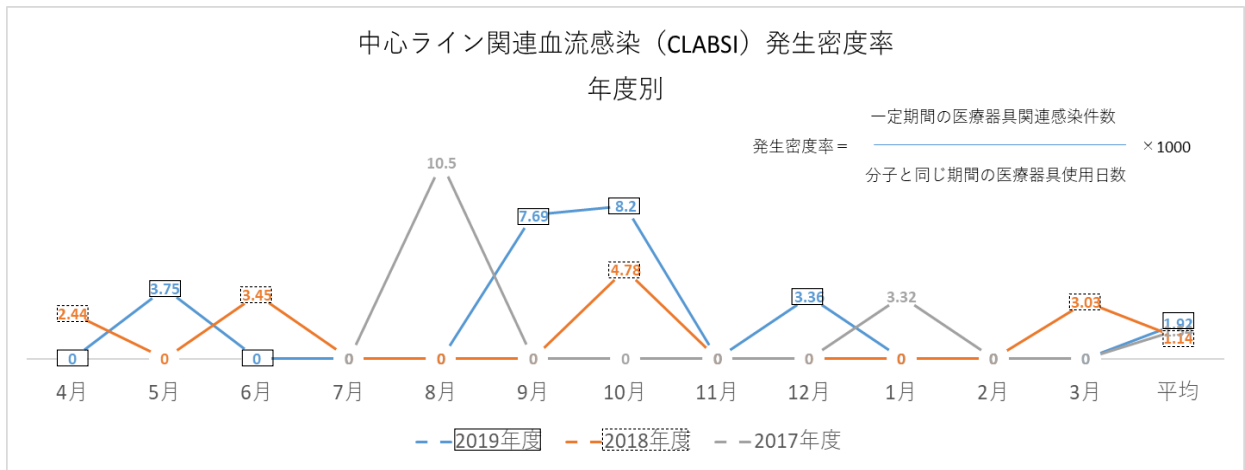


2019年度目標使用量の半分 (4.7ml/1患者/1日) であり、手指衛生遵守が低い

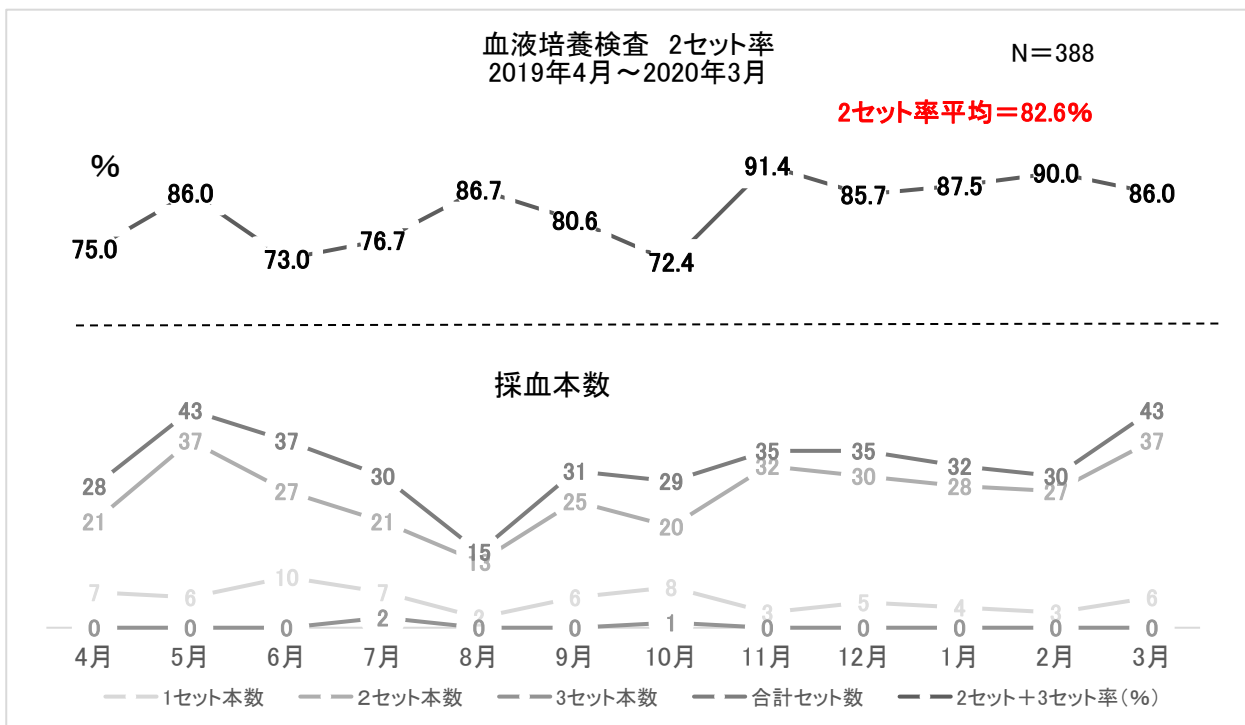
- ④ 人工呼吸器関連肺炎 (VAE)
- ⑤ 尿道留置カテーテル関連感染



⑥ 中心静脈カテーテル関連感染



血液培養検査 2 セット調査
(目標: 80%以上)

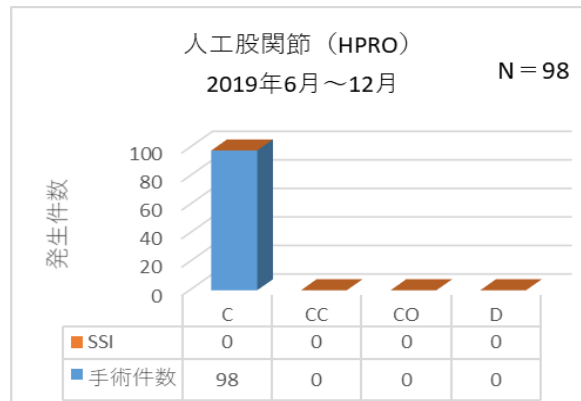
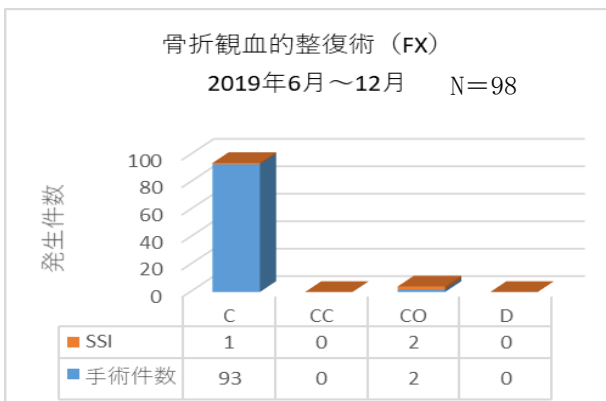
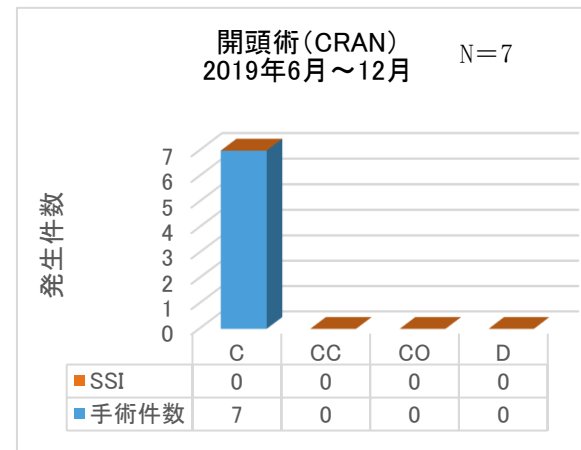
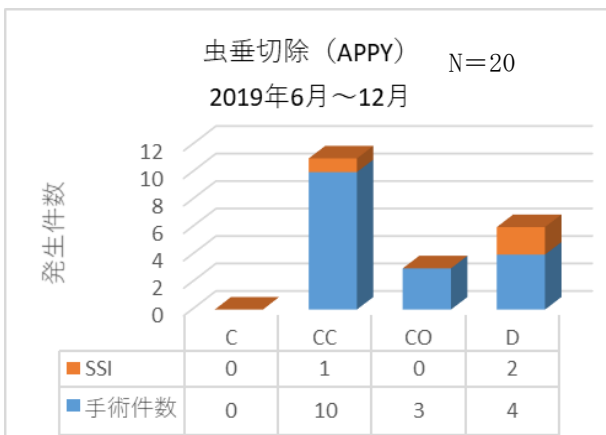
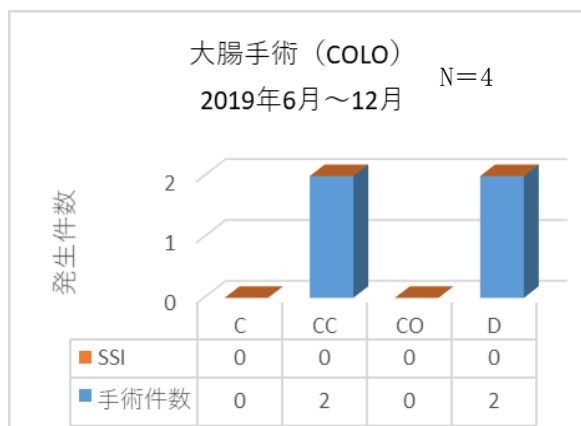
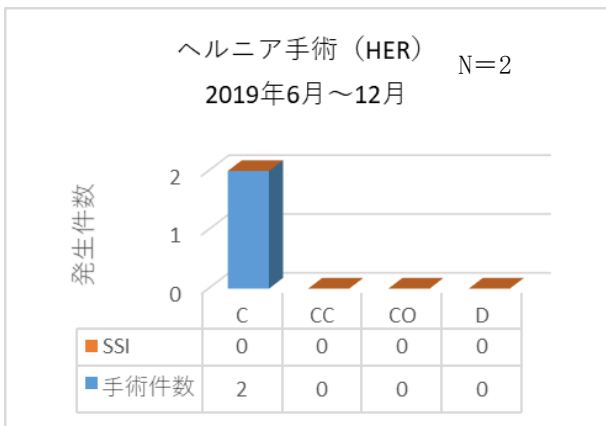
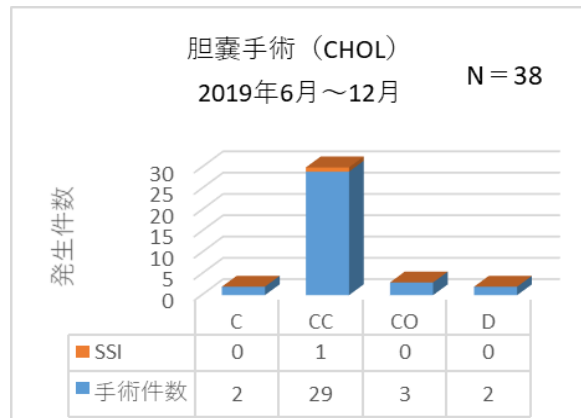
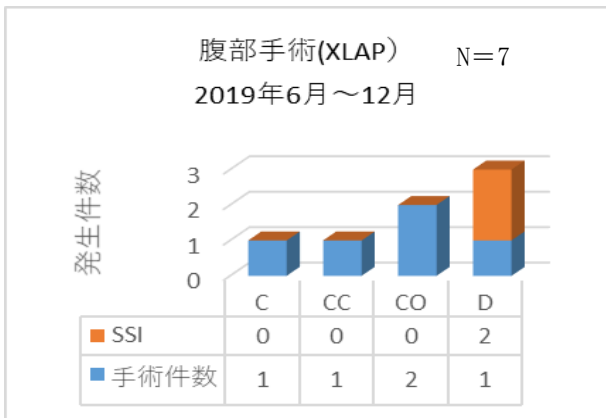


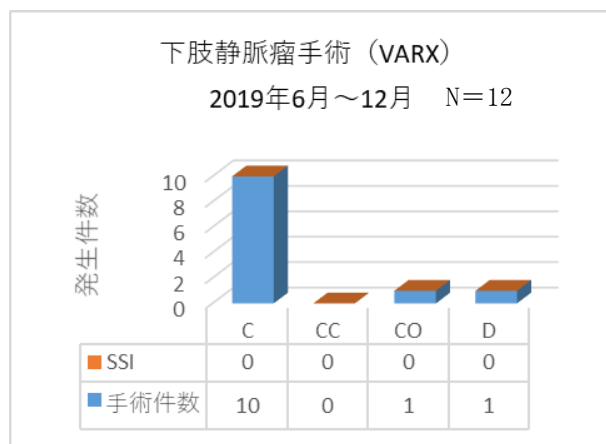
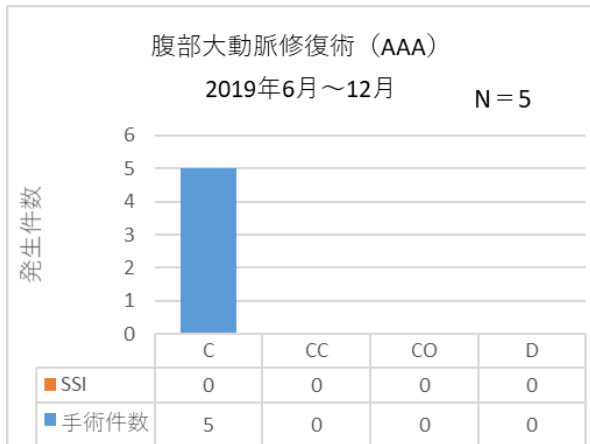
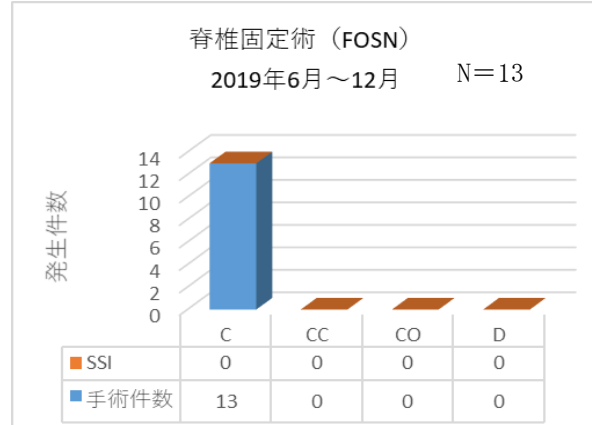
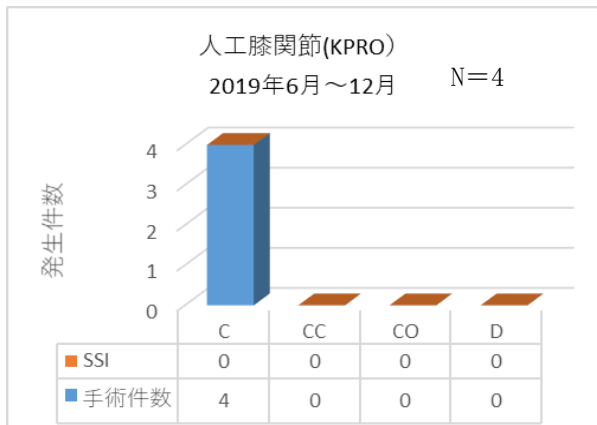
2019年度血液培養検査 2セット率は 82.6%であった

⑦ 手術創感染 (SSI) 期間：2019年6月～12月

創分類

C：清潔創（クラスⅠ） CC：準清潔創（クラスⅡ） CO：汚染創（クラスⅢ） D：化膿創（クラスⅣ）

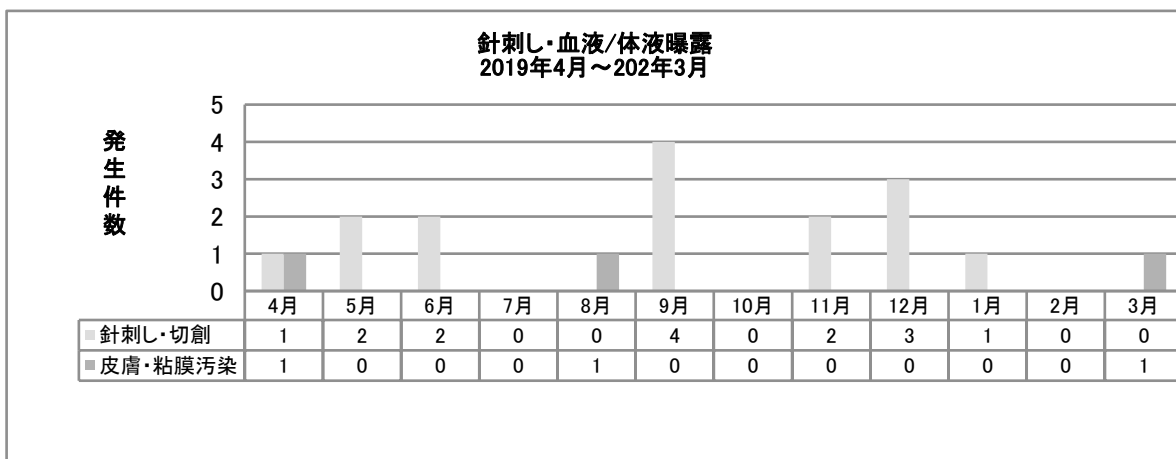




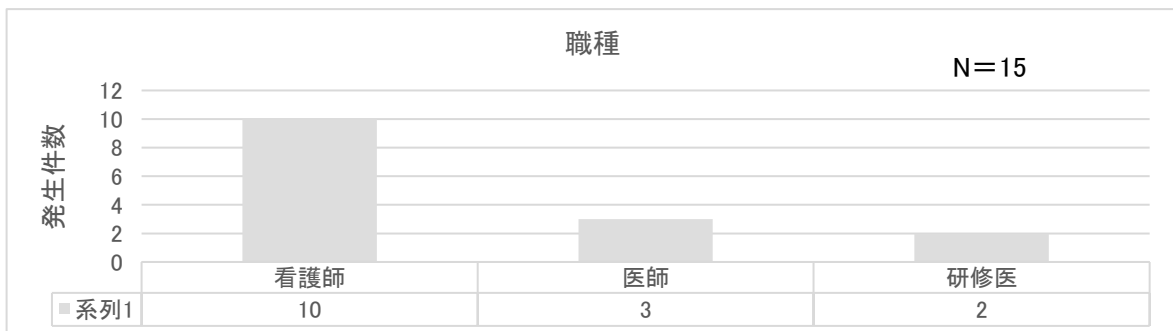
⑧ PPE 使用量サーベイランス

【職業感染対策】

⑨ 針刺し・粘膜曝露サーベイラン

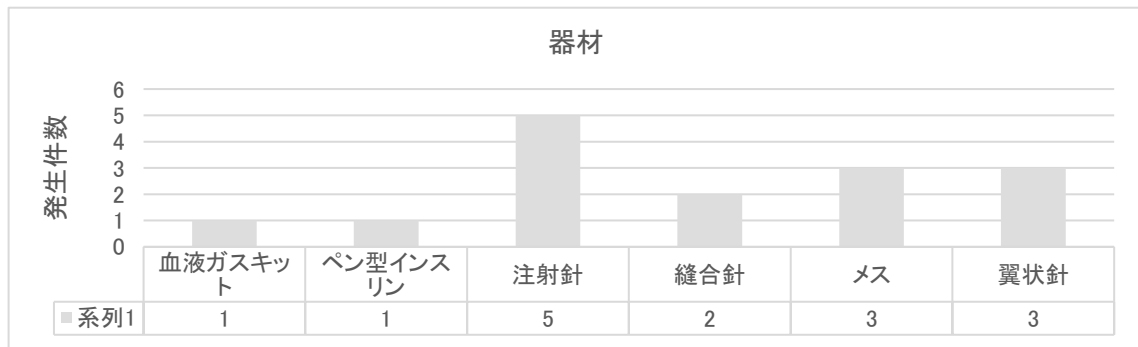


【職種別】



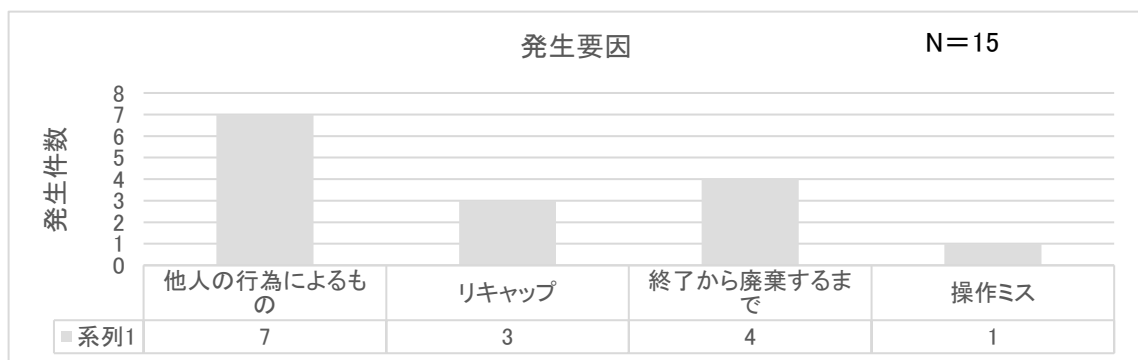
職種別では、看護師 10 件、医師 2 件、研修医師 2 件発生

【器材別】



器材別では、血ガスキット 1 件、ペン型インスリン 1 件、注射針 5 件、縫合針 2 件、メス 3 件、翼状針 3 件発生

【発生要因】



発生要因は、他人が持っていた 7 件、リキャップ 3 件、廃棄まで 4 件、操作ミス 1 件発生

課題：血液・体液曝露（針刺し）防止のための研修

HBs 抗体価検査とワクチン接種推進

- ① インフルエンザ、ノロウイルスアウトブレイクを起こさない

11 月～3 月までアウトブレイクの監視

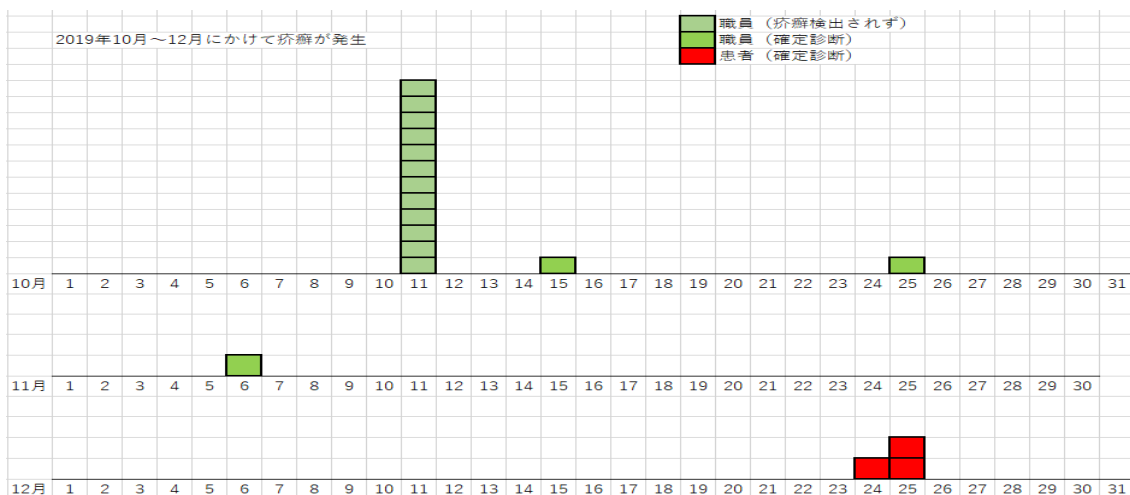
インフルエンザ、ノロウイルスのアウトブレイク発生無

咳エチケットポスター掲示、窓を開け換気実施、面会制限な行なわず

- ② 疥癬のアウトブレイク発生（10 月 11 日～12 月 25 日）南館 4 階

職員 15 名（疥癬確認 3 名、未確認 12 名）、患者 3 名（疥癬確認）

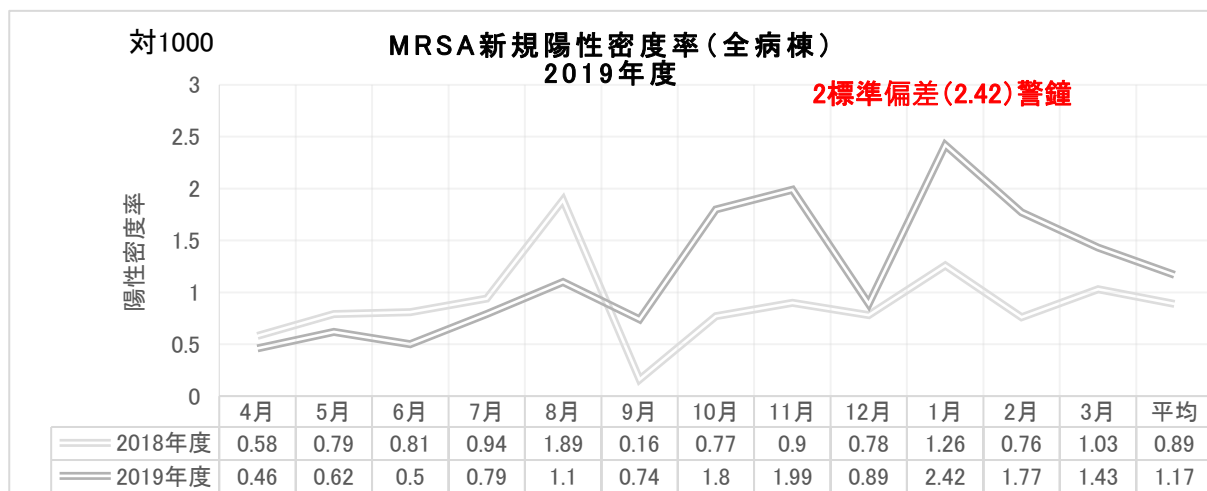
有症状者、濃厚接触者（職員、患者）にストロメクトールを投与した



薬剤耐性菌サーベイランス（院内）

入院 48 時間以降に、新規陽性となった件数をカウント

① 【MRSA】

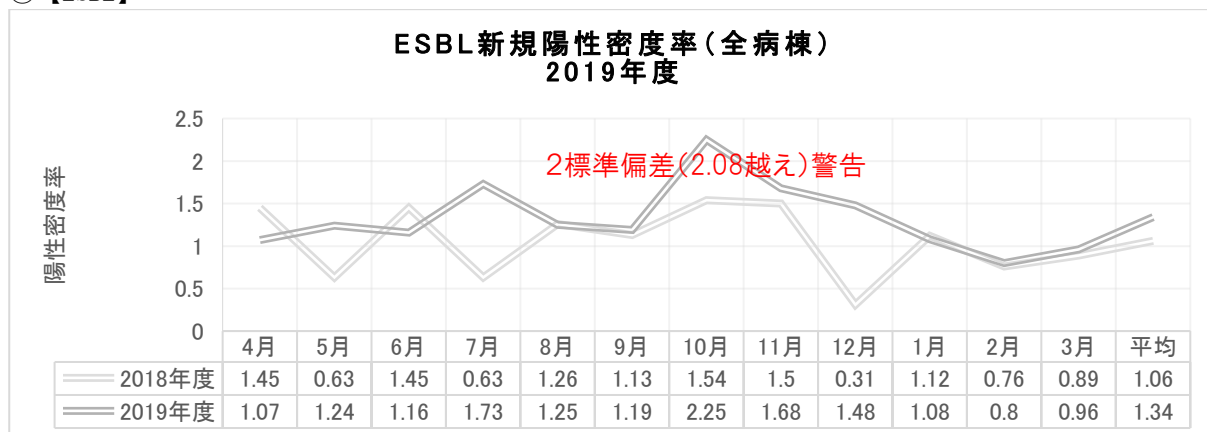


分析：2019 年度 MRSA 新規陽性件数 87 件、2018 年度新規陽性件数 70 件

2020 年 1 月に 2 標準偏差（病棟全体）に位置した

	平均	標準偏差	1SD (平均+標準偏差)	2SD	3SD
2019 年度	1.17	0.63	1.80	2.42	3.05
2018 年度	0.89	0.39	1.28	1.67	2.07

② 【ESBL】

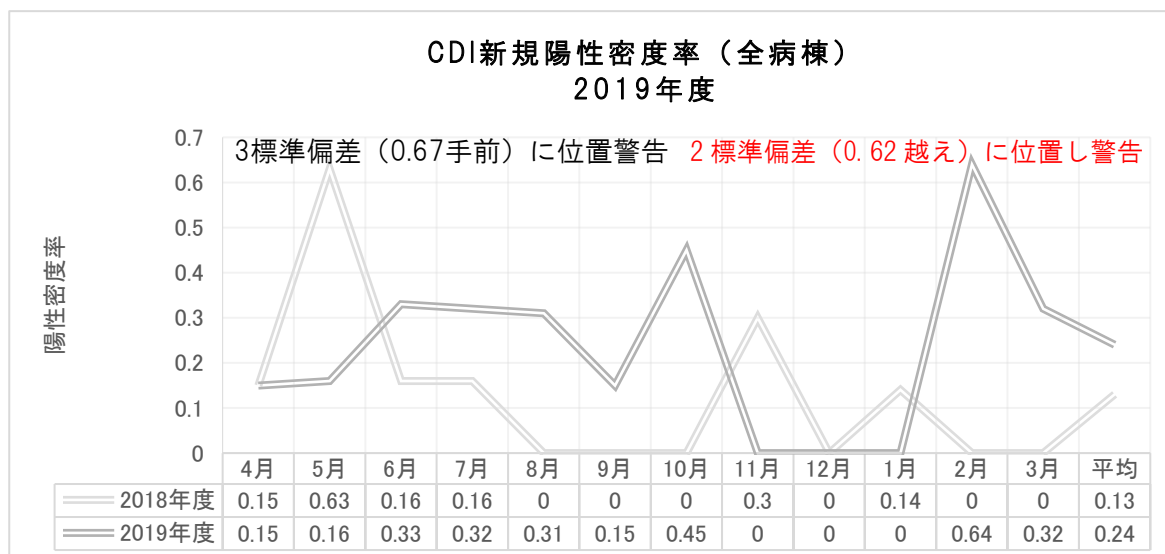


分析：2019 年度 ESBL 新規陽性件数 100 件、2018 年度 ESBL 新規陽性件数 80 件

2019 年 10 月 2 標準偏差（病棟全体）を越えに位置した

	平均	標準偏差	1SD (平均+標準偏差)	2SD	3SD
2019 年度	1.34	0.37	1.71	2.08	2.44
2018 年度	1.06	0.37	1.43	1.81	2.18

③【CDI】



分析：2019年度 CDI 新規陽性件数 18 件、2018年度 CDI 新規陽性件数 10 件

2020年2月2標準偏（病棟全体）差越えに位置した

	平均	標準偏差	1SD（平均+標準偏差）	2SD	3SD
2019年度	0.24	0.19	0.43	0.62	0.80
2018年度	0.13	0.18	0.31	0.49	0.67

4. JANIS サーベイランス継続

薬剤耐性菌のみ

5. 福岡地区ネットワーク継続

2回/年→ICT 交流会として参加

6. 2019年度立ち入検査

2020年1月17日実施

7. ICT ラウンドの実施

4職種揃って、1回/週程度実施

8. マニュアル改訂

院内感染対策マニュアル

9. 医療従事者教育研修（院内・地域対象）

目標：研修参加率 90%以上

2019年度 2回研修参加率 55.8%（2回参加者 249名/総数 446名×100）

日時	研修名	対象	講師
4/1 10:30	入職時オリエンテーション	新入職	向野
4/3 9:00	中央研修	新人 50名	加村
6/4 17:30	第1回感染対策の基礎（標準予防策） ① 汚染器具器材時の個人防護具着用 ② 救急対応時の個人防護具着用 ③ 血液透析時の個人防護具着用 ④ 手指衛生とタイミング	全職員 211名	河野 井藤 田島 團

日時	研修名	対象	講師
7/2 17:30	第2回感染対策の基礎（標準予防策） ① 閉鎖、開放式喀痰吸引時の个人防护具着用 ② おむつ交換（下痢含む）時の个人防护具着用 ③ 尿道カテーテルと集尿（容器と个人防护具） ④ 医師の創部包交と介助（手指衛生と手袋）	全職員 208名	西田 HCU 柿坂 6F 井上 5F 田中 4F
10/1 17:30	第3回感染対策の基礎（感染経路別予防策） 感染対策の基礎（感染経路別対策） 肺結核（ガフキー8号）曝露から 検出⇒判定⇒対応⇒曝露対応⇒結果	全職員 180名	橋本（S4） 竹下細菌室 森永 呼吸器外科
11/5 17:30	第4回インフルエンザ対策、ノロウイルス対策 2019年1月～2月アウトブレイクから ノロウイルス対策 疾患と対応とケア	全職員 120名	S5F 宮崎 4F 湯本 向野賢治
3/3 17:30	第6回新型コロナウイルス対策	全職員 202名	向野賢治
新型コロナウイルス追加研修（全体朝礼時）			
1/21	武漢市の新型コロナウイルス感染患者の臨床的特徴	107名	向野
2/4	新型コロナウイルス肺炎2月1日から指定感染症	104名	向野
2/18	当院【新型コロナウイルス肺炎診察手順】マスクの原則	102名	向野
3/3	WHO（COVID-19）レポート	107名	向野
3/24	エアゾルについて 換気をしましょう	98名	向野
地域施設			
6/4 17:30	第1回感染対策の基礎（標準予防策） ① 汚染器具器材時の个人防护具着用 ② 救急対応時の个人防护具着用 ③ 血液透析時の个人防护具着用 手指衛生とタイミング	地域 36名	河野 井藤 田島 團
7/2 18:30	第2回感染対策の基礎（標準予防策） ① 閉鎖、開放式喀痰吸引時の个人防护具着用 ② おむつ交換（下痢含む）時の个人防护具着用 ③ 尿道カテーテルと集尿（容器と个人防护具） 医師の創部包交と介助（手指衛生と手袋）	地域 29名	西田 HCU 柿坂 6F 井上 5F 田中 4F
10/1 17:30	第3回 感染対策の基礎（感染経路別予防策肺結核（ガフキー8号） 曝露から 検出⇒判定⇒対応⇒曝露対応⇒結果	地域 43名	橋本（S4） 竹下細菌室 森永 呼吸器外科
11/5 17:30	第4回インフルエンザ対策、ノロウイルス対策 2019年1月～2月アウトブレイクから ノロウイルス対策 疾患と対応とケア	地域 24名	S5F 宮崎 4F 湯本 向野賢治
3/3 18:30	新型コロナウイルス肺炎対策		
看護部			
6/14 11:30	看護補助者感染管理	助手 26名	
6/21 17:00	看護部感染管理	レベル I-B 27名	

日時	研修名	対象	講師
6/28 17:00	看護部感染管理	レベルⅢ 32名	
8/23 17:00	看護部感染管理	レベルⅣ 17名	
5/14 17:00	看護部感染管理	レベルⅡ 59名	
1/24 17:00	看護部感染管理	レベルⅠ 24名	
1/24	静脈注射エキスパートナース実施指導者	11名	
部署別			
3/23 3/30	リハビリテーション	20名	
2/15 2/22	放射線科	15名	
1/27	医局 新型コロナウイルス感染症	38名	
1/4	南4階病棟 疥癬	看護師・助手 27名	

※年2回 ICT 研修会に参加できなかった人への対応

11. 感染情報広報として→ICT ニュース版発行 1回/2ヶ月

5月、8月、10月、1月、3月発行

12. 学会参加

第35回日本環境感染学会総会・学術集会

2019年2月14日～2月15日

演題：当院におけるインフルエンザ予防内服の服薬アドヒアランスについて（口演）発表

INFECTION CONTROL MC メディカ出版 2019. Vol. 28 No. 5

ノロウイルスの感染事例

13. 感染管理認定看護師育成（後任）

目標：令和3年2月末 研修終了予定

医療安全管理室

1. 病院理念と医療安全に関する活動

○活動目標

- 1) チーム医療の強化・多職種でのカンファレンス実施。職種間のコミュニケーションと連携を図る
- 2) インシデントアクシデント報告を積極的に行なう職場風土の構築
- 3) レベル 3a 以上の件数を前年度より 3a : 10 件、3b : 5 件減少させる
- 4) 5S 活動を推進し、患者が安全で快適に過ごせる環境整備を職員全員で取り組む事ができる
- 5) 医療安全に関するマニュアルの見直し及び周知

○活動計画

- 1) 医療安全の基礎知識や、当院の現状を
- 2) 院内のリスク情報を把握し、組織に報告書を回覧・共有する
- 3) 集計結果と警鐘事例を毎月イントラに掲載し提供する
- 4) 日本医療機能評価機構からの医療安全情報をイントラに掲載し提供する

○目標評価

- 1) 医療安全管理室の構成員が変更されたが、多職種でのカンファレンスを充分開催できたとはいえない。職種間のコミュニケーションエラーはインシデントに繋がっていることもあり、今後も課題である。報告の方法 (SBAR) や 2 チャレンジルールなど Team STEPPS を活用してヒューマンエラー防止に取り組んでいく。

- 2) 部署別の報告件数は下記表の通りである

医師	4 階	5 階	6 階	S4 階	S5 階	ICU	H12	H6	救外	外来	オペ
12	149	85	152	49	12	164	24	14	43	26	12
S2 階	薬局	検査	臨工	視訓	放科	リハ	栄養	医事	総務	医補	
13	53	10	4	1	38	34	16	13	6	8	

- 3) H31 (R1) 年度の報告書総数は 909 件、レベル 3a : 64 件、レベル 3b : 8 件、オカレンス 1 件となっている。(前年度レベル 3a : 37 件、レベル 3b : 8 件) 目標達成できず。
- 4) 5S 活動を推進しているが、継続性がない。設備の問題もあるが、引き続き環境整備を徹底し、環境要因による転倒事案を減少させる。
- 5) 医療安全マニュアルの見直しは必要なものは実施できた。

2. 医療安全における教育活動

目標 : 職員合同研修参加率 60%以上

- ・全職員合同研修開催日及びテーマ

6/8 『H30 年度報告、医薬品の安全管理』(ビデオ上映 7/11)

8/20 『医療ガスの安全管理、診療用放射線の安全利用のために』(ビデオ上映 9/12)

12/24 『災害時の医療安全、医薬品の安全管理』(ビデオ上映 1/10)

結果 : 6 月の合同研修参加者 188 名、参加率 32.5%。

8 月の合同研修参加者 164 名、参加率 30.7%

12 月の合同研修参加者数 151 名。参加率 27.5%。

参加率はいずれも 50%未満と目標達成できず。部署間の出席数に差あり。

12 月の研修テーマに関しては、全国的にも災害による被害が取り沙汰される中で災害時対応を考え

るきっかけとなったのではないかと考えるが、参加率は増加していないため次年度も研修参加意欲をかきたてるようなテーマの選定・内容を工夫して参加率向上を目指す。

- ・研修医研修：5/13 実施。5名全員参加
- ・看護部はクリニカルラダー別（Ⅰ、Ⅰ-b、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ）と看護補助者に実施。

【研修開催日とテーマ一覧表】

研修日	テーマ	講師	参加者・人数
4/2	・医療安全管理に対する基本的な考え方	有田 裕子	新人職員
4/3	看護部集合教育 ・当院の臨床看護技術、提供方法に従って安全・安楽な療養環境を提供できる	有田 裕子	看護師 新人 43名 既卒 6名
5/13	研修医研修 ・安全管理と事故防止について理解ができる ・事故防止のための対策が自主的にできる ・医療紛争の現状を知る ・多い事故の特徴とその要因を理解し未然に防止できる	有田 裕子	研修医 5名
5/21 5/28	看護補助者研修 医療安全と事故防止について	有田 裕子	看護補助者 23名
6/8	全職員合同研修 ・医薬品の安全管理 ・平成30年度報告 ・医療安全地域連携加算について	薬局 岡本美由紀 有田 裕子	188名
8/6 8/8	医療機器研修 ・生体情報モニター	臨工 久田 瑛登	178名 (ME9名)
8/16	クリニカルラダー1 ・医療現場における安全管理と医療事故防止の重要性が理解できる	有田 裕子	39名
9/29	看護学生 ・医療安全と事故防止についてわかる	有田 裕子	医療専門学校 学生
8/20	全職員合同研修会 ・医療ガスの安全管理 ・診療用放射線の安全利用のために	臨工 畠 久美子 放科 大木雄一郎	164名
9/19	クリニカルラダー Ⅰ-b ・医療現場における安全管理と医療事故防止の重要性を理解する ・看護倫理と法的責任について認識する ・事故防止の観点から自己の課題を明確にする	有田 裕子	25名
10/7 10/8	医療機器研修 ・シリンジポンプ、輸液ポンプ	臨工 藤本麻里	173名 (ME5名)
11/7 12/5	クリニカルラダー Ⅱ ・看護倫理と法的責任について理解する ・事故防止の観点から自己の課題を明確にする	有田 裕子	73名
10/9 12/10	医療機器研修 ・人工呼吸器	田島 小有起 久田 瑛登	179名 (ME7名)
12/24	全職員合同研修 ・医薬品の安全管理 ・災害時の医療安全	薬局 岡本 美由紀 有田 裕子	151名
1/16	クリニカルラダー Ⅲ ・事故防止のための対策が自主的に実践できる ・リスクを見つけて対応方法を提案できる	有田 裕子	26名
2/5	看護部レベルⅡ～Ⅳ ・静脈注射領域におけるリスクマネジメント	有田 裕子	12名
2/19	クリニカルラダー Ⅳ ・看護におけるリスクマネジメントを学ぶ ・業務改善活動報告 ・業務改善報告書作成	有田 裕子	15名

3. 医療安全会議報告

<医療安全管理委員会>

毎月第3金曜日開催（定例会議12回開催）

構成委員：病院長、副院長（4名）、看護部長、薬局長、放射線科技師長、医療技術部長、臨床工学技士長、事務長、副事務長、医事課長、経営企画課長、総務課、国際医療担当室、有田 計17名

- ・定例会議出席率：4月（81%）、5月（64%）、6月（82%）、7月（82%）、8月（81%）、9月（88%）、10月（100%）、11月（75%）、12月（88%）、1月（88%）、2月（100%）、3月（100%）。
- ・臨時会議開催：4月4回、5月3回、6月2回、8月1回、11月2回、12月1回の計11回開催。

<医療安全推進会議>

毎月第2金曜日（定例会議12回開催）

- ・構成委員：医師2名、看護師12名、医療技術部6名、事務6名、有田 計27名
- ・会議出席率：4月（93%）、5月（81%）、6月（81%）、7月（93%）、8月（96%）、9月（78%）、10月（88%）、11月（96%）、12月（81%）、1月（93%）、2月（85%）、3月（93%）。

専門部会

1) 転倒転落予防検討部会

目標：①転倒転落件数を120件以下、レベル3a以上の発生を10件以下

②ベッドサイドの環境整備

- ・ウーゴセンサーのコードの長さや電源確認、設置位置の徹底
- ・ストッパーかけ忘れゼロ
- ・コード類の整備

③転倒転落リスクのある患者の情報共有

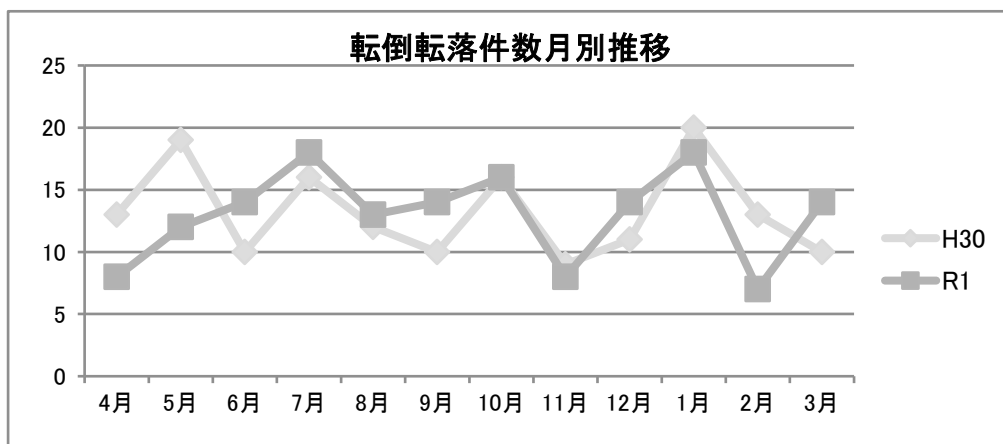
- ・転倒転落アセスメントスコアの経過表への反映徹底
- ・患者情報共有ツールの改善

活動内容：第1火曜日16：00～17：00 複数部門ラウンドを実施
 安静度一覧表の改善、患者向け転倒転落ポスターの刷新
 中間・年間活動評価の実施

結果：

令和元年度月別報告件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	8	12	14	18	13	14	16	8	14	18	7	14
発生率	1.22	1.86	2.32	2.83	2.03	2.07	2.39	1.22	2.07	2.46	1.12	2.23



- ・転倒転落件数は、R1 年度 156 件であった（H30 年度 159 件）。
- ・レベルⅢ a 5 件、レベルⅢ b 3 件であった。（前年より 8 件減）
- ・5S 活動の推進をおこなってきたが、ベッド周辺の椅子やゴミ箱の整理、コード類の整備履物がベッド下に入り込むなど不十分な点が多く改善が必要。
- ・ポスター刷新し、靴の着用を呼びかけているがスリッパ・クロックス使用が多い。
- ・定期的な転倒転落スコア評価、評価結果の経過表への反映は前年度に比べると改善され記載漏れは減少している。
- ・転倒転落の要因として排泄関連が半数を占める。転倒予防策の実施と共に排泄ケアへのアプローチも必要である。またトイレへ誘導後、側を離れてしまう事案もいまだにあり。患者の安静度がベッドサイドで確認でき、看護助手でも理解できるように安静度一覧表を改善した。イラストを多用し、記載も簡潔にできるようにしたことで、定期的な更新ができてはいるが、その情報を見ている時間帯によっては付きそいができない（しない）のか、便座へ着座までを見届けた後側を離れる事案が続いている。
- ・ナースコールを PHS 式に変更されたが、コールへの対応に時間がかかっている。
- ・うーご君の設置場所は頭元でとしているが、柵の方に設置していたり、ひもの長さが 80 cm 以上の場合もあり。長すぎないように適宜調整。またスイッチの ON/OFF の確認不十分により作動しなかった事案あり。都度ひもを抜き差しして作動確認をおこなうことを徹底させていく。

2) 注射与薬検討部会

目標：①与薬忘れ 40 件以下

②内服アセスメント評価の徹底

③消毒薬開封日記載の徹底

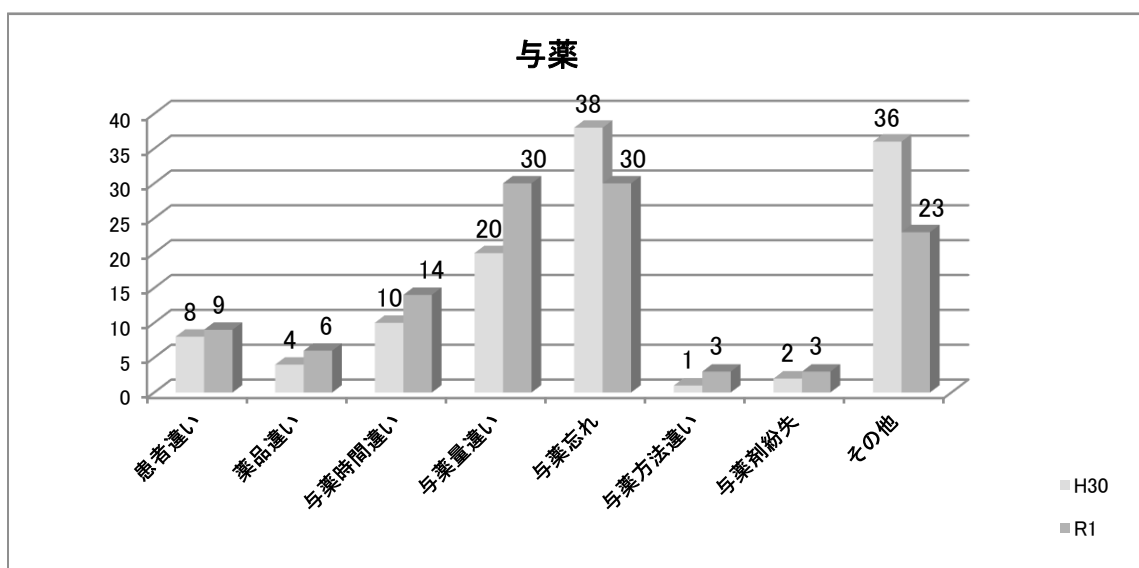
④与薬量、薬品違いを前年度より 10 件減らす

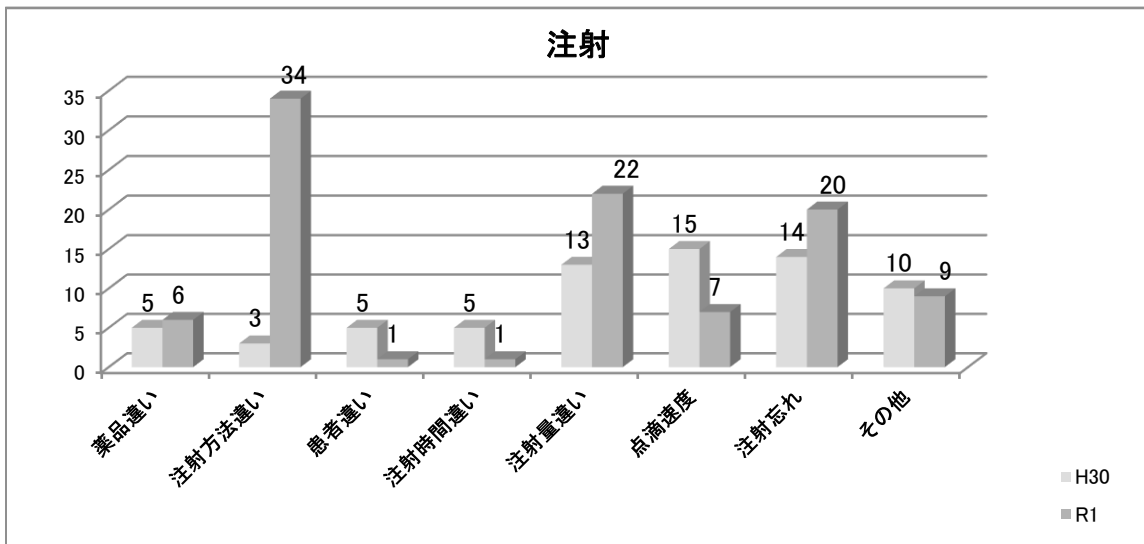
- ・薬品準備時および投薬前のダブルチェックの徹底

- ・ラウンド時 6R を理解しているか、ダブルチェックの方法をヒヤリングする

活動内容：第 2 火曜日ラウンド、複数部門ラウンドを実施

結果：





- ・与薬忘れは内服 30 件、注射 20 件あり。
- ・内服管理方法アセスメントスコアの定期評価はできているが、自己管理になった後に患者が十分に日付を確認しないまま重複投与していたり、自己管理者への内服確認が不十分なために飲み忘れたり重複投与していたりする事例あり。
- ・自己管理となった後も内服内容の把握と患者が日付や時間を間違わずに内服できているかを看護師が確認することを徹底させる。
- ・患者間違いは内服 9 件、注射 1 件。同姓同名患者に限らず間違っている事例もあり、患者名確認時は指さし呼称の徹底を周知していく。
- ・麻薬に関するアクシデント報告は R1 年度 11 件となっている。昨年度より 2 件減少している。伝票や使用後のシリンジの管理を再度周知し破損や流出に注意促す。
- ・6R の徹底を意識づけるために、各部署へ掲示したが、報告内容を分析すると日付や患者名の確認もれあり。引き続きラウンド時に 6R を言ってもらったり、実際に調剤時の W チェックの際に 6R を指さし確認しているか見ていく。

3) 医療機器・チューブ類トラブル予防検討部会

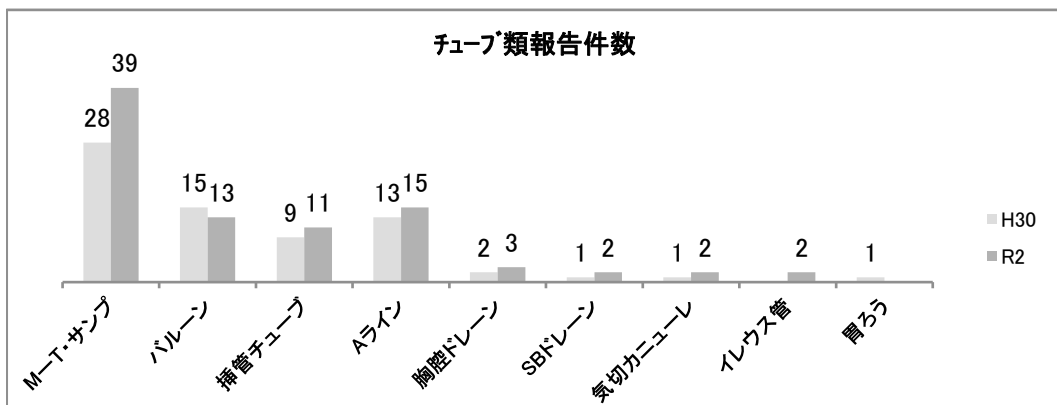
目標：①輸液・シリンジポンプの設定ミスによるインシデントを 10 件以内。

②コード類の整理をおこない、環境整備に努める。

③マーゲンチューブ・バルーン・Aライン・各種チューブ類の正しいテープの選択と固定方法の統一を図り、抜去予防に努める。

活動内容：第 3 火曜日ラウンド、輸液・シリンジポンプの始業・終業点検表の見直し

結果：



- ・上記グラフ以外では、CVC 抜去 6 件、末梢ライントラブル（自己抜去・血管外漏出など）83 件、硬膜外カテーテル抜去 8 件、S-G 抜去 6 件、IABP 抜け 1 件あり
- ・抜去予防のために抑制帯やミトンを使用しているも緩みなどが生じ抜去に至っているケースが多い。抑制が必要かどうか、精神状態のアセスメントをスコアに基づき評価し抜去防止策を講じていく必要がある。
- ・患者が持参したはさみでバルーンカテーテルやドレーンを切断するという事例が 2 件あり。患者私物の整理をする際に危険物がないかの把握と、術後せん妄など予測される状態である場合にはベッド周囲の環境調整が必要である。
- ・挿管チューブは昨年より増加している。固定方法に差はないがカフ破損によるチューブ交換事例あり。挿管チューブ自体の脆弱性も考慮し、チューブの種類、挿入時カフ確認手技など見直していく。
- ・A ライン抜去・管理上のトラブルが多く見受けられた。挿入者の手技、挿入位置、長期留置していることも 1 つの要因と考えられる。固定板はシーネタイプにしたことで、固定版のズレによる抜去はみられず、刺入部の観察もしやすくなっているのが良かった点である。
- ・人工呼吸器に関する事例として、バクテリアフィルタ交換忘れ 2 件、人工鼻付け忘れ 1 件、人工鼻エア漏れ 1 件、移動用呼吸器の不具合 1 例があった。
- ・シリンジポンプに関して開始時プライミングせず使用開始による薬剤無投与症例 2 例あり。医療機器操作研修内で説明をしていたにも関わらずできていなかった。研修内容とその理解度について、各医療安全推進委員と連携をとりながら評価していく。
- ・アラーム対応はまだまだ迅速とは言えない現状にあるため、継続して教育指導していく。
- ・臨床工学技士による医療機器研修会(人工呼吸器・輸液ポンプ・シリンジポンプ・心電図モニター)を実施した。毎年実施しているが、器機操作ミスによる設定間違いの事例もあり、継続して研修を実施していく。

4) 患者誤認事故防止検討部会

目標：①同姓同名患者表示の徹底

②患者確認はフルネームで名乗ってもらい、リストバンド・ID カードにて本人確認実施

③患者誤認による与薬（内服・注射）間違いを 5 件以下

④患者誤認による検査間違いを 5 件以下

活動内容：第 4 火曜日ラウンド

結果：

- ・H30 年度与薬（内服 8 件、注射 5 件）、検査 8 件の患者間違いあり。
- ・R1 年度与薬（内服 9 件、注射 1 件）、検査 10 件の患者間違いあり。配膳間違い 5 件、事務関係での患者間違い 3 件あり。
- ・ベッドサイドでの注射認証作業は実施できており、注射の患者間違いは減少している。しかし、内服に関してはセット間違い、与薬時の患者間違いが見受けられた。
- ・投与直前での最終患者氏名確認を意識付けさせ、指さし呼称での確認を推進する。
- ・検査では検査室からの依頼を受け、患者を搬送する時点での間違いが発生している。同姓同名患者の有無を把握していなかったり、複数のスタッフが介在することによる伝達エラーが要因となっている。

4. インシデントアクシデント事例に関する活動

- ・事故報告書に基づき、院内ラウンド実施
- ・報告者へのインタビュー

- ・原因分析結果に基づく改善策の査定
- ・院内でのインシデント/アクシデント事例報告件数や共有事例、警鐘事例についてはイントラへ掲載し情報提供をおこなった

5. 患者相談窓口との連携

相談件数：87件

診療に関する相談 27件、看護に関する相談 29件、接遇に関する相談 21件、保険・診療費に関する相談 6件、設備・環境に関する相談 2件、その他 8件であった。相談内容とその対応については、毎月の医療安全管理委員会で報告をおこなった。

6. 医療安全マニュアルの作成・改訂

- ・人工呼吸器関連マニュアル改訂
- ・セーフマスターシステム導入に伴い、事故レベル分類変更
- ・看護部門注射時の事故防止策に「注射剤によりアナフィラキシー対応」を追加、人工呼吸器装着時の看護を改訂
- ・放射線部門、検査部門の改訂
- ・医療安全管理室の構成員改訂
- ・院内事故調査委員会規定の改定

7. 物品

- ・SPD委員会へ参加し、安全性の視点に立った助言をおこなった。
- ・Aライン固定用シーネの導入

8. リスクマネージャーとしての能力向上に関する活動

日時	研修・セミナー名	企画者
6/8	医療安全研修/交流会（1回目）	福岡県看護協会
7/11	終末期ケアについて	福岡県看護連盟 3-6 支部
8/10	医療事故・紛争対応研究会 九州・沖縄セミナー2019	医療事故・紛争対応研究会
9/8	看護師の特定行為とは	福岡県看護協会
9/28	多職種間学際フォーラムシンポジウム	日本医療安全学会
10/18	災害時の備え～防災意識を高めよう～	福岡県看護協会福岡4地区支部研修
10/19	患者安全推進フォーラム in 下関「医療安全における倫理とは」	認定病院患者安全推進協議会
10/21	医療事故調査制度の関わる「管理者・実務者セミナー」	日本医師会
10/31	看護実践に活かすリスクマネジメント	福岡県看護協会
11/13	医療安全に関するワークショップ	九州厚生局
1/18	医療安全研修交流会（2回目）	福岡県看護協会
1/29	診療情報開示研修会「医療事故を疑う事例発生の対応」	福岡県医師会
3/7.8	第6回日本医療安全学会学術総会→オンライン会議と変更された	日本医療安全学会

栄養サポート室

当院の栄養サポートチーム（以下 NST : Nutrition Support Team）は平成 17 年 12 月より活動しています。患者様の病状に応じた最もふさわしい栄養管理の提言を通じて栄養状態の改善に努め、治療効果の向上、合併症の予防および QOL の向上を図ることを目的としています。

1. 委員会構成員

診療部	内科医師(1名)、歯科医師(1名)
看護部	病棟看護師(9名)
医療技術部	管理栄養士(5名)、薬剤師(4名)、理学療法士(1名)、歯科衛生士(1名)
事務部	総務課(1名) (日本静脈経腸栄養学会 NST 専門療法士 7 名含む)

2. 活動内容

1) 毎月第一金曜日 NST 会議

先月の活動内容の報告、今後の予定について話し合います。

2) 毎週水曜日 カンファレンス・病棟回診

病棟をまわり、患者様の栄養状態の把握や食事摂取量、点滴メニューなどを確認し、適切であるかどうか検討しています。

NST 対象患者に対する検討事項	1. 適切なエネルギー量、タンパク質量、水分量および電解質量の把握
	2. 経静脈栄養から経腸栄養への移行の可能性
	3. 経静脈栄養、経腸栄養から経口摂取への移行の可能性
	4. 食事摂取不良患者や低栄養患者への具体的な栄養計画の提案
	食事摂取不良患者における、食事形態および使用薬剤等の検討
	経管栄養時、流動食を投与する際の適切な投与速度の検討
	経管栄養化で下痢が持続する患者へのシンバイオティクスの導入
褥瘡患者への摂取タンパク質量の検討や亜鉛・銅・ビタミン強化の必要性の検討	
経静脈栄養時における脂肪乳剤使用の推奨	
電解質異常時における適切な輸液・薬剤への変更提案	

3. カンファレンス・病棟回診実績

1) カンファレンス・病棟回診回数 51 回、

対象患者数 134 人、平均患者数 9.5 人/回

2) NST 介入終了理由

栄養状態改善（目標達成）22%

転院 51%、退院 11%、死亡 5%、

その他（治療方針変更など）11%

4. 勉強会開催

栄養についての知識の向上を目指すことを目標に NST 委員会主催の勉強会を開催しています。

開催日	テーマ	講師
9月11日	心不全患者における栄養評価・管理に関するステートメント(2018)	医師 辛嶋 健
11月13日	カラダの健康とプロバイオティクス～腸管免疫について～	中央福岡ヤクルト販売㈱ 林田管理栄養士
1月15日	輸液の基礎	薬剤師 江藤 義和

地域医療連携室

1. 医療連携のつどい

地域医療連携室が主催となり、毎月様々な分野の講演会を当院にて実施しております。

下記のように 2019 年も多彩な講演内容で開催致しました。医師だけではなく看護師やその他医療スタッフに向けての内容で毎回講師の先生にお話いただいています。今後も顔の見える連携を進めていく所存であります。

2. 実施内容

開催日	テーマ	講師
1月23日	医療連携のつどい(新春のつどい) 福岡西部地区医療連携講演会 一般演題 1: 肺静脈隔離術、Kent 束離断術を一期的に施行し根治しえた WPW 症候群に合併した偽性心室頻拍の考察 2: 大動脈弁狭窄症を併発した大動脈弁乳頭状弾性線維腫の検討 特別講演: ガイドラインに準拠した心不全治療 ～質の高い医療連携を目指して～	一般演題 座長: ふなこし内科・循環器内科 院長 舩越 元 福岡記念病院 副院長 循環器内科 舩元 章浩 演者 1: 福岡記念病院 研修医 木本 義敬 演者 2: 福岡記念病院 研修医 相良 智之 特別講演 座長: 久留米大学循環器病センター 教授 上野 高史 演者: 九州大学大学院医学研究院循環器内科学 教授 筒井 裕之
2月21日	福岡西部地区医療連携講演会 講演: 骨粗鬆性脆弱性骨折の治療ー脊椎外科医の視点ー	座長: 西田たみお整形外科医院 院長 西田 民夫 演者: 福岡記念病院 脊椎・脊髄外科部長 隈元 真志
2月27日	病理症例検討会 (CPC) 原因不明の意識障害から死亡に至った一例	久留米大学医学部病理学講座 教授 矢野 博久 講師 眞田 咲子 大学院生 安陪 由思 福岡記念病院 副院長 救急科部長 山口 哲 研修医 木本 義敬
3月7日	福岡西部地区医療連携講演会 講演: 高齢者の不定愁訴と漢方 ～冷えと痛み・めまい・倦怠感・浮腫～	座長: 福岡記念病院 副院長 救急科部長 山口 哲 演者: 九州大学大学院医学研究院 地域医療教育ユニット 准教授 貝沼 茂三郎
4月18日	福岡西部地区医療連携講演会 講演: 糖尿病治療の進歩とこれからの課題	座長: 福岡記念病院 副院長 辛嶋 健 演者: 二田哲博クリニック姪浜 院長 下野 大
5月24日	福岡西部地区医療連携講演会 講演: 脳卒中後遺症の診断と治療: てんかんと運動障害を中心に	座長: 福岡記念病院副院長脳神経外科部長 古市 将司 演者: 福岡大学病院 脳神経外科 講師 森下 登史
6月11日	病理症例検討会 (CPC) 全身性膿瘍を伴う敗血症にて救命できなかった一例	久留米大学医学部病理学講座 教授 矢野 博久 講師 眞田 咲子 助教 塩賀 太郎 福岡記念病院 呼吸器外科部長 森永 真史 研修医 西原 新也
6月19日	福岡西部地区医療連携講演会 講演: 循環器疾患合併症を見据えた糖尿病戦略 ～SGLT2 阻害薬の可能性を探る～	座長: 福岡記念病院 副院長 糖尿病・内分泌内科部長 辛嶋 健 演者: 久留米大学医学部内科学講座 心臓・血管内科学部門 講師 大江 征嗣

開催日	テーマ	講師
7月11日	福岡西部地区医療連携講演会 一般講演：主な便秘治療薬の特徴と当院の現状 特別講演：下部消化管診療について ～消化管通過障害を中心に～	座長：福岡記念病院 副院長 山口 哲 一般講演 演者：福岡記念病院 薬局係長 宇都 誠志 特別講演 演者：九州医療センター 消化器科 医長 光学診療部 副部長 隅田 頼信
8月22日	医療連携のつどい（暑気払い） レクチャー：虚血性心疾患合併心房細動における治療戦略 一般講演：地域医療連携を考慮した心疾患患者に対する治療戦略 特別講演：心血管不全予防に向けた糖尿病治療	レクチャー 座長：ふなこし内科・循環器内科 院長 船越 元 演者：福岡記念病院 副院長 循環器内科 舛元 章浩 一般講演 座長：ふなこし内科・循環器内科 院長 船越 元 福岡記念病院 副院長 循環器内科 舛元 章浩 演者：佐賀大学医学部 循環器内科 助教 浅香 真知子 特別講演 座長：久留米大学病院 副院長 循環器病センター 教授 上野 高史 演者：佐賀大学医学部循環器内科 教授 野出 孝一
9月12日	福岡西部地区医療連携講演会 講演：多職種協同によるチーム医療と働き方改革 ～病院総合医によるフロアマネジメント～	座長：福岡記念病院副院長 総合診療科部長 太田 勇司 演者：済生会熊本病院 包括診療部包括診療科 日本病院会認定病院総合医プログラム評価副委員長 日本専門医機構総合診療専門医検討委員会委員 部長 外科総合医 園田 幸生
10月11日	病理症例検討会（CPC） レジオネラ肺炎にて死亡した一例	久留米大学医学部病理学講座 教授 矢野 博久 講師 眞田 咲子 大学院生 谷川 雅彦 福岡記念病院 内科部長 松岡 浩 研修医 氏家 優斗
10月25日	福岡西部地区医療連携講演会 講演：脊椎由来の慢性疼痛治療 ～ガイドラインを踏まえて～	座長：福岡記念病院 脊椎・脊髄外科部長 隈元 真志 演者：福岡みらい病院 脊椎脊髄病センター長 柳澤 義和
11月20日	福岡西部地区医療連携講演会 講演：非代償性肝硬変における栄養療法と合併症対策 ～カルニチン製剤の使い方も含めて～	座長：福岡記念病院 外科・肝臓外科 御鍵 和弘 演者：福岡大学病院 消化器内科 講師 横山 圭二

福岡記念 PET・健診センター

社会医療法人大成会福岡記念 PET・健診センターは、地域の皆様の健康増進に寄与すること及び地域医療機関の診療支援に貢献することを事業理念として2007年11月開設されました。

三大死因といわれている「がん」「心筋梗塞」「脳卒中」をはじめ生活習慣病対策に照準を合わせ、PET-CT、マンモグラフィ撮影装置、CT装置、X線透視・撮影装置、超音波診断装置、上部・下部内視鏡装置等々の健診装置を完備すると共に専任スペシャリストの医師、放射線技師、臨床検査技師及び保健師、看護師を配し、地域の皆様及び地域医療機関のご期待に沿えるよう万全の体制を確保しています。

1. 平成31年度の主な事業活動

1) 地域活動

- ・ 公民館及び自治協議会の健康講座事業支援
- ・ 高取公民館 健康講話事業の実施

2) 職域活動

- ・ 各地域の商工会議所厚生サービス支援事業の実施（福岡、早良、糸島、唐津）
- ・ 産業医契約の強化を行い、個人から職場までのトータル管理ケアの実施
- ・ 契約事業所のストレスチェックの実施

3) 保険診療

- ・ PET-CT 紹介元医療機関での放射線科医の読影会の参加（顔が見える連携の推進）の定着化
- ・ 紹介元医療機関へ半導体PET-CT導入メリットの周知活動
- ・ フォローアップ外来、女性外来受診者の増加

4) 検査機器更新

- ・ 開院時より使用しておりました透視診断装置の更新を致しました。
主な特徴としては画質の向上、受診される方へのやさしい機器の動作及び被ばく低減が図られております。

2. 令和2年度の主な事業活動

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大により一時業務を停止しておりましたが6月より再開しております。
受診者及び職員への感染防止に努め、安全・安心を提供できる健診センターとして全職員一丸となり受診者の健康増進に寄与してまいります。また順次機器の更新を行い健診のクオリティを高めていきます。
- ・ PETドック、人間ドック、各種健康診断のコースの見直しを行い受診者が受けやすく、検査する事の意義が分かるコース設定を行います。また結果返却の時間短縮を目指します。
- ・ 半導体PETの導入の効果を活かし更なる受診者増を目指します。
- ・ PETドックの予約枠の増、受診しやすい価格設定など他施設との差別化を目指します。

1) 地域活動

- ・ 昨年に引き続き、記念病院地域連携室と共同して地域活動を展開します。

2) 職域活動

- ・ 福岡商工会議所、早良商工会議所、糸島商工会議所、並びに唐津商工会議所支援事業を引続き行って参ります。
- ・ 産業医契約のニーズに応える枠組みの策定

3. 福岡記念 PET・健診センターの特色

1) 施設環境

- ・アクセスに優れ福岡西部の中心的位置にあり非常に利便性に富んでいます。
- ・中央区でありながら駐車場が確保され、車での来院が可能で利便性を高め評判になっています。
- ・健診建屋は、コンパクトにまとめられ、清潔感にあふれ受診者の皆様に喜んでいただいています。

2) 健診センターの施設と体制

- ・半導体 PET-CT 等の検査・健診機器をそろえ、ご期待にお応えしており好評を戴いています。
- ・健診にかかる専門の医師を配して健診の徹底を期しています
- ・女性医師 9 人を配し、女性の健診に配慮しています。

3) 受診者エスコート

- ・予約・健診相談・総合案内・受付・受診者案内等、受診者の目線、立場を尊重信頼・安全・安心に心がけています。
- ・待ち時間を極力なくし、受診者の不安解消に努めています。
- ・宿泊ドック（PET/ドック等）の場合は、市内 3 箇所の有名ホテルと契約し健診にゆとりと潤いを与えることを心がけています。
- ・PET/CT 検査で医療機関からの紹介による患者様には、希望に応じて自宅又は病院への送迎を実施しています。

4) 健診結果・検査結果の措置

- ・健診結果については、親切、丁寧を旨とし、判りやすく納得のいく説明を行っています。
- ・紹介頂いた PET/CT 所見については、翌営業日中にご紹介頂いた医師に返却しています。

4. PET/CT 検査紹介医療機関一覧

医療機関名	件数	医療機関名	件数
福岡赤十字病院	335	神代医院	2
浜の町病院	309	めいのはま白翠内科クリニック	2
九州中央病院	216	木村病院	2
福岡大学筑紫病院	88	村上華林堂病院	2
白十字病院	51	久留米大学病院	2
福岡記念病院	35	千鳥橋病院	1
九州がんセンター	26	昭和病院	1
原三信病院	22	あやすぎビルクリニック	1
九州医療センター	16	原病院	1
三恵外科医院	15	川原クリニック	1
福西会病院	13	可也病院	1
ウエルネス天神クリニック	10	フジタ内科・消化器科医院	1
福岡記念 PET・健診センター	8	三宅内科クリニック	1
畠山内科胃腸科クリニック	6	福岡中央病院（旧通信病院）	1
さく病院	4	福岡青洲会病院	1
九州国際重粒子線がん治療センター	4	くれ整形外科医院	1
ICVS 東京クリニック	4	藤沢内科クリニック	1
佐田病院	4	別府外科医院	1
福岡歯科大学医科歯科総合病院	3	福岡大学西新病院	1
石西整形外科(旧高宮外科・胃腸科医院)	3	九州大学病院	1
及川病院 六本松乳腺クリニック	3	及川病院	1
福岡病院	3	井上病院	1
糸島医師会病院	3	かわもと胃腸科内科クリニック	1
済生会福岡総合病院	3	川崎胃腸科・内科クリニック	1
福岡鳥飼病院	2	城谷内科医院	1
マリン病院	2		
合 計 1, 2 1 8 件			

臨床研修管理委員会

2019年3月、第15期生6名は初期臨床研修を無事終了し、4月よりそれぞれの施設で後期研修に入りました。現在第16期生5名は協力病院・施設での2年目の研修を行っています。引き続き本年もご指導・ご鞭撻のほど、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

そして、2020年4月より第17期生6名が入職致しました。今年度よりすべての研修施設で研修医評価がEPOCによる評価に代わることになりました。新型コロナにより臨床研修プログラムの下、日夜研修に励み日々切磋琢磨しております。初期臨床研修は、プライマリーケアの診断能力（態度・知識・技能）の修得は勿論大事ですが、更に、医師として社会人としての人格を涵養していただきたいと思っております。

15期生 2018年4月 研修開始	研修医氏名	後期研修先
	岡野 琳太郎	産業医科大学脳神経外科
	木本 義敬	久留米大学麻酔科
	徳重 裕陽	福岡大学消化器内科
	西原 新也	九州大学放射線科
	長谷川 渉	産業医科大学産業医コース
	麦田 史仁	九州大学脳神経外科

16期生 2019年4月 研修開始	研修医氏名	出身大学
	入江 香里	九州大学
	島内 諒	久留米大学
	野田 啓司	産業医科大学
	藤澤 愛	熊本大学
山川 曜	長崎大学	

17期生 2020年4月 研修開始	研修医氏名	出身大学
	内村 萌人	久留米大学
	岡本 菜奈	山口大学
	葛山 巧	産業医科大学
	後藤 崇	昭和大学
	杉元 悠太郎	長崎大学
望月 彰人	福岡大学	

1. 協力型臨床研修病院

施設名	施設長名	郵便番号	住所
医療法人浜江堂油山病院	三野原 義光	814-0171	福岡市早良区野芥5丁目6番37号
福岡大学病院	井上 亨	814-0180	福岡市城南区七隈7丁目45番1号
久留米大学病院	八木 実	830-0011	福岡県久留米市旭町67番地

2. 協力型臨床研修施設

施設名	施設長名	郵便番号	住所
介護老人保健施設からざステーション	藤井 眞一	814-0171	福岡市早良区野芥5丁目6番37号
医療法人にのさかクリニック	二ノ坂 保喜	814-0171	福岡市早良区野芥4-19-34

早良区自衛消防隊連絡協議会

屋内消火栓操法大会

当院は毎年、早良区自衛消防隊連絡協議会が主催する「早良区自衛消防操法大会」に出場しています。

この大会は、事業所における初期消火活動体制の強化及び「自分たちの事業所は自分たちで守る」という自主防衛意識の高揚に資することを目的に実施されており、2019年で第34回大会となります。当院からは3人フリーの部へ看護師3名の女性チーム、3人男子の部へ理学療法士、薬剤師、臨床検査技師のチームで参加しました。結果は、3人フリーの部、3人男子の部ともに3位でした。

今後も当院は職員に対して、建物等にある屋内消火栓設備の迅速で確実な操作技術の習得・向上を目指し、防火意識の高揚と自衛消防体制強化を図って参ります。

1. 寄稿

3人操法男子指揮者 宮本 圭吾
(理学療法士)

今回、屋内消火栓操法大会に社会医療法人大成会福岡記念病院の代表として出場させていただきました。昨年は優勝を逃しており、今年こそはと私達も気持ちを引き締めて練習に取り組みました。しかし男女共に時折夏の暑さに負け、その気持ちが行動に現れるときがあり、特に声出しの声が小さかったり、動作のメリハリができていなかったり等、消防士の方々から厳しい指導やアドバイスなどを頂きました。それでも大会の日が近づいてくるにつれて、男女共動きにメリハリができてきたり、声出しの声が大きく出るようになってきたりと、パフォーマンスの質や男女間のチームワークが強くなっていくのを感じました。そして、迎えた大会当日、残念ながら男女共に昨年に続き優勝とはなりませんでしたが、大会が終わった後も各チームで集まったり、職場でもお互いに挨拶や会話を行えるようになってきたりと信頼関係が築けました。

この大会を通じて、チームワークの重要性やどんなことにもめげずに一生懸命取り組む姿勢の大切さを改めて学ぶことが出来ました。私達も大会に参加するにあたり、今回の経験で学んだ自主防災意識を活かし、患者様の命と安全を守れるよう、日々努めていきたいと思っております。



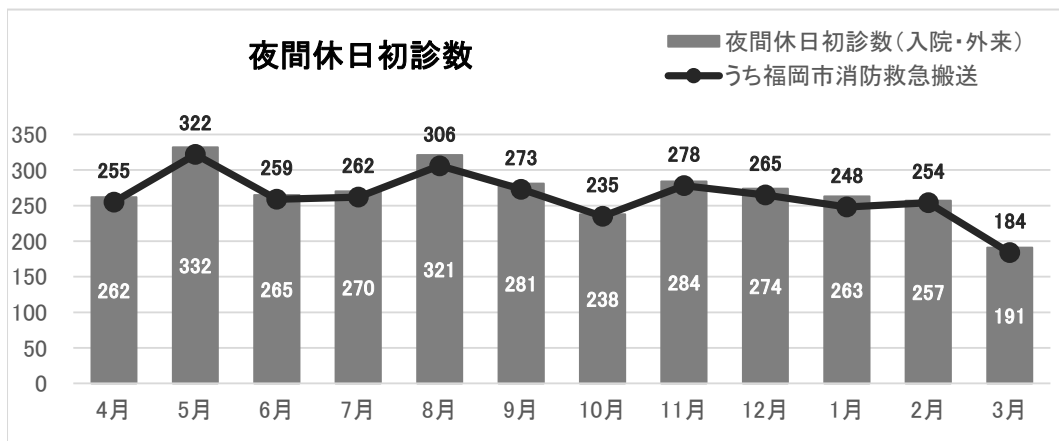
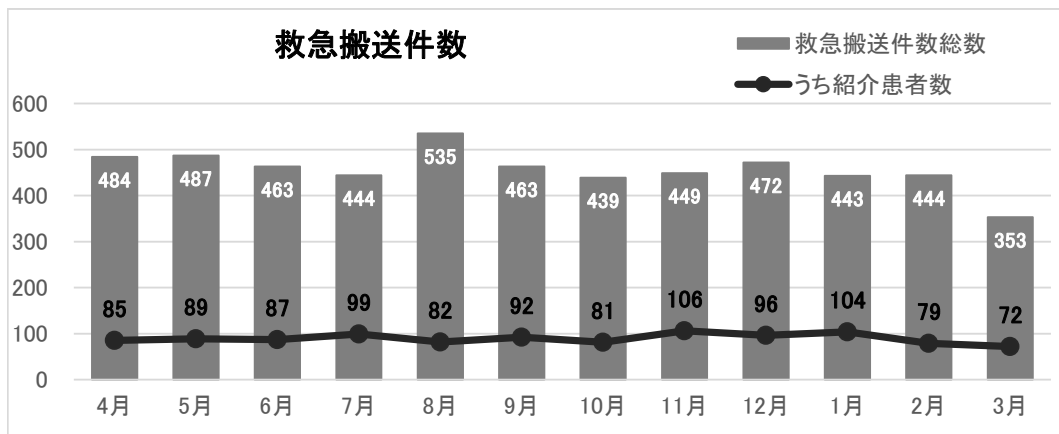
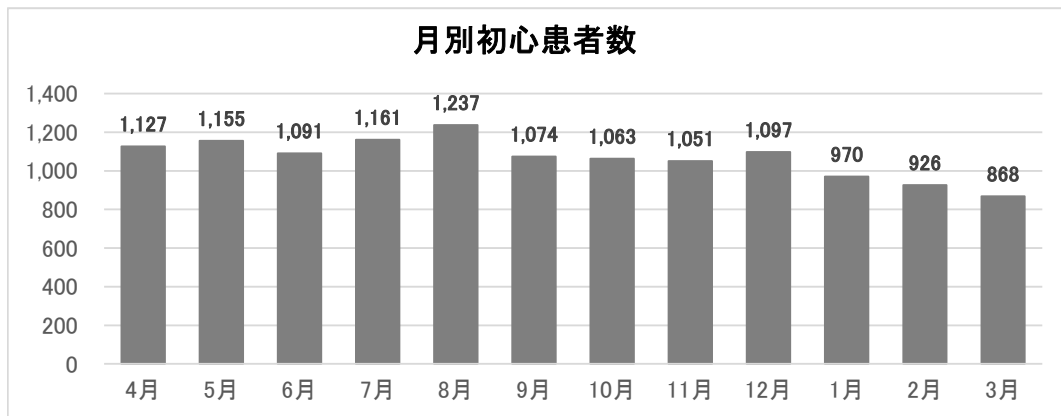
3人操法男子	薬局	關	寛太
	リハビリ	宮本	圭吾
	検査	庄司	薫平
3人操法フリー	南4・5階	辻	二美加
	6階	東	美里
	救急外来	保永	晏寧



医療統計

初診患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均	
総初診数	医科	1,090	1,123	1,060	1,117	1,197	1,049	1,030	1,011	1,059	945	894	841	12,416	1,035
	歯科	37	32	31	44	40	25	33	40	38	25	32	27	404	34
	合計	1,127	1,155	1,091	1,161	1,237	1,074	1,063	1,051	1,097	970	926	868	12,820	1,068
救急搬送件数総数	484	487	463	444	535	463	439	449	472	443	444	353	5,476	456	
うち紹介患者数	409	371	413	472	408	429	432	415	402	352	345	361	4,809	401	
夜間休日初診数(入院・外来)	262	332	265	270	321	281	238	284	274	263	257	191	3,238	270	
うち福岡市消防救急搬送	255	322	259	262	306	273	235	278	265	248	254	184	3,141	262	
夜間・休日ウォークイン	221	523	238	215	240	242	198	204	231	251	172	159	2,894	241	
初診患者数の数	535	505	523	609	618	510	552	516	535	412	426	454	6,195	516	

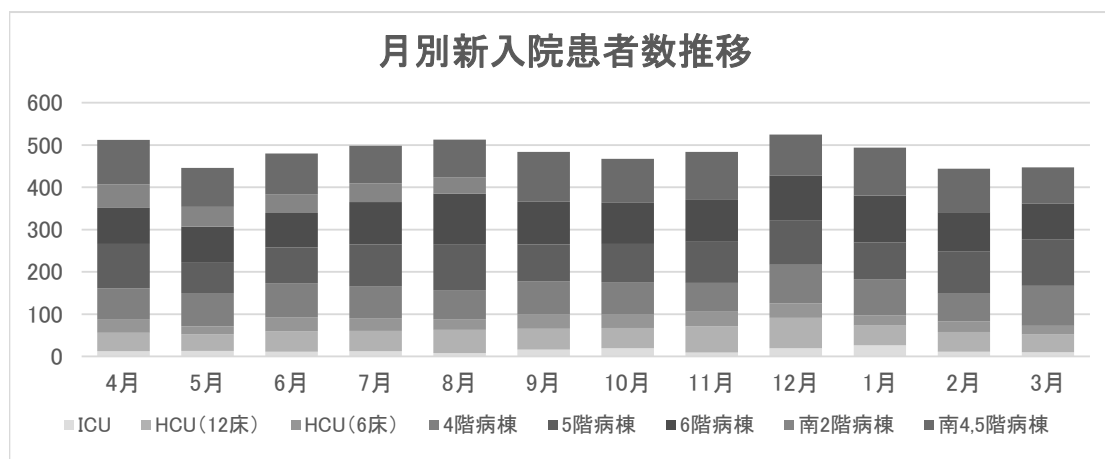


診療科別延外来患者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
		計	新患	再来	計	新患	再来	計	新患	再来	計	新患	再来	計	新患
内科	計	618	577	515	597	594	598	631	597	738	641	580	616	7,302	608.5
	新患	20	30	23	30	48	50	27	38	54	44	40	28	432	36.0
	再来	598	547	492	567	546	548	604	559	684	597	540	588	6,870	572.5
脳神経内科	計	344	317	314	343	328	307	368	315	364	316	315	326	3,957	329.8
	新患	50	33	35	46	32	30	41	28	38	26	24	29	412	34.3
	再来	294	284	279	297	296	277	327	287	326	290	291	297	3,545	295.4
循環器	計	846	814	843	844	863	792	894	779	895	768	773	788	9,899	824.9
	新患	115	110	115	119	123	104	111	101	97	77	89	70	1,231	102.6
	再来	731	704	728	725	740	688	783	678	798	691	684	718	8,668	722.3
心臓血管外科	計	137	149	100	109	59	69	58	43	37	41	23	35	860	71.7
	新患	55	71	24	32	6	9	7	7	5	4	1	5	226	18.8
	再来	82	78	76	77	53	60	51	36	32	37	22	30	634	52.8
小児科	計	95	83	68	51	70	69	51	42	67	32	35	31	694	57.8
	新患	48	48	26	19	36	29	18	12	34	10	7	10	297	24.8
	再来	47	35	42	32	34	40	33	30	33	22	28	21	397	33.1
外科	計	458	487	514	529	583	540	569	573	628	616	565	487	6,549	545.8
	新患	203	223	232	223	268	229	239	243	260	260	226	191	2,797	233.1
	再来	255	264	282	306	315	311	330	330	368	356	339	296	3,752	312.7
呼吸器外科	計	99	95	88	85	85	93	122	124	128	96	94	90	1,199	99.9
	新患	11	9	5	8	15	7	18	9	8	5	8	10	113	9.4
	再来	88	86	83	77	70	86	104	115	120	91	86	80	1,086	90.5
整形外科	計	756	747	809	822	727	719	803	773	816	665	676	770	9,083	756.9
	新患	69	62	63	67	53	63	57	62	48	47	33	47	671	55.9
	再来	687	685	746	755	674	656	746	711	768	618	643	723	8,412	701.0
脳神経外科	計	459	398	352	422	400	375	410	414	412	333	332	331	4,638	386.5
	新患	94	89	78	84	82	69	63	69	67	51	31	24	801	66.8
	再来	365	309	274	338	318	306	347	345	345	282	301	307	3,837	319.8
脊椎・脊髄外科	計	232	214	224	247	264	286	247	243	218	208	194	212	2,789	232.4
	新患	17	12	15	19	17	20	14	12	8	10	11	13	168	14.0
	再来	215	202	209	228	247	266	233	231	210	198	183	199	2,621	218.4
産婦人科	計	104	95	97	134	123	107	118	109	122	105	110	123	1,347	112.3
	新患	17	15	7	24	20	16	21	19	11	15	17	15	197	16.4
	再来	87	80	90	110	103	91	97	90	111	90	93	108	1,150	95.8
皮膚科	計	237	240	229	291	310	258	191	243	200	216	203	234	2,852	237.7
	新患	21	27	23	34	40	14	15	20	9	14	12	16	245	20.4
	再来	216	213	206	257	270	244	176	223	191	202	191	218	2,607	217.3
泌尿器科	計	259	312	282	327	287	345	309	333	276	308	311	288	3,637	303.1
	新患	62	97	88	100	85	124	104	107	86	84	82	78	1,097	91.4
	再来	197	215	194	227	202	221	205	226	190	224	229	210	2,540	211.7
形成外科	計	181	196	141	173	158	141	192	177	180	185	187	152	2,063	171.9
	新患	25	30	20	25	32	28	19	25	22	18	28	12	284	23.7
	再来	156	166	121	148	126	113	173	152	158	167	159	140	1,779	148.3
精神科	計	140	147	138	144	150	137	143	142	127	130	116	125	1,639	136.6
	新患	3	0	1	0	3	1	1	0	0	1	3	0	13	1.1
	再来	137	147	137	144	147	136	142	142	127	129	113	125	1,626	135.5
眼科	計	187	175	160	168	188	141	182	150	139	153	143	139	1,925	160.4
	新患	9	10	3	7	14	7	6	6	9	9	6	5	91	7.6
	再来	178	165	157	161	174	134	176	144	130	144	137	134	1,834	152.8
耳鼻咽喉科	計	384	371	406	362	344	288	331	297	372	271	231	311	3,968	330.7
	新患	46	49	37	52	49	42	46	31	46	29	25	30	482	40.2
	再来	338	322	369	310	295	246	285	266	326	242	206	281	3,486	290.5
放射線科	計	88	56	106	143	106	96	97	120	90	72	101	98	1,173	97.8
	新患	35	41	53	68	52	51	56	40	39	37	40	46	558	46.5
	再来	53	15	53	75	54	45	41	80	51	35	61	52	615	51.3
麻酔科	計	2	3	3	1	9	3	1	2	2	3	1	1	31	2.6
	新患	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	0.2
	再来	2	2	3	1	8	3	1	2	2	3	1	1	29	2.4
救急科	計	234	220	261	230	279	189	196	223	262	231	199	195	2,719	226.6
	新患	171	136	184	160	194	139	147	162	186	175	146	120	1,920	160.0
	再来	63	84	77	70	85	50	49	61	76	56	53	75	799	66.6
歯科	計	204	180	195	209	190	177	235	243	235	171	182	167	2,388	199.0
	新患	37	32	31	44	40	25	33	40	38	25	32	26	403	33.6
	再来	167	148	164	165	150	152	202	203	197	146	150	141	1,985	165.4
合計	計	6,064	5,876	5,845	6,231	6,117	5,730	6,148	5,942	6,308	5,561	5,371	5,519	70,712	5,892.7
	新患	1,108	1,125	1,063	1,161	1,210	1,057	1,043	1,031	1,065	941	861	775	12,440	1,036.7
	再来	4,956	4,751	4,782	5,070	4,907	4,673	5,105	4,911	5,243	4,620	4,510	4,744	58,272	4,856.0

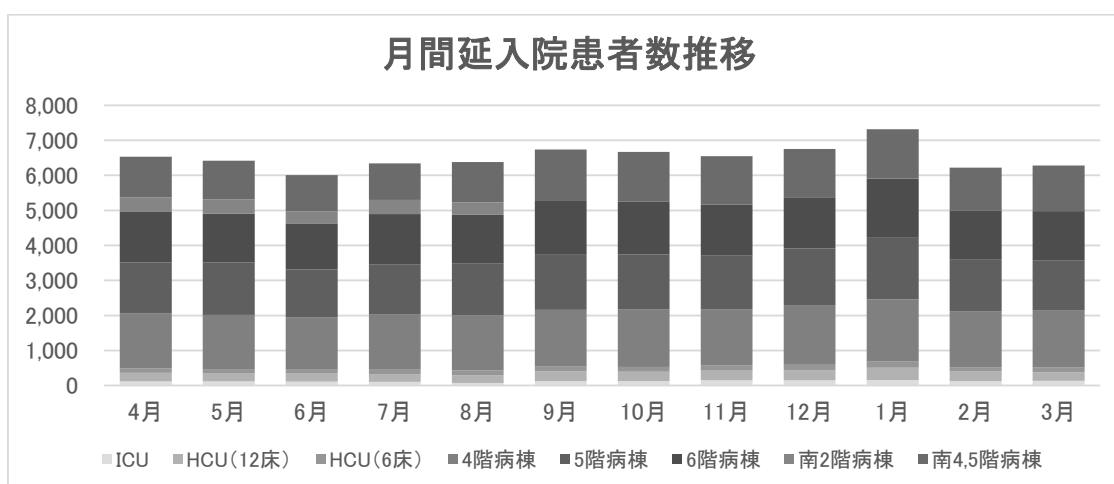
病棟別新入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ICU	12	13	11	12	8	16	19	9	19	26	11	10	166
HCU (12床)	44	39	48	48	55	49	48	62	72	47	47	43	602
HCU (6床)	31	19	33	29	25	35	32	35	34	24	25	19	341
4階病棟	74	79	81	76	69	77	77	68	92	86	67	95	941
5階病棟	105	73	85	100	107	88	90	97	104	87	98	109	1143
6階病棟	85	84	81	100	121	101	97	99	107	110	93	86	1164
南2階病棟	56	47	44	44	39								230
南4,5階病棟	105	92	97	89	89	118	104	114	97	114	103	85	1207
合計	512	446	480	498	513	484	467	484	525	494	444	447	5794



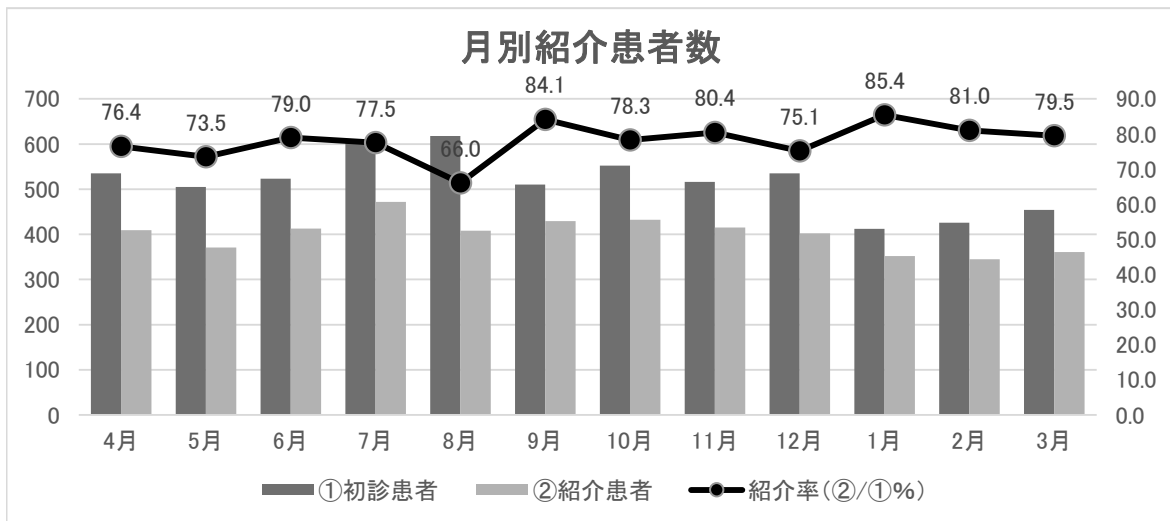
病棟別延入院患者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
ICU	122	121	116	110	78	128	130	151	150	158	131	136	1,531
HCU (12床)	243	222	229	219	216	286	265	274	289	353	269	244	3,109
HCU (6床)	122	129	128	145	140	140	141	147	153	174	127	148	1,694
4階病棟	1,565	1,546	1,468	1,564	1,576	1,610	1,632	1,596	1,709	1,771	1,598	1,629	19,264
5階病棟	1,459	1,491	1,377	1,428	1,470	1,589	1,579	1,538	1,616	1,760	1,481	1,421	18,209
6階病棟	1,463	1,392	1,308	1,433	1,392	1,541	1,502	1,463	1,461	1,690	1,396	1,402	17,443
南2階病棟	399	413	342	400	356								1,910
南4,5階病棟	1,163	1,106	1,042	1,046	1,150	1,447	1,422	1,375	1,372	1,410	1,216	1,298	15,047
合計	6,536	6,420	6,010	6,345	6,378	6,741	6,671	6,544	6,750	7,316	6,218	6,278	78,207



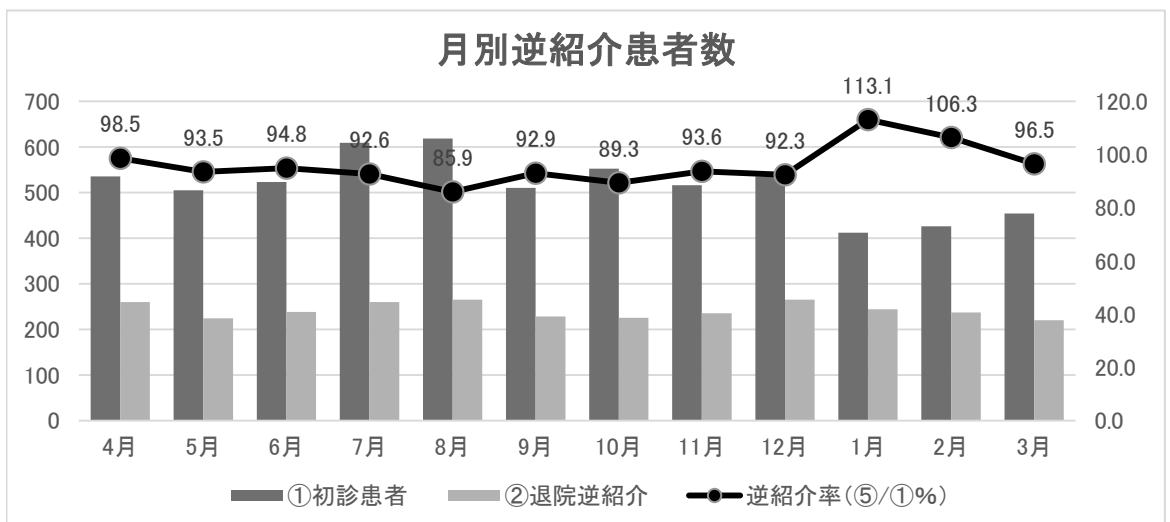
紹介患者

(病院のみ)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
①初診患者	535	505	523	609	618	510	552	516	535	412	426	454	6195	516
②紹介患者	409	371	413	472	408	429	432	415	402	352	345	361	4809	401
紹介率(②/①%)	76.4	73.5	79.0	77.5	66.0	84.1	78.3	80.4	75.1	85.4	81.0	79.5	78.0	78.0



逆紹介患者数

(病院のみ)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平均
①初診患者	535	505	523	609	618	510	552	516	535	412	426	454	6,195	516
②退院逆紹介	260	224	238	260	265	228	225	235	265	244	237	220	2,901	242
③地域連携加算	16	9	18	6	6	8	13	13	18	14	16	5	142	12
④外来逆紹介	251	239	240	298	260	238	255	235	211	208	200	213	2,848	237
⑤合計(②+③+④)	527	472	496	564	531	474	493	483	494	466	453	438	5,891	491
逆紹介率(⑤/①%)	98.5	93.5	94.8	92.6	85.9	92.9	89.3	93.6	92.3	113.1	106.3	96.5		95.8



編集後記

皆様に無事令和元年度（平成31年度）の年報がお送りできることに感謝いたします。

昨年、平成の元号が改まり令和の世が始まりました。これを機会として長い歴史に幕を下ろした老舗もあり、時代の変わり目を感じる年でした。その一方で、新たな飛躍の始まりの年ととらえた組織も個人も少なからずあったと思います。

当院におきましては、令和2年4月1日をもって上野高史院長が着任しました。

あいにくと新年度早々新型コロナウイルス肺炎への対応で病院全体が忙殺されましたが、5月下旬には病院として収束を見ることができました。その間、患者様、連携病院施設の皆様には多大なるご迷惑をおかけいたしました。一方で、応援の言葉も多く頂きました。

この場を借りて、皆様にお詫びと感謝の言葉を述べさせていただきます。この編集後記を記載している現在は、上野院長の新体制の下、福岡記念病院が再始動したところです。

令和元年度（平成31年度）の救急搬送件数は5476例でした。5500例を超えた平成30年度より若干減少しました。全体数としては、済生会病院、福岡記念病院、九州中央病院がほぼ同じ件数のようです。

令和2年3月以降は新型コロナウイルス肺炎の影響で激減しましたが、当院の柱であるのは救急医療です。早々と巻き返しを図ることで地域医療に貢献をしたいと考えています。連携病院施設の皆様には何卒お力を頂きたく、お願い申し上げます。

最後に精魂傾けて原稿整理を下さった総務の江田さん、医局の本多さん、データを提供いただく診療情報室の横田さん、いつもありがとうございます。

病院年報編集委員長 石岡 久和

追記：本年度より病院年報編集委員長を太田勇司先生から石岡が引き継ぎました。

太田勇司先生、これまでのご尽力に感謝いたします。

2019年 社会医療法人大成会年報

発行：令和2年10月

編集・印刷：年報編集委員

委員長 石岡 久和

委員 横田 由美子

本多 佳奈子

江田 哲次